

令和6年度

病虫害発生予察事業年報

和歌山県農作物病虫害防除所

# 目 次

I. 事業目的	1
II. 事業実施方針	1
III. 対象病害虫の種類	1
IV. 職員	4
V. 病害虫発生予察情報の提供等	
1. 発生予察情報の一覧	5
2. 病害虫の診断・同定の件数	107
VI. 病害虫の発生経過の概要	108
VII. 作物病害虫の発生状況調査	
1. 水稻の生育概況	114
2. 予察ほ場などにおける定点調査	116
3. 水稻巡回ほ場調査	117
1) 圃場における病害虫の発生状況	118
2) 主要病害虫の発生程度別面積	132
4. 予察灯・フェロモントラップ等による水稻主要害虫の誘殺状況	138
VIII. 野菜病害虫の発生状況調査	
1. 巡回調査における発生状況	144
2. フェロモントラップによる鱗翅目害虫の誘殺状況	152
3. 黄色水盤によるアブラムシ類の飛来状況	157
IX. 果樹病害虫の発生状況調査	
1. 予察ほ場などにおける調査	158
2. 巡回調査結果	178

## 【用語説明】

○平年（平年値）：過去10年の平均。ここでは平成26年から令和5年の平均を示す。

# 令和6年度病害虫発生予察事業年報

## I. 事業目的

農業生産の安定的発展と生産物の品質向上を図るため、指定有害動植物及び指定有害動植物以外の有害動植物（以下、「病害虫」という）について、その繁殖、気象、農作物の生育状況等を調査し、病害虫の発生とそれによる損害を予測し、適期適正な防除実施に必要な情報を関係機関等に提供することを目的とする。

## II. 事業実施方針

病害虫発生予察事業の調査実施基準に基づいて、その目的、性質等を考慮して設置された県予察ほ場、地区予察ほ場及び害虫誘殺施設等による定点調査のほか、一般ほ場における巡回調査を実施し、定期または適期に関係機関等に発生予察情報を提供して、適切な防除の推進を図る。その他、県内で問題となる病害虫や侵入病害虫、新規発生病害虫に関する調査および情報提供なども実施する。

## III. 対象病害虫の種類

作物名	対象病害虫
水 稲	(指 定) いもち病、紋枯病、縞葉枯病、もみ枯細菌病、ばか苗病、稲こうじ病、白葉枯病、ごま葉枯病、ヒメトビウンカ、トビイロウンカ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、ニカメイガ、コブノメイガ、フタオビコヤガ、斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、ミナミアオカメムシ、シラホシカメムシ、トゲシラホシカメムシ、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、イネカメムシ）、イネミズゾウムシ  (指定外) 萎縮病、内穎褐変病、疑似紋枯病、イチモンジセセリ、イネゾウムシ、イナゴ類、イネシンガレセンチュウ、スクミリンゴガイ
キャベツ	(指 定) 黒腐病、菌核病、アブラムシ類（ニセダイコンアブラムシ、モモアカアブラムシ）、コナガ、ハスモンヨトウ、ヨトウガ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ、モンシロチョウ  (指定外) ベと病、灰色かび病、軟腐病、ハイマダラノメイガ、ウワバ類
ハクサイ	(指定外) ベと病、黒斑病、軟腐病、白斑病
タマネギ	(指 定) 白色疫病、ベと病  (指定外) ボトリチス属菌による葉枯病、軟腐病、さび病
スイカ	(指 定) アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、シロイチモジヨトウ  (指定外) つる枯病、うどんこ病、疫病、炭疽病、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマ）
キュウリ	(指 定) ベと病、うどんこ病、灰色かび病、褐斑病、炭疽病、斑点細菌病、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマ）、アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、コナジラミ類（オンシツコナジラミ、タバココナジラミ）、ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）

作物名	対 象 病 害 虫
キュウリ	(指定外) 疫病、モザイク病、黄化えそ病
ナス	(指 定) うどんこ病、すすかび病、灰色かび病、アブラムシ類(ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)、ハダニ類 (ナミハダニ、カンザワハダニ) 、アザミウマ類 (ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマ) 、ハスモンヨトウ、オオタバコガ (指定外) モザイク病、疫病
トマト ミニトマト	(指 定) うどんこ病、黄化葉巻病、灰色かび病、葉かび病、疫病、すすかび病、アブラムシ類 (モモアカアブラムシ) 、コナジラミ類 (オンシツコナジラミ、タバココナジラミ) 、オオタバコガ、ハスモンヨトウ (指定外) モザイク病、ハモグリバエ類、ハダニ類
エンドウ	(指 定) シロイチモジヨトウ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ヨトウガ (指定外) 褐紋病、褐斑病、うどんこ病、灰色かび病、つる枯細菌病、ウラナミシジミ、ナモグリバエ、ハモグリバエ類、アブラムシ類 (マメアブラムシ、エンドウヒゲナガアブラムシ) 、ウワバ類、ハダニ類 (ナミハダニ、カンザワハダニ)
イチゴ	(指 定) 灰色かび病、うどんこ病、アブラムシ類 (ワタアブラムシ) 、ハダニ類 (ナミハダニ、カンザワハダニ) 、アザミウマ類 (ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ) 、コナジラミ類 (タバココナジラミ、オンシツコナジラミ) 、ハスモンヨトウ
カンキツ	(指 定) かいよう病、黒点病、そうか病、アザミウマ類 (チャノキイロアザミウマ) 、アブラムシ類 (ワタアブラムシ、ミカシクロアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ) 、ハダニ類 (ミカンハダニ) 、果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ) (指定外) 灰色かび病、褐色腐敗病、青・緑かび病、ミカンサビダニ、カイガラムシ類 (ヤノネカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ) 、ロウムシ類 (ツノロウムシ、ルビーロウムシ) 、ゴマダラカミキリ、ミカンハモグリガ
キウイフ フルーツ	(指 定) かいよう病
カキ	(指 定) 炭疽病、アザミウマ類 (チャノキイロアザミウマ、カキクダアザミウマ) 、カイガラムシ類 (フジコナカイガラムシ) 、カキノヘタムシガ、ハマキムシ類 (チャハマキ、チャノコカクモンハマキ) 、果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ) (指定外) うどんこ病、灰色かび病、角斑落葉病、円星落葉病、落葉病、すす点病、コガシラアワフキ
モモ	(指 定) せん孔細菌病、ハダニ類 (クワオオハダニ、ナミハダニ、カンザワハダニ) 、シンクイムシ類 (ナシヒメシンクイ、モモノゴマダラノメイガ、モモシンクイガ) 、果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ) (指定外) 黒星病、灰星病、アブラムシ類 (モモアカアブラムシ、モモコフキアブラムシ) 、モモハモグリガ、コスカシバ、カイガラムシ類 (ウメシロカイガラムシ、クワシロカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ)

作物名	対象病虫害
ウメ	(指定) かいよう病、黒星病、果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ) (指定外) すず斑病、アブラムシ類 (ムギワラギクオマルアブラムシ)、ウメシロカイガラムシ、コスカシバ
ブドウ	(指定) 果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)

#### IV. 職員

区 分	所 在 地	職 名	氏 名
本 所	和歌山県紀の川市貴志川町高尾 160 (農業試験場内) TEL 0736(64)2300 FAX 0736(65)2016	所 長 主 任 主 任 主 任 主 査 主 査 副主査 技 師	島 浩二 久田 紀夫 岡本 崇 菱池 政志 岡本 晃久 中野 沙織 菅野 伸哉 南方 千景
有田川 駐在	和歌山県有田郡有田川町奥 751-1 (果樹試験場内) TEL 0737(52)4320 FAX 0737(53)2037	主 任 主 任 副主査 副主査	播磨 真志 衛藤 夏葉 直川 幸生 下村 友季子
紀の川 駐在	和歌山県紀の川市粉河 3336 (果樹試験場かき・もも研究所内) TEL 0736(73)2274 FAX 0736(73)4690	主 任 主 任 主 査 主 査	井口 雅裕 大谷 洋子 貴志 学 弘岡 拓人
みなべ 駐在	和歌山県日高郡みなべ町東本庄 1416-7 (果樹試験場うめ研究所内) TEL 0739(74)3780 FAX 0739(74)3790	主 任 主 任 技 師 技 師	土田 靖久 井沼 崇 裏垣 翔野 向日 春輔

# ・病害虫発生予察情報の提供等

## 1. 発生予察情報の一覧

### 1) 特殊報

令和6年7月22日

令和6年度病害虫発生予察特殊報（第1号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：タマネギえそ条斑病
2. 病原ウイルス：アイリスイエロースポットウイルス (*Iris yellow spot virus*: IYSV)
3. 作物名：タマネギ
4. 発生地域：紀の川市、有田市
5. 発生確認の経過および県内外での発生状況

令和6年4月、紀の川市のタマネギ栽培ほ場において、葉に紡錘型のえそ条斑が確認された（写真1）。病害虫防除所においてRIPA法（イムノクロマト）およびRT-PCR法による検定を行った結果、IYSVによるタマネギえそ条斑病であることが確認された。また、同年5月、有田市のタマネギ栽培ほ場においても紀の川市のタマネギと同様の症状が認められ、RIPA法による検定を行ったところ、本病であることが確認された。

本ウイルス（IYSV）による病害は、平成8年に千葉県のアルストロメリアで初確認されて以降、全国30以上の都府県のタマネギ、ネギ、トルコギキョウ、テッポウユリなど様々な作物で発生が確認されている。過去、近隣では大阪府のタマネギ、京都府のネギ、トルコギキョウ、兵庫県のネギ、タマネギ、トルコギキョウ、テッポウユリ、滋賀県のネギ、トルコギキョウでの発生が報告されている。本県ではトルコギキョウへの感染（トルコギキョウえそ輪紋病）が確認され、平成21年3月に特殊報を発表している。

### 6. 病徴および被害

被害株の病徴は、はじめ葉身に紡錘型のえそ条斑を呈し、病勢が進行すると病斑が癒合拡大し、葉が萎凋・枯死することがある。枯死する葉身が見られる状況になると、生育および鱗茎の肥大が抑制される場合がある。

### 7. 病原ウイルスの性質および伝染

- 1) 本ウイルスはトスポウイルス属に属し、17科40種以上の植物でIYSVの感染が確認されており、ネギ、タマネギ、ニラ等のヒガンバナ科野菜や、トルコギキョウ、アルストロメリア等の花き類で被害が大きい。
- 2) 本ウイルスはネギアザミウマ（写真2、3）が媒介し、他のアザミウマによる伝搬は確認されていない。幼虫が感染植物を吸汁することによって本ウイルスを獲得し、保毒幼虫が成虫になるとウイルスを媒介する。媒介虫は一度ウイルスを保毒すると終生伝搬能力を保持する（永続伝搬）が、経卵伝染はしない。また、本ウイルスは種子伝染や土壌伝染はせず、管理作業による汁液伝染の可能性も低いとされている。

### 8. ネギアザミウマの生態

世界中に分布し、日本においても普遍的に分布する。成虫の体長は1.1～1.6mm、体色は淡黄色～黒褐色で、一般に低温期は褐色または黒褐色の個体が多い。幼虫は黄色また

は淡褐色である。発育は非常に早く、卵から成虫までの期間は 20℃では 20 日、25℃では 16～17 日である。秋植えのタマネギでの冬期の発生は少ないが、4 月～5 月に多くなる。

## 9. 防除対策

- 1) 媒介虫であるネギアザミウマの早期発見・早期防除に努め、本虫の発生初期に薬剤散布を実施する(表)。なお、薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- 2) 苗を介したほ場への持込みを防ぐため、育苗床でのネギアザミウマの防除を徹底する。
- 3) 発病株は病原ウイルスの伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、袋に密閉してほ場外へ持ち出し、適切に処分する。
- 4) ほ場内外の雑草や収穫後の残さは、ネギアザミウマの生息・増殖場所になるとともに、病原ウイルスの伝染源になる場合がある。ほ場内外の除草を徹底し、収穫後の残さは放置せずに土中深くすき込む等、速やかに処分する。

表 タマネギ ネギアザミウマの登録薬剤例 (※はアザミウマ類で登録)

薬剤名 (有効成分)	系統 (IRAC)	希釈倍率	使用液量	使用時期 / 使用回数	使用方法	同一有効成分を含む農薬の総使用回数
ランネート 45DF (メソミル)	カーバメート系 (1A)	1000～2000 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前まで / 4 回以内	散布	4 回以内
※トクチオン乳剤 (プロチオホス)	有機リン系 (1B)	1000 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前まで / 4 回以内	散布	4 回以内
※モスピラン顆粒水溶剤 (アセタミプリド)	ネオニコチノイド系 (4A)	2000 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前まで / 3 回以内	散布	3 回以内
※バダン SG 水溶剤 (カルタップ塩酸塩)	ネライストキシン類縁体 (14)	1500 倍	100～300L/10a	収穫前日まで / 3 回以内	散布	3 回以内
※グレーシア乳剤 (フルキサメタミド)	イソオキサゾリン系 (30)	2000～3000 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前まで / 2 回以内	散布	2 回以内

○防除薬剤は、最新の登録情報 (農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp>) を参照し、適正に使用する。



【写真1】タマネギ栽培ほ場における発病株（紡錘状のえそ状斑）



【写真2】タマネギにおけるネギアザミウマの寄生状況



【写真3】ネギアザミウマ成虫

和歌山県農作物病害虫防除所  
電話：0736(64)2300

令和6年9月4日

令和6年度病害虫発生予察特殊報（第2号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：トルコギキョウ白さび病（仮称）
2. 病原菌：*Pustula centaurei*
3. 作物名：トルコギキョウ（施設栽培）
4. 発生地域：紀の川市
5. 発生確認の経過および県内外での発生状況

令和6年6月、紀の川市のトルコギキョウ栽培ほ場において、葉および茎に白色～乳白色の斑点が生じている株が確認された（図1、2）。農林水産省神戸植物防疫所に診断を依頼したところ、本県では未発生のトルコギキョウ白さび病（仮称）であることが確認された。本病は平成29年に山口県で初めて確認され、令和元年に広島県において確認されている。

6. 病徴および被害

トルコギキョウの茎葉に、白色～乳白色の隆起した斑点（発疱）が生じる。斑点は、輪紋状に形成される場合がある。やがて斑点の表皮が破れ、白色粉状の分生子のうが露出して飛散する。斑点周辺の組織内には卵胞子が認められる。分生子のうは無色透明、直方体に近く、角は丸い（図3）。卵胞子はほぼ球形で、表面に網目と突起を有する。未熟な卵胞子は、薄い黄褐色～琥珀色で、成熟した卵胞子は暗褐色である（図4）。

7. 病原菌の性質および伝染

本病原菌の宿主は、リンドウ科植物（海外でトルコギキョウ、ベニバナセンブリ等）が報告されている。

8. 防除対策

- 1) ほ場をよく見回り早期発見に努め、発生を確認した場合は、罹病した茎葉を速やかに除去し、ほ場外に持ち出して、焼却するか土中深くに埋めるなどして適切に処理する。また、栽培終了後のほ場内における残渣も、罹病した茎葉と同様の方法で速やかに処理する。
- 2) 本病に登録されている薬剤はない。



図1 葉の病徴



図2 茎の病徴



図3 分生子のう

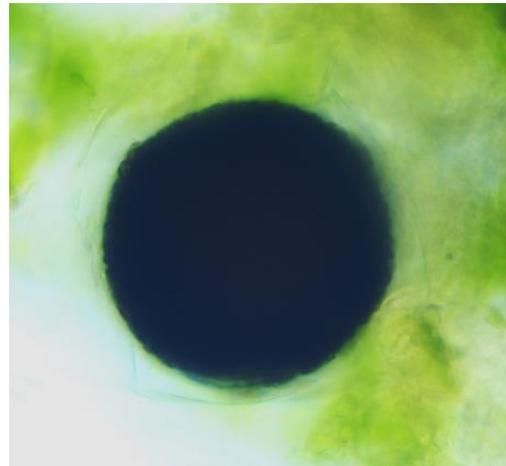


図4 成熟卵胞子

和歌山県農作物病害虫防除所  
電話：0736(64)2300

令和6年10月25日

令和6年度病害虫発生予察特殊報（第3号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：ミナミトゲヘリカメムシ *Paradasynus spinosus* Hsiao
2. 作物名：カンキツ、カキ
3. 発生地域：日高郡由良町（カンキツ）、紀の川市（カキ）
4. 発生確認の経過および県内外での発生状況

令和6年9月、由良町のウンシュウミカンほ場において写真8のカメムシが多数発生する状況が確認された。このカメムシは果実を吸汁しており、加害された果実では異常着色や落果が確認された（写真1、2）。健全なウンシュウミカン果実に捕獲した本虫を放虫したところ、現地と同様の被害が再現された（写真3）。そこで、和歌山県立自然博物館に同定を依頼したところ、ミナミトゲヘリカメムシであることが確認された。また、令和6年6月、紀の川市のカキほ場において本虫と思われるカメムシによる「平核無」、「富有」の幼果への加害が確認されていた（写真4、5、6）。

本虫は南方系のカメムシで沖縄県ではシークワサーの主要害虫であるが、近年分布を北上させており、九州では昭和48年以降、鹿児島県、佐賀県、福岡県、長崎県で、九州・沖縄地方以外では平成17年に三重県、令和5年に愛媛県でカンキツやカキ果実への加害が報告されている。

5. 本種の特徴

1) 形態

体長 16~23mm の細長い大型のカメムシで、オオクモヘリカメムシに似る。前胸部の側角が鋭くとがり（写真8の円内）、背面は褐色、腹面は淡黄緑色である。

2) 生態

詳しい生態は不明だが、沖縄県のカンキツでの発生ピークは年間2回である。

3) 寄主植物

栽培作物以外での寄主植物はシロモジ、クスノキ等のクスノキ科植物である。

4) 被害

ウンシュウミカンでは、他の果樹カメムシ類と同様、果実が異常着色、落果し（写真2、3）、被害果実には口針鞘が確認される。果皮に近い果肉部にす上がりのような症状が発生する（写真7）。

カキでは、果頂部に被害が集中することが特徴である（写真4）。加害された幼果はその部位が黒褐色となり落果する。被害部位がえぐれたように深く凹む場合も

ある（写真5、6）。

他県ではスモモ、アボカドへの加害も報告されている。

## 6. 防除対策

本種の発生が確認された場合、カメムシ類に適用のある薬剤を用いて防除を行う。



写真1 ウンシュウミカン果実を加害する成虫



写真2 落果したウンシュウミカン果実



写真3 異常着色したウンシュウミカンの果実と落果痕（矢印）



写真4 カキ果頂部を加害する成虫



写真5 被害部が褐変したカキ「平核無」の幼果



写真6 落果したカキ「富有」の幼果

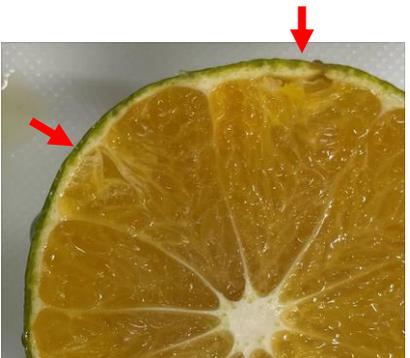
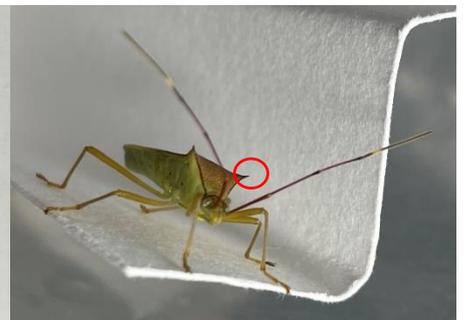


写真7 ウンシュウミカン被害果実のす上がりのような症状



写真8 ミナミトゲヘリカメムシ成虫の形態



和歌山県農作物病虫害防除所

有田川駐在（電話：0737-52-4320）

紀の川駐在（電話：0736-73-2274）

令和6年11月29日

令和6年度病害虫発生予察特殊報（第4号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：キクビスカシバ *Nokona feralis* (Leech)
2. 作物名：キウイフルーツ
3. 発生地域：県北部および県中部
4. 発生確認の経過および県内外での発生状況

令和6年6月、有田郡湯浅町のキウイフルーツにおいて新梢（1年生枝）にチョウ目の幼虫が食入し、フラス（虫糞と木くずが混ざったもの）が発生する被害が確認された。被害樹より幼虫を採集し（写真1）、和歌山県立自然博物館に同定を依頼したところ、スカシバ類であることが明らかになった。キウイフルーツのスカシバ類の害虫としてキクビスカシバが疑われたため、8月下旬～10月上旬に県北部（伊都郡かつらぎ町、紀の川市、海南市）及び県中部（有田市、有田郡湯浅町）のキウイフルーツ栽培ほ場にキクビスカシバのフェロモントラップ※を設置した結果、有田市を除く2市2町でスカシバ類の雄成虫が誘殺された（写真2）。トラップに誘殺された個体を鳥取大学農学部の中秀司准教授に同定依頼した結果、本県のキウイフルーツでは未確認のキクビスカシバと診断された。

なお、本種は日本在来の昆虫であり、自生するマタタビ科マタタビ属植物で本県でも元々発生していたと考えられる。

本種のキウイフルーツでの発生は福岡県（平成16年）、愛媛県および佐賀県（平成23年）、長崎県（平成24年）、東京都（平成29年）、栃木県および茨城県（令和元年）、大分県（令和3年）、岐阜県（令和4年）で報告されている。

※フェロモンルアーは鳥取大学の中准教授から提供いただいた。

5. 本種の特徴

- 1) 形態

成虫は開張 30～40 mm（雄）、38～45 mm（雌）である。前翅は赤褐色、後翅は透明で、頭部、胸部、腹部は全体的に黒色であり、腹部第2、4節に黄色の帯がある（写真2）。卵は長径約1mmの平たい円盤状で小豆色をしており、中心部がややくぼんだ形状をしている。終齢幼虫の体長は約40mm、頭部及び前胸背板は赤褐色、腹部は淡い桃紫色をしている。

- 2) 生態

成虫は9月上旬頃から年1回発生する。産卵部位は葉柄基部が多い。卵で越冬し、幼虫は4月頃にふ化し、新梢に食入する。蛹化は枝の内部で行われ、羽化時には蛹殻

が半分表面に出た格好で残る（写真3）。

### 3) 寄主植物

マタタビ科マタタビ属の植物。キウイフルーツの他に自生するミヤママタタビやサルナシも寄主植物としての記録がある。

### 4) 被害

卵からふ化した幼虫は、新梢の葉柄基部から食入するケースが多く、食入部位の葉は枯死する。また、食入部位によっては新梢全体が枯死したり、枯死しない場合でも新梢の伸長や葉色が悪くなる。6月下旬には幼虫の食入部位からフラスが排出されるため（写真4）、これを目印に幼虫が食入している部位が特定できる。

## 6. 防除対策

本種の被害枝を確認した場合は除去する。被害が目立つ場合は、適用のある農薬（フェニックスフロアブル、アグロスリン乳剤）を幼虫のふ化時期に散布する。また、成虫の発生時期に交尾かく乱剤（スカシバコンL）を枝に巻き付け、成虫の交尾を阻害する。

なお、農薬の使用にあたっては、必ず最新の情報を確認し、使用基準を遵守する。



写真1 被害樹より採集された幼虫



写真2 トラップに誘殺された雄成虫



写真3 被害樹に残された蛹殻



写真4 被害枝から排出されたフラス  
(栃木県農業総合研究センター提供)

和歌山県農作物病虫害防除所  
紀の川駐在（電話：0736-73-2274）

## 2) 注意報

令和6年4月25日

### 令和6年度病害虫発生予察注意報（第1号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
2. 対象作物：ウメ、モモ、スモモ、カキ、カンキツ
3. 対象地域：県内全域
4. 発生量：多
5. 加害期間：4月下旬～
6. 注意報発表の根拠

チャバネアオカメムシについては3月28日付けで令和5年度病害虫防除技術情報（第4号）を発表したところであるが、その後も以下のとおりチャバネアオカメムシを含む果樹カメムシ類の多発傾向が継続している。

- 1) 紀の川市粉河の予察灯における4月1～20日の誘殺数はチャバネアオカメムシが13頭（平成1.3頭）、ツヤアオカメムシが23頭（同2.1頭）であった（表1）。
  - 2) 有田川町奥の予察灯における4月1～20日の誘殺数はチャバネアオカメムシが25頭（平成0.9頭）、ツヤアオカメムシが51頭（同1.2頭）であった（表2）。
  - 3) みなべ町東本庄の予察灯における4月1～20日の誘殺数はチャバネアオカメムシが5頭（平成1.4頭）、ツヤアオカメムシが150頭（同22.0頭）であった（表3）。
  - 4) 令和6年4月18日付気象庁発表の1か月予報（4/20～5/19）では、近畿地方の平均気温は高い確率が80%とされており、果樹カメムシ類の飛来が急増すると予想される。
7. 防除上の注意事項
    - 1) 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きいので、ほ場内での発生及び被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
    - 2) 山林に隣接するほ場はカメムシ類の飛来時期が早いので、ほ場内での発生状況を観察して早めに防除する。ウメでは被害の品種間差が大きく、小梅類等の収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるので、特に注意が必要である。カンキツでは蕾、花が加害されるので、被害状況を観察して防除する。

- 3) 今後の発生動向については、農林水産部鳥獣害対策課のウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報  
 (<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html>) や各地域の振興局、JA等の情報を参考にする。
- 4) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp>）を参照し、適正に使用する。

表1 紀の川市粉河の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺数（頭）

		チャバネアオカメムシ			ツヤアオカメムシ		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年
4月	1～5日	0	0	0	0	0	0.1
	6～10日	0	0	0	0	0	0
	11～15日	0	0	1.1	6	0	1.9
	16～20日	13	0	0.2	17	0	0.1
	21～25日	—	0	1.8	—	0	3.1
	26～30日	—	0	3.8	—	3	8.4

—は未調査

表2 有田川町奥の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺数（頭）

		チャバネアオカメムシ			ツヤアオカメムシ		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年
4月	1～5日	0	0	0	3	0	0.2
	6～10日	0	0	0.1	0	0	0.2
	11～15日	5	0	0.4	6	0	0.2
	16～20日	20	0	0.4	42	0	0.6
	21～25日	—	0	0.2	—	0	2.7
	26～30日	—	1	2.8	—	3	7.5

—は未調査

表3 みなべ町東本庄の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺数（頭）

		チャバネアオカメムシ			ツヤアオカメムシ		
		本年	前年	平年	本年	前年	平年
4月	1～5日	1	0	0	19	0	1.5
	6～10日	0	1	0.1	18	0	0.9
	11～15日	0	0	0.4	8	2	14.8
	16～20日	4	3	0.9	105	14	4.8
	21～25日	—	1	15.6	—	8	84.2
	26～30日	—	0	18.3	—	4	118.9

—は未調査

和歌山県農作物病害虫防除所 紀の川駐在 (0736-73-2274)  
 有田川駐在 (0737-52-4320)  
 みなべ駐在 (0739-74-3780)

令和6年6月21日

令和6年度病害虫発生予察注意報（第2号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
2. 対象作物：カキ、モモ、スモモ、キウイフルーツ、ナシ、ブドウなど
3. 対象地域：県内全域
4. 発生量：多
5. 加害期間：4月下旬～
6. 注意報発表の根拠

果樹カメムシ類の発生が多く、4月25日付けで令和6年度病害虫発生予察注意報（第1号）、5月29日付けで病害虫防除技術情報（第3号）を発表したところであるが、その後も以下のとおり多発している。

- 1) 紀の川市粉河の予察灯における6月1～15日の誘殺数はチャバネアオカメムシが1,858頭（平年95頭）、ツヤアオカメムシが3,079頭（同184頭）であった（図1）。これらの数値は過去10年で最大である。
- 2) 有田川町奥の予察灯における6月1～15日の誘殺数はチャバネアオカメムシが3,795頭（平年123頭）、ツヤアオカメムシが2,077頭（同184頭）であった（図2）。これらの数値は過去10年で最大である。
- 3) みなべ町東本庄の予察灯における6月1～15日の誘殺数はチャバネアオカメムシが1,252頭（平年288頭）、ツヤアオカメムシが2,507頭（同1,041頭）であった（図3）。これらの数値は過去10年で最大である。

7. 防除上の注意事項

- 1) 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きく、山林隣接ほ場では被害が出やすい傾向がある。また、カキでは「富有」で被害が大きいため、特に注意が必要である。
- 2) モモやスモモでは収穫期の防除となるので、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意する。使用時期が「収穫前日まで」となっている薬剤の場合、収穫は散布から24時間以上経過してから開始する。

- 3) モモは袋がけを行っていても果実が肥大して袋に密着すると袋の上から吸汁されるので、園内の発生状況をよく観察し、発生があれば薬剤散布を行う。除袋後は特に注意が必要である。
- 4) 今後の発生動向については、農林水産部鳥獣害対策課のウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報  
<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html> や各地域の振興局、JA 等の情報を参考にする。
- 5) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp>）を参照し、適正に使用する。

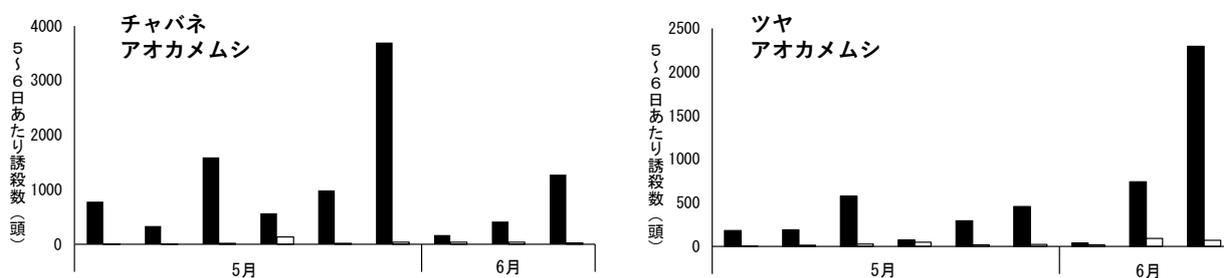


図1 紀の川市粉河の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺消長（■本年、□平均）

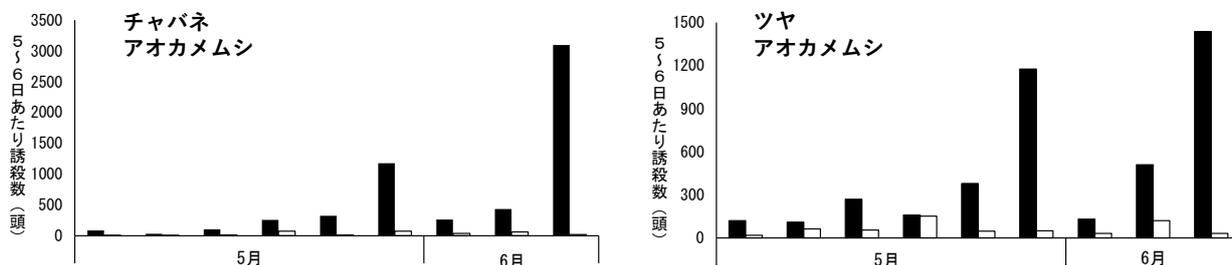


図2 有田川町奥の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺消長（■本年、□平均）

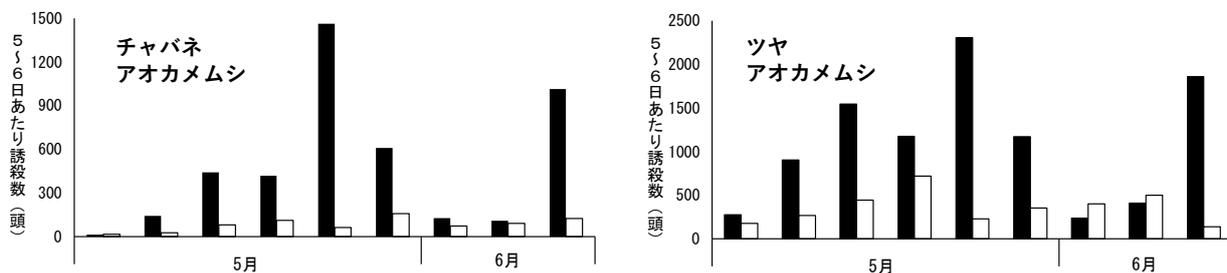


図3 みなべ町東本庄の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺消長（■本年、□平均）

和歌山県農作物病害虫防除所 紀の川駐在  
 電話：0736 (73) 2274

令和6年7月3日

令和6年度病害虫発生予察注意報（第3号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：ナシヒメシンクイ
2. 対象作物：モモ、スモモ、ナシ
3. 対象地域：県北部
4. 発生量：多
5. 加害期間：4～9月
6. 注意報発表の根拠

1) 県北部のモモにおける6月中旬の発生ほ場率は80%（平年27%）、被害枝率は2.8%（平年0.7%）であり、発生ほ場率、被害枝率ともに平成26年以降で最も高い（表）。

表 県北部のモモにおける6月中旬のナシヒメシンクイの発生状況

	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	平年	令和6年 (本年)
発生ほ場率(%)	20	30	30	20	0	30	40	70	0	30	27	80
被害枝率(%)	0.6	1.2	0.6	0.6	0	1.0	0.8	1.4	0	0.6	0.7	2.8

注)調査ほ場数:10

7. 防除上の注意事項

- 1) 幼虫が新梢や果実に食入し加害する。食入後では薬剤の効果が低下するため、食入前の防除に重点を置く。被害にあった新梢の被害部位や果実は速やかに除去し適切に処分する。
- 2) 幼木期に新梢が加害されると樹形を乱すことになるので、防除を徹底する。
- 3) モモやスモモでは収穫期の防除となるので、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意する。使用時期が「収穫前日まで」となっている薬剤の場合、収穫は散布から24時間以上経過してから開始する。
- 4) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。

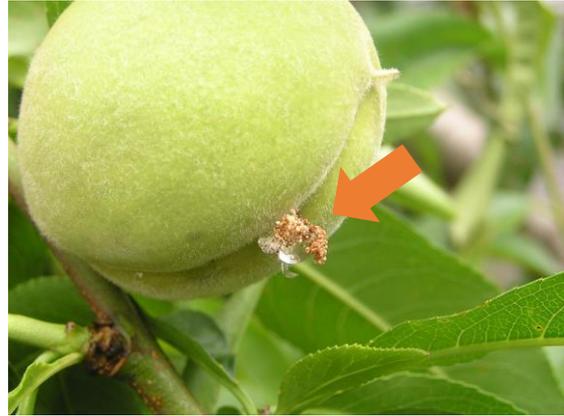


写真 ナシヒメシクイの被害枝（左）及び被害果実（右）

和歌山県農作物病害虫防除所 紀の川駐在  
電話： 0736 (73) 2274

令和6年7月12日

令和6年度病害虫発生予察注意報（第4号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
2. 対象作物：カンキツ、カキ、モモ、スモモ、キウイフルーツ、ナシ、ブドウ
3. 対象地域：県内全域
4. 発生量：多
5. 加害期間：4月上旬～
6. 注意報発表の根拠

本年は果樹カメムシ類の発生が多く、4月25日付け令和6年度病害虫発生予察注意報（第1号）、5月29日付け病害虫防除技術情報（第3号）および6月21日付け病害虫発生予察注意報（第2号）を発表したところであるが、以降の発生も平年を大幅に上回っており、7月1～5日の予察灯における誘殺数は更に急増している。

- 1) 紀の川市粉河の予察灯における7月1～5日の誘殺数はチャバネアオカメムシが6,491頭（平年94頭）、ツヤアオカメムシが1,921頭（同41頭）であった（図1）。
  - 2) 有田川町奥の予察灯における7月1～5日の誘殺数はチャバネアオカメムシが4,391頭（平年131頭）、ツヤアオカメムシが1,214頭（同41頭）であった（図2）。
  - 3) みなべ町東本庄の予察灯における7月1～5日の誘殺数はチャバネアオカメムシが2,976頭（平年191頭）、ツヤアオカメムシが469頭（同83頭）であった（図3）。
7. 防除上の注意事項

- 1) 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きく、山林隣接ほ場では被害が出やすい傾向がある。
- 2) 飛来の多いカンキツ園では落果が多数発生する可能性があるため、防除を徹底する。
- 3) カキでは「富有」で被害が大きいので、特に注意が必要である。
- 4) モモやスモモなど収穫期の防除となる品目では、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意する。使用時期が「収穫前日まで」となっている薬剤の場合、収穫は散布から24時間以上経過してから開始する。

- 5) 今後の発生動向については、農林水産部鳥獣害対策課のウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報  
 (<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html>) や各地域の振興局、JA 等の情報を参考にする。
- 6) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp>）を参照し、適正に使用する。

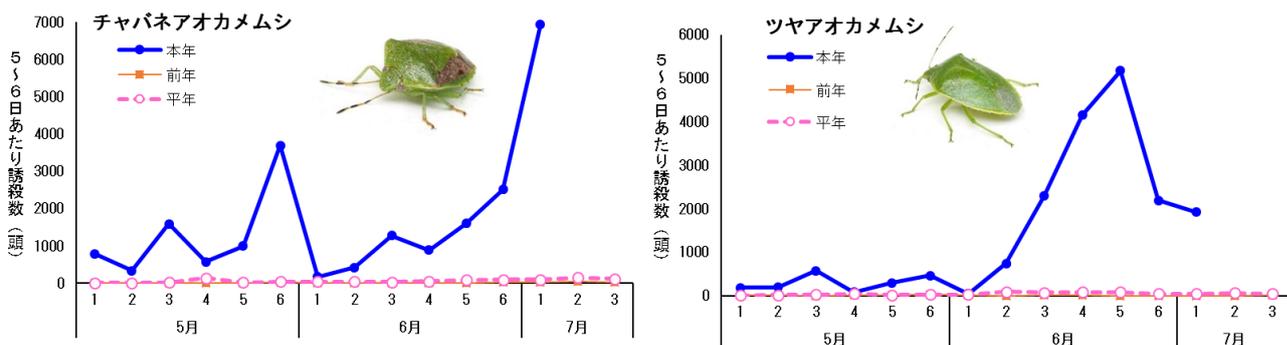


図1 紀の川市粉河の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺消長

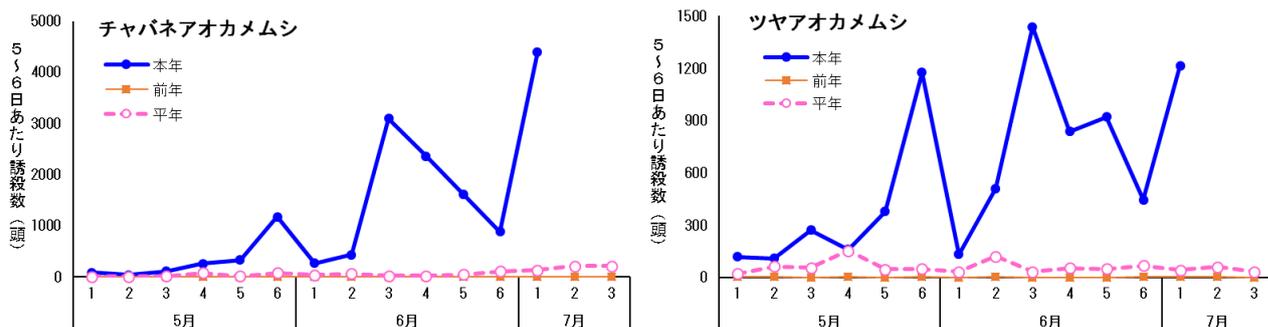


図2 有田川町奥の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺消長

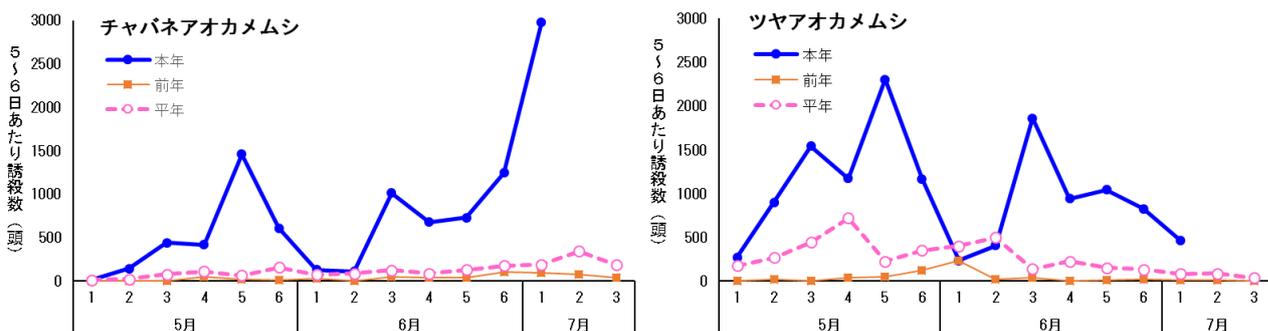


図3 みなべ町東本庄の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺消長

図1～3

※図の横軸の数字は半旬（1：1～5日、2：6～10日、3：11～15日、4：16～20日、5：21～25日、6：26～30日または31日）を示す。

和歌山県農作物病害虫防除所  
 有田川駐在 (TEL：0737-52-4320)  
 紀の川駐在 (TEL：0736-73-2274)

令和6年7月30日

令和6年度病害虫発生予察注意報（第5号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：カキ炭疽病
2. 対象作物：カキ
3. 対象地域：県北部
4. 発生量：多
5. 発生時期：5～11月
6. 注意報発表の根拠
  - 1) 県北部のカキ「富有」における7月中旬の発生ほ場率は31%（平年5%）で平成26年以降で最も高い（表）。発病果率は1.3%（平年0.4%）と平年に比べ高い。

表 県北部における7月中旬のカキ炭疽病の発生状況

	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	平年	令和6年 (本年)
発生ほ場率(%)	0	6	6	6	12	0	0	6	6	6	5	31
発病果率(%)	0	0.1	0.2	0.1	0.2	0	0	3.2	0.1	0.3	0.4	1.3

注)調査ほ場数:16(品種:「富有」)

7. 防除上の注意事項
  - 1) 発病枝（写真1）や発病果実（写真2）は伝染源になるため、見つけ次第切除してほ場外に持ち出し適切に処分する。6～7月に発生した新梢における病斑は特に注意する。
  - 2) 盛夏期には病勢が一時停滞するが、9～10月に降雨があると再び発病が激しくなる。
  - 3) 防除適期は8月下旬～9月下旬である。前年に炭疽病が発生したほ場や現在発病枝がみられるほ場は防除を徹底する。また、台風が接近する場合や降雨が続くと予想される場合は事前に薬剤を散布する。できなかった場合は降雨後速やかに散布する。
  - 4) 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤をローテーション散布する。
  - 5) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp>）を参照し、適正に使用する。
  - 6) 排水不良ほ場、密植で通風の悪いほ場で発病しやすいため、環境改善に努める。



写真1 カキ炭疽病の枝病斑(矢印)  
左:新梢、右:硬化した枝



写真2 カキ炭疽病の果実の病斑

和歌山県農作物病害虫防除所 紀の川駐在  
電話 : 0736(73)2274

令和6年8月9日

令和6年度病害虫発生予察注意報（第6号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：トマト黄化葉巻病  
病原ウイルス：トマト黄化葉巻ウイルス (*Tomato yellow leaf curl virus* [TYLCV])  
媒介虫：タバココナジラミ
2. 対象作物：ミニトマト、トマト
3. 対象地域：県中部
4. 発生量：多
5. 発生時期：8月～
6. 注意報発表の根拠
  - 1) 県中部の露地栽培ミニトマトにおける7月下旬のトマト黄化葉巻病の発生ほ場率は100%（平成41%）、発病株率は69.6%（平成6.4%）であった（表1）。また、露地栽培の発生ほ場では発病株を抜き取り処分していない場合が多いため、媒介虫であるタバココナジラミのトマト黄化葉巻ウイルス保毒虫率が高まっていると考えられる。

表1 トマト黄化葉巻病発生状況(県中部、調査時期:7月)

	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	平成 平均	令和6年 (本年)
発生ほ場率(%)	50	75	33	70	40	44	0	13	14	71	41	100
発病株率(%)	19.5	12.3	1.1	7.8	3.2	5.3	0	0.8	0.6	12.9	6.4	69.6

7. 防除上の注意事項
  - 1) 露地栽培・施設栽培共通
    - (1) 定植前に苗をよく観察し、新葉の退緑がみられる苗やタバココナジラミが発生している苗を本ばに持ち込まないよう注意する。
    - (2) 発病株は伝染源となるため見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。
    - (3) 野良生えトマトは伝染源となりやすいので見つけ次第処分する。また、芽かきした茎葉や裂果等の不良果は野良生えトマトの原因となるため、ほ場周辺に野積みせず速やかに処分する。
    - (4) タバココナジラミは寄主範囲が極めて広く、雑草にも生息するため、ほ場内およびほ場周辺の除草を徹底する。
    - (5) 防除薬剤については、最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp>）を参照し、適正に使用する。
    - (6) 薬剤散布にあたっては、和歌山県農業試験場ニュース第142号「タバココナジラミ バイオタイプQに有効な薬剤」  
([https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/001/nougyoushikenjyou/noushinews/d00213898\\_d/fil/142\\_8-9.pdf](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/001/nougyoushikenjyou/noushinews/d00213898_d/fil/142_8-9.pdf))も参考にする。

2) 露地栽培

新たな感染を防ぐため、タバココナジラミの発生を確認した場合は、本虫に有効な薬剤を散布する。

3) 施設栽培

- (1) 施設開口部に目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、媒介虫であるタバココナジラミの侵入を防止する。さらに、外張り資材に紫外線除去フィルムを使用すると侵入防止効果が高まる。
- (2) 生育初期に感染すると被害が大きくなるため、定期的な薬剤散布および定植時の薬剤処理により、育苗期から本ば初期(8～10月)のタバココナジラミ防除を徹底する。
- (3) 栽培終了後にはすべての株を抜根した上で、7～10日間以上施設を密閉してタバココナジラミを死滅させ、施設外へのタバココナジラミの分散を防止する。

和歌山県農作物病虫害防除所 TEL:0736(64)2300
-----------------------------------

令和6年度病害虫発生予察注意報（第7号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：ハスモンヨトウ
2. 対象作物：野菜類、花き類
3. 対象地域：県内全域
4. 発生量：多
5. 加害時期：4～11月
6. 注意報発表の根拠
  - 1) フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、それぞれ和歌山市7,432頭（平年1,504頭）、紀の川市1,883頭（平年994頭）、御坊市7,664頭（平年2,508頭）であった（図1）。
  - 2) 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は73%（平年17%）、生息株率は17.3%（平年1.8%）であった（表1）。
  - 3) 県中部のエンドウ類における10月下旬の発生ほ場率は60%（平年14%）、生息株率は8.7%（平年2.5%）であった（表2）。
  - 4) 大阪管区気象台の発表によると、近畿地方の向こう1か月（10月26日～11月25日）の平均気温は高い確率が80%である。このことから例年に比べて被害が長期化するおそれがある。
7. 防除上の注意事項
  - 1) 卵は鱗毛で覆われた卵塊（写真1）で産み付けられ、ふ化直後の若齢幼虫は集団で加害する（写真2）。ほ場を見回り、卵塊や分散前の幼虫は見つけ次第捕殺する。
  - 2) 施設栽培では成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットの被覆や防蛾灯（黄色・緑色灯）の夜間点灯を行う。
  - 3) 幼虫が中～老齢期になると薬剤の防除効果が低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。
  - 4) 防除薬剤については、最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。



写真1 ハスモンヨトウ卵塊



写真2 ハスモンヨトウ若齢幼虫

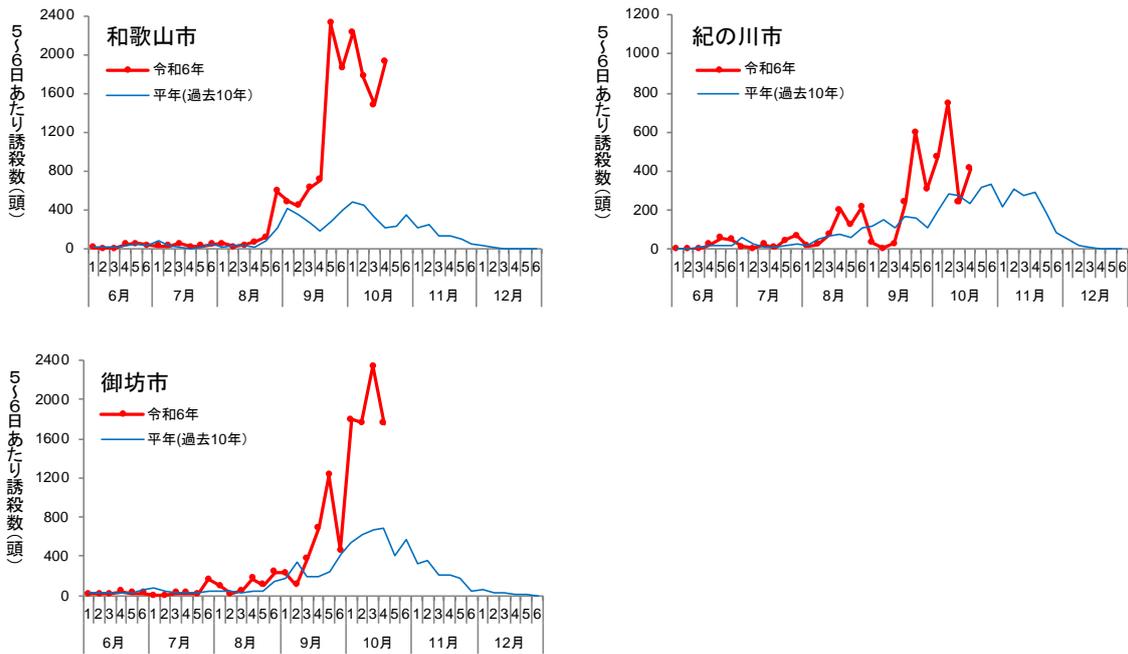


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺数の推移

※図の横軸の数字は半旬(1:1～5日、2:6～10日、3:11～15日、4:16～20日、5:21～25日、6:26～30または31日)を示す。

表1 キャベツにおけるハスモンヨトウ発生状況(県北部、調査時期:10月)

	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	平年	令和6年 (本年)
発生ほ場率(%)	0	10	10	0	14	13	25	29	50	18	17	73
生息株率(%)	0	0.5	0.5	0	2.1	1.3	3.8	2.9	6.3	0.9	1.8	17.3

表2 エンドウ類におけるハスモンヨトウ発生状況(県中部、調査時期:10月)

	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	令和 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	平年	令和6年 (本年)
発生ほ場率(%)	0	5	36	27	32	0	27	18	0	0	14	60
生息株率(%)	0	1.5	5.7	8.6	4.7	0	2.7	1.8	0	0	2.5	8.7

和歌山県農作物病害虫防除所  
電話：0736(64)2300

令和6年10月30日

令和6年度病害虫発生予察注意報（第8号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：ウラナミシジミ
2. 対象作物：サヤエンドウ、実エンドウ
3. 対象地域：日高地域
4. 発生量：多
5. 発生時期：9～11月
6. 注意報発表の根拠
  - 1) 10月下旬の日高地域（御坊市、印南町）のエンドウ類での被害発生ほ場率は77%（平成68%）とやや高い。被害株率は40.8%（平成23.6%）、被害さや率は18.8%（平成7.0%）と高く、多発した平成28年（被害株率45.0%、被害さや率15.2%）と同程度である。
  - 2) 大阪管区気象台の発表によると、近畿地方の向こう1か月（10月26日～11月25日）の平均気温は高い確率が80%である。このことから例年に比べて被害が長期化するおそれがある。
7. 防除上の注意事項
  - 1) 食入加害されたさやは、ほ場の外に持ち出し適切に処分する。
  - 2) 主な産卵部位である花や蕾に薬液が十分かかるよう、7～10日間隔で防除を行う。
  - 3) トレボン乳剤、アディオン乳剤、パダンSG水溶剤は、1齢幼虫のさやへの食入阻止効果が高い。
  - 4) 防除資料として、農業試験場ニュース125号を参照する。  
([https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/001/nougyoushikenjyou/noushinews/noushinews125\\_d/fil/noushinews\\_125\\_mushi.pdf](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070100/070109/gaiyou/001/nougyoushikenjyou/noushinews/noushinews125_d/fil/noushinews_125_mushi.pdf))
  - 5) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。



写真1 花や蕾に産卵する  
ウラナミシジミ成虫



写真2 蕾に産卵された卵と  
1齢幼虫（すぐにさやに食入）



写真3 さや内の豆を食  
害する幼虫

和歌山県農作物病害虫防除所  
電話：0736(64)2300

### 3) 防除技術情報

令和6年4月18日

令和6年度病害虫防除技術情報（第1号）

和歌山県農作物病害虫防除所

#### タマネギベと病の発生に引き続き注意して下さい

タマネギベと病越年罹病株の発生が多く、3月6日付けで令和5年度病害虫防除技術情報（第3号）を公表したところですが、4月中旬の調査において二次感染株（写真1）の発生が多く認められました。気象予報（大阪管区气象台、令和6年4月11日発表）によると、本病の感染に好適な条件ではありませんが、今後の降雨の状況によっては発生の増加が懸念されます。引き続きほ場をよく観察し、防除を徹底しましょう。

1. 対象作物：タマネギ
2. 対象地域：県北部
3. 発生時期：2～6月
4. 発生状況
  - 1) 4月中旬の県北部におけるタマネギベと二次感染株の発生ほ場率は47%（平年30%）、発病株率は1.2%（平年1.5%）であった。発生ほ場率は平年と比べて高く、平成26年以降では2番目に高い（図1）。

表1 4月の県北部におけるタマネギベと二次感染株の発生状況

	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	平成31年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	平年	令和6年
発生ほ場率（%）	33	39	50	5	11	13	23	47	43	40	30	47
発病株率（%）	0.1	3.4	4.2	0.1	1.5	0.2	0.7	1.0	3.4	0.3	1.5	1.2

注）調査場所：平成26～令和3年は和歌山市、岩出市、紀の川市、かつらぎ町。令和4年以降は岩出市、紀の川市、かつらぎ町

5. 防除上の注意事項
  - 1) ほ場をこまめに見回り、二次感染株の早期発見と発病葉の除去を行う。除去した発病葉は、ほ場の外に持ち出して適切に処分する。また、収穫後の発病葉は翌年の発生源となるので、除去した発病葉と同様に集めてほ場の外に持ち出し適切に処分する。
  - 2) 二次感染株を確認した場合は、早急に薬剤散布を行う。発生が認められないほ場においても孢子飛散による感染拡大を防ぐため、予防散布を徹底する。
  - 3) 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
  - 4) 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。
  - 5) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。

和歌山県農作物病害虫防除所  
電話：0736(64)2300



写真1 タマネギベと病二次感染株の病斑

越年罹病株上に形成された分生子により感染し発病する。葉に淡黄色の楕円形～長卵形の病斑を生じる。また、二次感染株上にも分生子が作られ、分生子による感染と発病を繰り返す。4～5月に発生が多くなる。

令和6年度病害虫防除技術情報（第2号）

和歌山県農作物病害虫防除所

モモせん孔細菌病の防除を徹底しましょう

1. 対象作物：モモ
2. 対象病害虫名：モモせん孔細菌病
3. 対象地域：県北部
4. 発生量：やや多
5. 発生時期：4～8月
6. 発生状況

1) 4月中旬の春型枝病斑の発生ほ場率は40%（平成22%）と広域に発生がみられた（表）。

表 モモせん孔細菌病の春型枝病斑の発生ほ場率と発病枝率

	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	平成 平均	令和 6年
発生ほ場率（%）	30	20	20	0	90	50	0	10	0	0	22	40
発病枝率（%）	1.3	1.0	1.6	0	4.5	2.9	0	0.1	0	0	1.1	0.8

注) 調査ほ場数：10ほ場、調査時期：4月中旬

7. 防除上の注意事項

- 1) 葉や果実への感染を防止するため、伝染源となる春型枝病斑形成枝（写真）を徹底して除去する。
- 2) 落花後から袋掛け前までの期間に殺菌剤散布を徹底する。抗生物質剤を中心に降雨前の予防散布を心掛け、7～10日間隔で丁寧に散布する。
- 3) 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
- 4) 風雨による果実への感染を防止するため、袋掛けは袋の口に隙間ができないよう丁寧に行う。多発ほ場では早めに袋掛けを行う。
- 5) 防風ネットが破損した場合はすぐに補修する。また、防風樹の管理に努める。
- 6) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。特に早生品種では薬剤の収穫前日数に注意する。



写真 モモせん孔細菌病の春型枝病斑（芽の枯死、紫褐色～紫黒色の病斑）

担当：農作物病害虫防除所 紀の川駐在  
電話：0736(73)2274

令和6年5月29日

令和6年度病虫害防除技術情報（第3号）

和歌山県農作物病虫害防除所

**果樹カメムシ類の発生に引き続き注意してください**

果樹カメムシ類の発生が多く、4月25日付けで令和6年度病虫害発生予察注意報（第1号）を発表したところですが、依然として誘殺数が多い状況が続いています。ほ場をよく観察し、発生状況に応じて防除を行いきましょう。

1. 病虫害名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ）
2. 対象作物：ウメ、カキ、モモ、スモモ、キウイフルーツ、ナシ、ブドウなど
3. 対象地域：県内全域
4. 発生量：多
5. 加害期間：4月下旬～
6. 発生状況
  - 1) 紀の川市粉河の予察灯における5月1～25日の誘殺数はチャバネアオカメムシが4,269頭（平年172頭）、ツヤアオカメムシが1,321頭（同115頭）でした（図1）。
  - 2) 有田川町奥の予察灯における5月1～25日（5月1日は欠測）の誘殺数はチャバネアオカメムシが805頭（平年110頭）、ツヤアオカメムシが1,035頭（同334頭）でした（図2）。
  - 3) みなべ町東本庄の予察灯における5月1～25日の誘殺数はチャバネアオカメムシが2,478頭（平年297頭）、ツヤアオカメムシが6,200頭（同1,839頭）でした（図3）。
  - 4) 各地域の多くの果樹ほ場で、果樹カメムシ類の飛来や被害が認められています。
7. 防除上の注意事項
  - 1) 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きく、特に山林隣接ほ場では被害が出やすい傾向があります。

- 2) ウメでは収穫期の防除となるので、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意してください。使用時期が「収穫前日まで」となっている薬剤の場合、収穫は散布から24時間以上経過してから開始してください。
- 3) カキでは「富有」で被害が大きいため、特に注意が必要です。
- 4) モモでは早めに袋がけを行いましょう。ただし、袋をかけても果実が肥大して袋に密着すると袋の上から吸汁されることがあるので注意が必要です。
- 5) 必要以上の薬剤散布はハダニ類やカイガラムシ類の多発を招くので控えてください。
- 6) 今後の発生動向については、農林水産部鳥獣害対策課のウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報  
[（https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html）](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html) や各地域の振興局、JA 等の情報を参考にしてください。
- 7) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp>）を参照し、適正に使用してください。特に、収穫が近い場合は収穫前日数に注意しましょう。

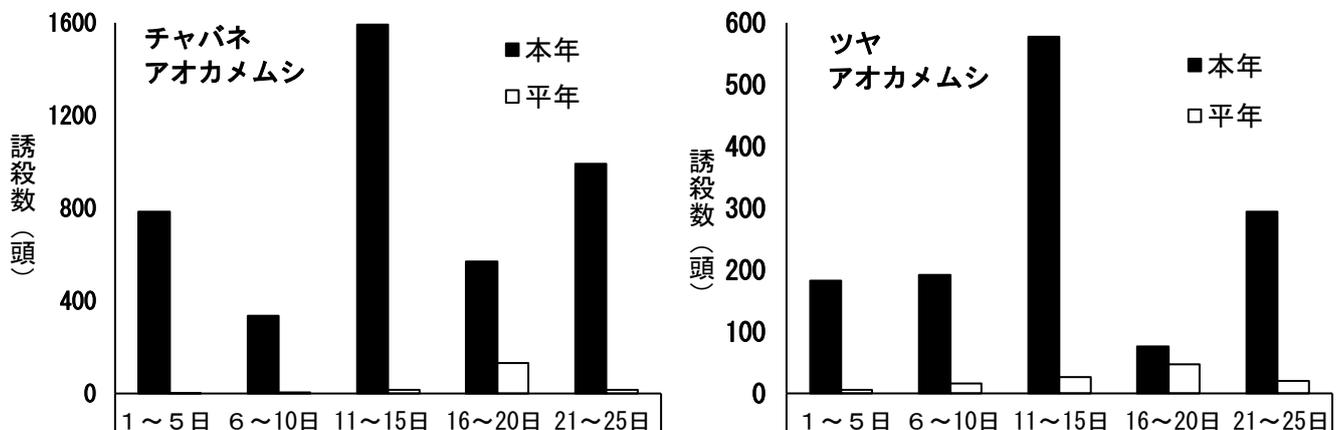
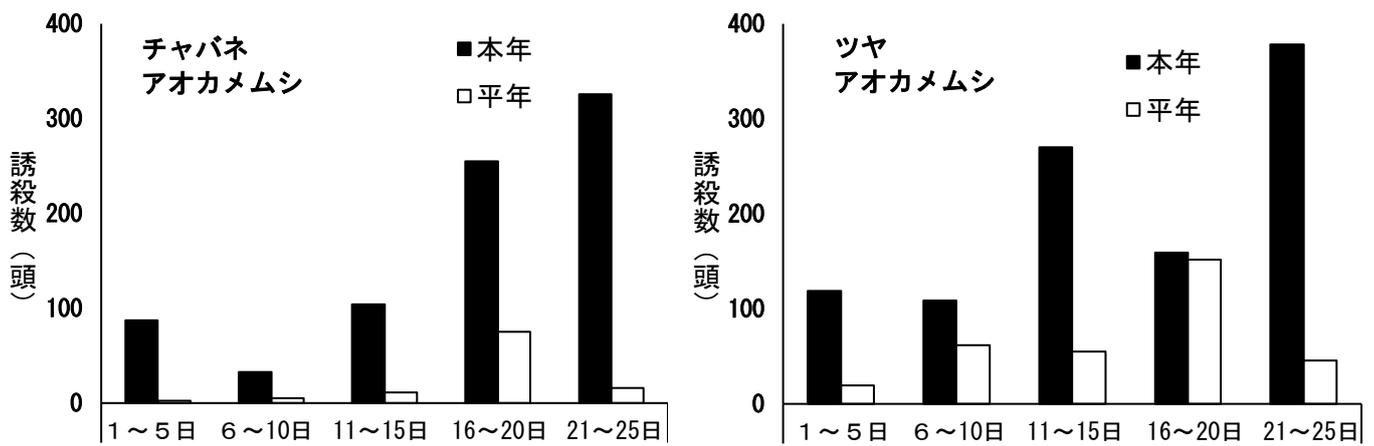


図1 紀の川市粉河の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺消長（令和6年5月）



※1~5日は1日が欠測のため、2~5日の4日分の値

図2 有田川町奥の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺消長 (令和6年5月)

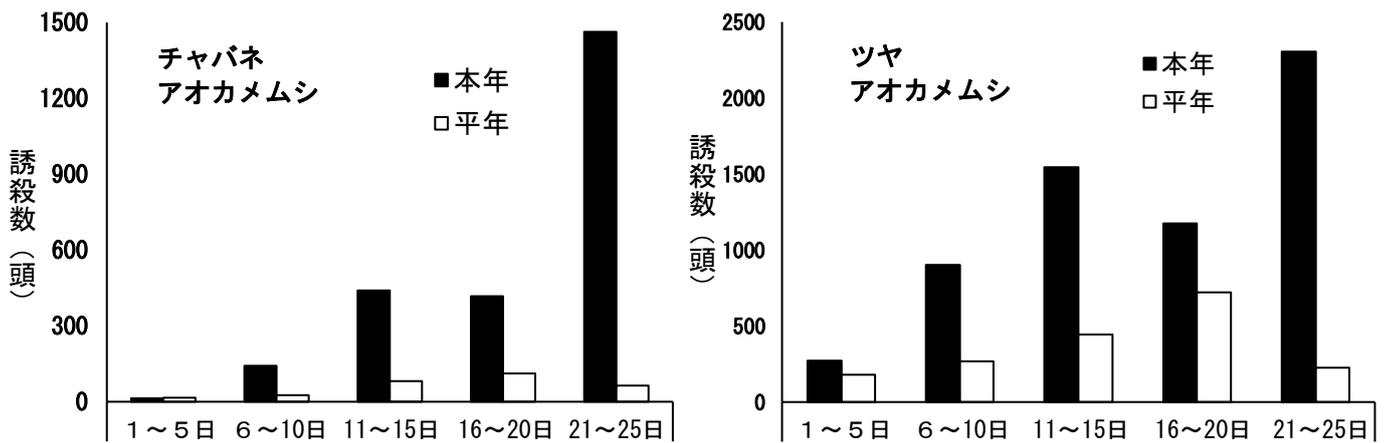


図3 みなべ町東本庄の予察灯における果樹カメムシ類の誘殺消長 (令和6年5月)

和歌山県農作物病害虫防除所 紀の川駐在 (0736-73-2274)  
 有田川駐在 (0737-52-4320)  
 みなべ駐在 (0739-74-3780)

令和6年度病害虫防除技術情報(第4号)

和歌山県農作物病害虫防除所

アカマルカイガラムシの防除を徹底しましょう

アカマルカイガラムシの発生が令和5年以降多いため、発生ほ場では越冬時期のマシン油乳剤による防除を行いましょう。

1. 対象作物：カンキツ
2. 対象病害虫名：アカマルカイガラムシ
3. 対象地域：県北部、県中部
4. 発生量：やや多
5. 発生状況：

県内カンキツほ場における令和6年10月の発生ほ場率は10.9%(平年3.9%)、被害果率は1.8%(平年0.8%)であった(表)。

表 アカマルカイガラムシの発生ほ場率および被害果率

	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	平年
発生ほ場率(%)	0	1.5	6.2	1.5	1.5	4.6	6.2	0	0	17.2	10.9	3.9
被害果率(%)	0	0.1	1.7	0.1	0.3	0.7	0.9	0	0	3.9	1.8	0.8

※調査ほ場数：H26～R2は65、R3～R6は64 調査時期：10月 平年：H26～R5の平均  
調査対象：カンキツ果実

6. 防除上の注意事項
  - 1) 越冬した成虫・幼虫が5月以降の発生源になるため、発生ほ場ではマシン油乳剤(97%)をハダニ類等の防除も兼ねて3月の発芽前までに散布する。ただし、樹勢の弱い樹への散布は落葉を助長する恐れがあるため、散布を控える。
  - 2) 薬液がかかりにくい樹冠の頂部や裾部、枝葉の混み合った部分に発生が多いため、薬剤が樹冠全体に十分にかかるよう散布する。
  - 3) 5月以降に幼虫が発生するため、定期的にはほ場を見回り、介殻の発生が多い場合は薬剤による防除を行う。
  - 4) 中晩柑で発生が多い傾向があるため、特に注意する。
  - 5) 防除薬剤は最新の登録情報(農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)を参照し、適正に使用する。



写真 枝、葉、果実のアカマルカイガラムシ

担当：農作物病害虫防除所 有田川駐在  
電話：0737(52)4320

## 令和6年度病害虫防除技術情報(第5号)

和歌山県農作物病害虫防除所

## カンキツそうか病の防除を徹底しましょう

カンキツそうか病(写真1および2)の発生が令和5年以降多くなっています。薬剤散布や伝染源の除去など適切な防除対策を実施しましょう。

1. 対象作物：カンキツ
2. 対象病害虫名：カンキツそうか病
3. 対象地域：県内全域
4. 発生量：やや多
5. 発生状況：

県内のウンシュウミカンほ場における令和6年8月の発生ほ場率は17.6%(平成6.2%)であった(図1)。また、令和5年以降は発生が増加している。

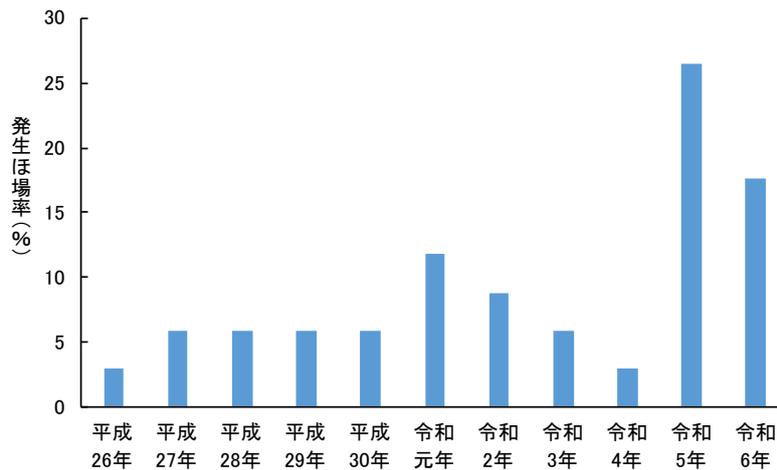


図1 ウンシュウミカンにおけるカンキツそうか病の発生ほ場率の推移

調査ほ場数:34、調査対象:果実、調査時期:8月中旬

6. 防除上の注意事項
  - 1) 防除適期は発芽直後、落弁期、幼果期である。特に発病した新葉が果実の伝染源となるため、発生ほ場では発芽直後の薬剤散布を徹底する。
  - 2) 病原菌は枝葉の病斑中で越冬して一次伝染源となるため、病斑が形成された枝葉をできるだけ除去し、伝染源を減らす。
  - 3) 多雨や多湿は発生を助長するため、混み入った枝葉を整理し通風をよくする。
  - 4) ウンシュウミカン発病しやすいため特に注意する。レモン、三宝柑などはこれに次ぎ、夏橙、ネーブルなどでは発病しない。
  - 5) 主な防除薬剤を表1に示す。薬剤は最新の登録情報(農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>)を参照し、適正に使用する。



写真1 カンキツそうか病の被害葉



写真2 カンキツそうか病の被害果

表1 カンキツそうか病に対する主な防除薬剤<sup>1)</sup>

薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	成分	FRACコード <sup>3)</sup>
デランフロアブル	収穫30日前まで	3回以内	ジチアノン <sup>2)</sup>	M9
セルカディスDフロアブル	収穫30日前まで	3回以内	ジチアノン <sup>2)</sup> フルキサピロキサド	M9 7
ナティーポフロアブル	収穫前日まで	3回以内	テブコナゾール トリフロキシストロビン	3 11
ストロビードライフフロアブル	収穫14日前まで	3回以内	クレソキシムメチル	11

1) 令和7年2月26日時点の農薬登録情報

2) ジチアノンを含む薬剤は以下の点に注意する

1. かぶれに注意し、かぶれやすい体質の人は別の薬剤を使用する
2. 開花期以降に使用する場合は、マシン油乳剤との散布間隔を30日以上あける
3. 夏期以降の散布は果皮に薬害を生じるおそれがあるので避ける
4. ジチアノンを含む農薬の総使用回数は3回以内

3) FRACコードは殺菌剤の作用機構による分類を示す

担当：農作物病害虫防除所 有田川駐在  
電話：0737(52)4320

# 病害虫発生予報 第1号（4月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

## ＜予報の概要＞

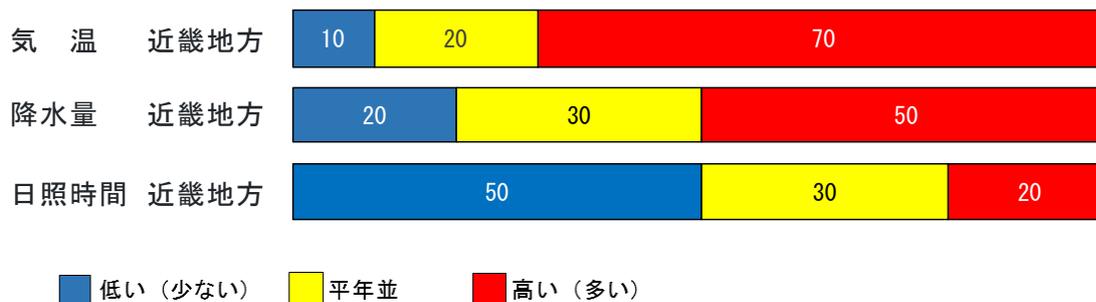
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ	並 並	野菜全般	灰色かび病 アザミウマ類	並 並
タマネギ	白色疫病 べと病	やや少 やや多	カンキツ	かいよう病 そうか病	並 並
エンドウ	褐紋病 うどんこ病	並 並		ミカンハダニ	やや少
キャベツ	コナガ	並	カキ	うどんこ病	やや少
キュウリ	べと病 褐斑病 タバココナジラミ ミナミキイロアザミウマ	並 少 やや多 やや多	ウメ	かいよう病	並
			果樹全般	カメムシ類	多

## 気象予報

### 近畿地方 1か月予報（03/23～04/22）

2024年03月21日14時30分 大阪管区気象台 発表		
向こう1か月 03/23～04/22	天候	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率70%です。
	降水量	降水量は、多い確率50%です。
	日照時間	日照時間は、少ない確率50%です。
1週目 03/23～03/29	気温	1週目は、高い確率70%です。
2週目 03/30～04/05	気温	2週目は、高い確率60%です。
3～4週目 04/06～04/19	気温	3～4週目は、高い確率50%です。

### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



# I. 水 稲

## 1. ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生時期 並  
発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 3月下旬の休閑田の捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市4.5頭、成虫率66%（平年8.5頭、成虫率68%）、紀の川市4.8頭、成虫率90%（平年7.0頭、成虫率61%）、かつらぎ町12.3頭、成虫率76%（平年4.8頭、成虫率52%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ヒメトビウンカはイネ縞葉枯ウイルスを媒介する。イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、休閑田や雑草地付近での育苗を避ける。  
② は種時～移植当日に育苗箱施薬剤を施用する。  
③ 田植え前から作期を通して、ヒメトビウンカの生息場所となる水田周辺雑草の除草管理を徹底する。

## 2. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生時期 並  
発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 3月下旬の休閑田の捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市40.5頭、成虫率83%（平年15.5頭、成虫率76%）、紀の川市4.3頭、成虫率82%（平年3.4頭、成虫率56%）、かつらぎ町12.0頭、成虫率59%（平年33.3頭、成虫率60%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① は種時～移植当日に育苗箱施薬剤を施用する。

※ 水稲害虫の発生動向については、鳥獣害対策課ウェブページ内農作物病虫害防除所の水稲害虫の予察灯誘殺消長も参考にする。

# II. 野 菜

## <タマネギ>

### 1. 白色疫病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での3月中旬の発生ほ場率は3%（平年19%）、発病株率は0.1%（平年2.4%）であった。

- ② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 同一のほ場内でも発病に偏りがみられることがあるので、ほ場全体を見回り、発病が集中しているところは特に丁寧に薬剤散布を行う。  
② 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。

### 2. ベと病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での3月中旬の越年罹病株の発生ほ場率は13%（平成9%）、発病株率は0.3%（平成0.1%）であった。二次感染株の発生ほ場率は10%（平成6%）、発病株率は0.1%（平成0.1%）であった。
- ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 前年の発生が多かったほ場では、本年も発生しやすいので注意する。
  - ② 本病は、気温15℃前後で曇雨天が続くと多発する。
  - ③ ほ場をこまめに見回り、越年罹病株の早期発見と抜き取りを徹底する。二次感染株を確認した場合は発病葉を除去する。抜き取った株や発病葉は袋に入れ、ほ場の外に持ち出して適切に処分する。
  - ④ 越年罹病株や二次感染株が認められた場合は、早急に薬剤散布を行う。発生が認められないほ場においても孢子飛散による感染拡大を防ぐため、予防散布を徹底する。
  - ⑤ 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
  - ⑥ 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。
  - ⑦ 令和5年度病害虫防除技術情報第3号（令和6年3月6日発表）を参照する。

## <エンドウ>

### 1. 褐紋病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県中部の露地栽培における3月下旬の発生ほ場率は15%（平成27%）、発病葉率は0.3%（平成1.6%）であった。
  - ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 雨が多いと多発するので薬剤散布は早めに行う。
  - ② 多湿条件で発病が助長されるので、排水対策や通風対策に努める。

### 2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県中部の露地栽培での3月下旬の発生ほ場率は0%（平成3%）であった。
  - ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 発生初期から薬剤防除を行う。

## <キャベツ>

### 1. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部での3月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率3%、1株当たり発生密度0.0頭）であった。
  - ② フェロモントラップによる3月1～20日の誘殺数は、和歌山市31頭（平成20.9頭）、紀の川市11頭（平成4.8頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① ジアミド系、IGR剤などの薬剤は殺虫効果の低下が認められている。
  - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は連用しない。

## ＜キュウリ＞

### 1. ベと病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県中部での3月中旬の発生ほ場率は36%（平成30%）、発病葉率は3.4%（平成6.6%）であった。
  - ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 多発すると防除が難しくなるため、初期防除を徹底する。
  - ② 病原菌は気孔から侵入するので、薬液は葉の表裏にムラなくかかるように散布する。
  - ③ 肥効が低下したり草勢が衰えたりすると発病が助長されるので、適切な肥培管理に努める。
  - ④ 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤のローテーション散布を行う。

### 2. 褐斑病

- (1) 予報内容 発生量 少
- (2) 予報の根拠
  - ① 県中部での3月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率30%、発病葉率4.9%）であった。
  - ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 多発すると防除が難しくなるため、初期防除を徹底する。
  - ② 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤のローテーション散布を行う。
  - ③ ボスカリド剤、チオファネートメチル剤、アゾキシストロビン剤に対する感受性低下菌が認められている。

### 3. タバココナジラミ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 県中部での3月下旬の発生ほ場率は70%（平成32%）、生息葉率は9.3%（平成3.0%）であった。
  - ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① タバココナジラミはウリ類退緑黄化ウイルスを媒介する。
  - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

### 4. ミナミキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 県中部での3月下旬の発生ほ場率は40%（平成16%）、生息葉率は5.1%（平成1.4%）であった。
  - ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 気温の上昇とともに発生が増加するので、発生初期に防除する。多発ほ場では追加防除を行う。
  - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

## <野菜全般>

### 1. 灰色かび病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の施設栽培キュウリでの3月中旬の発生ほ場率は0%（平成2%）であった。

② 県中部の施設栽培ミニトマトでの3月下旬の発生ほ場率は0%（過去8年の平均3%）であった。

③ 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設の湿度低下を図り、過灌水や滞水しないように注意する。

② 発病部位を除去し、発病初期から薬剤防除を行う。

③ 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤のローテーション散布を行う。

### 2. アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマを除く）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の施設栽培イチゴでの3月中旬の発生ほ場率は、ヒラズハナアザミウマ22%（過去8年の平均10%）、ミカンキイロアザミウマ0%（平成1%）であった。

② 県中部の施設栽培キュウリでの3月下旬の発生ほ場率は、ミカンキイロアザミウマ0%（平成3%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 気温の上昇とともに発生が増加するので、発生初期に防除する。多発ほ場では追加防除を行う。

## Ⅲ. 果 樹

### <カンキツ>

#### 1. かいよう病

(1) 予報内容 発生時期 やや早

発生量 並

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）の3月中旬における春葉の越冬病斑の発病葉率は7.0%（平成10.0%）であった。

② 前年10月中旬の県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における春葉発病の発生ほ場率は11%（平成20%）、発病葉率は0.2%（平成0.5%）であった。

③ 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 罹病性品種植栽ほ場や常発ほ場では、伝染源となる罹病枝葉の剪除や防風施設の整備に努めるとともに、新梢伸長期に銅水和剤（薬害軽減のための措置を講じる）を散布する。

#### 2. そうか病

(1) 予報内容 発生時期 やや早

## 発生量 並

### (2) 予報の根拠

- ① 前年10月中旬の県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）におけるウンシュウミカンの果実発病の発生ほ場率は6%（平年6%）であった。
- ② 4月の気象予報による。

### (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 常発ほ場や前年多発ほ場では、伝染源となる罹病葉の除去、発芽直後の薬剤防除に努める。

## 3. ミカンハダニ

### (1) 予報内容 発生量 やや少

### (2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（有田川町奥）における3月中旬の発生葉率は、無防除区0%（平年5.0%）、マシン油乳剤を散布している慣行防除区0%（平年0%）であった。
- ② 4月の気象予報による。

### (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ミカンハダニの防除は、12月下旬～1月上旬または3月中下旬、6月下旬のマシン油乳剤の散布、9月の化学合成殺ダニ剤の散布を基本とする。
- ② 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。

## <カ キ>

### 1. うどんこ病

#### (1) 予報内容 発生量 やや少

#### (2) 予報の根拠

- ① 前年10月中旬の「富有」の発生ほ場率は69%（平年77%）、発病葉率は6.0%（平年17.4%）であった。
- ② 4月の気象予報による。

#### (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 子のう胞子飛散最盛期は4月下旬～5月上旬であり、この時期に水和硫黄剤を散布する。前年多発したほ場では、この時期の防除を徹底する。
- ② 4～5月に降水量が少なく、乾燥気味に経過すると発病が助長される。
- ③ 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、薬液は葉裏をねらって丁寧に散布する。

## <ウ メ>

### 1. かいよう病

#### (1) 予報内容 発生量 並

#### (2) 予報の根拠

- ① 3月中旬の予察ほ場（無防除、みなべ町東本庄）での2年生枝の潜伏越冬病斑形成枝率は0%（過去6年の平均1.0%）であった。
- ② 県南部（みなべ町、田辺市）の前年6月上旬の発生ほ場率は46%（平年45%）、発病果率は1.5%（平年1.7%）であった。
- ③ 4月の気象予報による。

#### (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 強風雨により感染が助長されるため、常発園では防風施設の整備等の防風対策を励行する。
- ② 生育期の薬剤防除は、発芽期からほぼ10日おきに数回、抗生物質剤を散布する。強風雨直前の散布で、より高い効果が得られる。

## <果樹全般>

### 1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県内 47 地点のチャバネアオカメムシ越冬成虫の捕獲頭数は落葉 50 リットル当たり 2.9 頭（前年 0.0 頭、平年 0.5 頭）、捕獲地点率は 48.9%（前年 2.1%、平年 21.9%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きいので、ほ場内での発生及び被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- ② ウメ、モモなどでは、収穫前に越冬成虫の飛来が確認された場合は速やかに薬剤による防除を実施する。
- ③ ウメの被害は品種間差が大きい。小梅類等の収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるので、これらの品種では特に注意が必要である。
- ④ カンキツでは蕾、花が加害されるので、被害が認められた場合は薬剤による防除を行う。
- ⑤ 今後の発生動向については、鳥獣害対策課ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○鳥獣害対策課ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

# 病害虫発生予報 第2号（5月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

## < 予報の概要 >

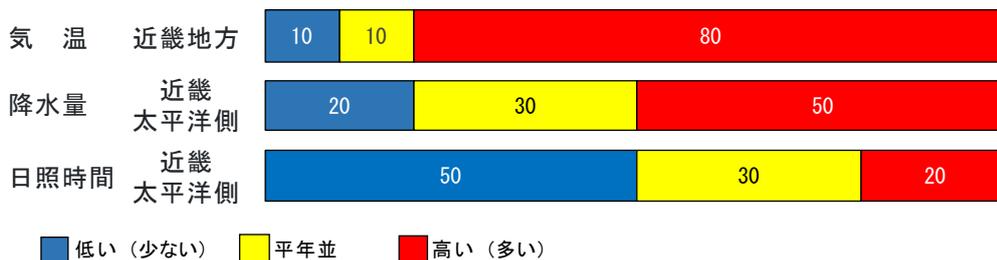
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	もみ枯細菌病による苗腐敗症	並	カンキツ	かいよう病	並
	ばか苗病	並		そうか病	やや多
	いもち病	並		黒点病	やや多
	ヒメトビウンカ	やや多		灰色かび病	やや多
	縞葉枯病	やや少		ミカンハダニ	並
	ツマグロヨコバイ	やや多		ヤノネカイガラムシ	やや少
	イネミズゾウムシ	並		チャノキイロアザミウマ	やや少
タマネギ	灰色かび病	並	カキ	うどんこ病	やや少
	べと病	やや多～多		円星落葉病	やや少
				角斑落葉病	やや多
キュウリ	べと病	やや多	モモ	せん孔細菌病	やや多
	うどんこ病	やや少		カイガラムシ類	やや少
	褐斑病	並		キュウイフ	かいよう病
野菜全般	アブラムシ類	多	果樹全般		カメムシ類
	ハダニ類	並			
	アザミウマ類	やや多			

## 気象予報

### 近畿地方 1か月予報（04/20～05/19）

2024年04月18日14時30分 大阪管区気象台 発表		
特に注意を要する事項	期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう1か月 04/20～05/19	天候	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率80%です。
	降水量	降水量は、近畿太平洋側で多い確率50%です。
	日照時間	日照時間は、近畿日本海側で平年並または少ない確率ともに40%、近畿太平洋側で少ない確率50%です。
1週目 04/20～04/26	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 04/27～05/03	気温	2週目は、高い確率70%です。
3～4週目 05/04～05/17	気温	3～4週目は、高い確率60%です。

### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



# I. 水 稲

## 1. もみ枯細菌病による苗腐敗症

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 前年の県内全域におけるもみ枯細菌病の本田での発生面積率は0%（平年1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発病ほ場から採種した種子は使用しない。

② 種子消毒を行う。

## 2. ばか苗病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 前年の県内全域におけるばか苗病の本田での発生面積率は0%（平年2%）であった。

② 種子消毒に用いる薬剤の効果は安定している。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① もみ枯細菌病による苗腐敗症に準じる。

## 3. いもち病（苗いもち、葉いもち）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 田植え時に育苗箱施薬剤を施用する。

## 4. ヒメトビウンカおよび縞葉枯病

(1) 予報内容 ヒメトビウンカ 発生時期 やや早 発生量 やや多  
縞葉枯病 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 4月上旬の休閑田における捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市で29.5頭（平年11.1頭）、紀の川市で14.0頭（平年9.1頭）、かつらぎ町で2.0頭（平年3.8頭）であった。

② 越冬世代の50%成虫化時期は、紀の川市で3月12日以前（平年3月17日）であった。

③ 県北部におけるヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市1.2%（平年5.0%）、かつらぎ町1.8%（平年5.4%）であった。

④ 県北部および中部の本田における前年のイネ縞葉枯病の発生面積率は0%（平年3%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、雑草地付近での育苗を避ける。

## 5. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 4月上旬の休閑田における20回振りすくい取り調査による平均生息数は、和歌山市271.8頭（平年20.0頭）、紀の川市で1.0頭（平年6.4頭）、かつらぎ町で11.3頭（平年40.3頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 田植え時に育苗箱施薬剤を施用する。

6. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察灯による4月1～20日の誘殺数は、上富田町で0頭（平成3.8頭）、那智勝浦町で4頭（平成0.3頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 田植え時に育苗箱施薬剤を施用する。  
② 5月中旬までに田植えする地域のうち、多発地ではさらに田植え3～4週後に薬剤を処理する。  
③ イネミズゾウムシに効果がある育苗箱施薬剤を施用していないほ場で、田植え3～7日後に成虫による食害株率が30%あるいは成虫が1株あたり0.5頭を超える場合は、直ちに薬剤防除を実施する。

## II. 野 菜

### <タマネギ>

1. 灰色かび病（白斑葉枯病）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は0%（平成1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ほ場の排水を良くする。  
② 発病葉や収穫後の残さは、ほ場から速やかに持ち出して適切に処分する。

2. べと病

(1) 予報内容 発生量 やや多～多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での4月中旬の二次感染株の発生ほ場率は47%（平成30%）、発病株率は1.2%（平成1.5%）であった。

- ② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ほ場をこまめに見回り、二次感染株の早期発見と発病葉の除去を行う。除去した発病葉は、ほ場の外に持ち出して適切に処分する。また、収穫後の発病葉は翌年の発生源となるので、除去した発病葉と同様に集めてほ場の外に持ち出し適切に処分する。  
② 二次感染株を確認した場合は、早急に薬剤散布を行う。発生が認められないほ場においても、胞子の飛散による発病拡大を防ぐため予防散布を徹底する。  
③ 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤によるローテーション散布を行う。  
④ 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。  
⑤ 令和6年度病害虫防除技術情報第1号（令和6年4月18日発表）を参照する。

## <キュウリ>

### 1. ベと病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は20%（平成29%）、発病葉率は2.9%（平成2.8%）であった。
- ② 県中部での4月中旬の発生ほ場率は69%（平成42%）、発病葉率は11.7%（平成12.5%）であった。
- ③ 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
- ② 薬剤防除は予防散布を重点に、薬液が葉裏に十分かかるように行う。

### 2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率2%、発病葉率0.0%）であった。
- ② 県中部での4月中旬の発生ほ場率は46%（平成74%）、発病葉率は4.6%（平成18.6%）であった。
- ③ 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
- ② 薬剤防除は予防散布を重点に、薬液が葉裏に十分かかるように行う。
- ③ 薬剤の感受性低下を防ぐため、同一系統の薬剤は連用しない。

### 3. 褐斑病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は10%（平成5%）、発病葉率0.8%（平成0.2%）であった。
- ② 県中部での4月中旬の発生ほ場率は0%（過去8年の平均：発生ほ場率39%、発病葉率9.3%）であった。
- ③ 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
- ② 発病葉や収穫後の残さは速やかに処分する。
- ③ 資材に付着した病原菌の胞子が伝染源になるので、支柱等再利用する資材は栽培終了後に消毒する。ネットやマルチ等は更新する。

## <野菜全般>

### 1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける4月中旬の発生株率は、モモアカアブラムシ17.3%（平成4.9%）、ニセダイコンアブラムシ1.8%（平成0.2%）であった。
- ② 県中部の施設栽培キュウリにおける4月中旬のワタアブラムシの発生ほ場率は9%（平成15%）であった。
- ③ 県中部の施設およびトンネル栽培スイカにおける4月中旬のワタアブラ

ムシの発生ほ場率は75%（過去9年の平均43%）であった。

- ④ 黄色水盤（紀の川市）への4月1～20日までの飛来数は、155頭（平均100.3頭）であった。
  - ⑤ 5月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

## 2. ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

- ① 県北部のイチゴにおける4月中旬のナミハダニは発生ほ場率22%（平均48%）、生息葉率1.3%（平均19.1%）、カンザワハダニは発生ほ場率11%（平均14%）、生息葉率8.0%（平均3.5%）であった。
- ② 県中部の施設およびトンネル栽培スイカにおける4月中旬の発生ほ場率は83%（過去9年の平均63%）、1葉当たりの生息密度は0.3頭（過去9年の平均0.2頭）であった。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ハダニ類はほ場の周辺から侵入するので、外縁部の株において早期発見に努め、初期防除を行う。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

## 3. アザミウマ類

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠

- ① 県北部のイチゴにおける4月中旬のヒラズハナアザミウマは発生ほ場率44%（過去8年の平均50%）、1花当たり生息密度0.2頭（過去8年の平均0.6頭）、ミカンキイロアザミウマは発生ほ場率11%（過去8年の平均8%）、1花当たり生息密度0.01頭（過去8年の平均0.1頭）であった。
- ② 県中部の施設栽培キュウリにおける4月中旬のミナミキイロアザミウマは発生ほ場率46%（平均34%）、ミカンキイロアザミウマは発生ほ場率0%（平均6%）であった。
- ③ 5月の気象予報による。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 生息密度の低い時期から薬剤防除を行う。

# Ⅲ. 果 樹

## <カンキツ>

### 1. かいよう病

- (1) 予報内容 発生時期 並（初発日の平均5月22日）  
発生量 並

- (2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（有田川町奥）における「宮川早生」の展葉期は4月19日（平均4月19日）であった。
- ② 予察ほ場（無防除、有田川町奥）における春葉の越冬病斑の発病葉率は7.0%（平均10.0%）であった。
- ③ 前年10月中旬の県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における春葉発病の発生ほ場率は11%（平均20%）、発病葉率は0.2%（平均0.5%）であった。



(2) 予報の根拠

① 前年10月中旬の発生ほ場率は2%（平年5%）、寄生果率は0.05%（平年0.4%）であった。

② 予察式によると、第1世代1齢幼虫初発日は5月9日（実測値の平年5月12日）と予想される。

③ 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 第1世代1齢幼虫初発日から35～40日後の2齢幼虫最盛期が防除適期である。

## 7. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除）における黄色粘着トラップによる4月1日～20日の誘殺数は由良町1頭（平年8.2頭）、有田川町2頭（平年2.2頭）であった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 防風樹のイヌマキやサンゴジュの近くでは発生が多くなるので、特に丁寧に薬剤防除を行う。

## <カ キ>

### 1. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 前年10月の「富有」の発生ほ場率は69%（平年77%）、発病葉率は6.0%（平年17.4%）であった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 子のう胞子飛散最盛期は4月下旬～5月上旬であり、この時期に水和硫黄剤を散布する。前年多発したほ場では、この時期の防除を徹底する。

② 4～5月に降水量が少なく、乾燥気味に経過すると発病が助長される。

③ 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、薬液は葉裏をねらって丁寧に散布する。

### 2. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 前年10月の「富有」における発生ほ場率は31%（平年38%）、発病葉率は1.0%（平年3.2%）であった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 子のう胞子飛散は、5月上中旬から始まり、5月下旬～7月中旬の降雨後に多い。二次感染はしない。

② 薬剤防除は5月から8月までマンゼブ水和剤、マンネブ水和剤、有機銅水和剤等を定期的に予防散布する。

### 3. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 前年10月の「富有」における発生ほ場率は94%（平年64%）、発病葉

率は 25.7%（平年 10.0%）であった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 分生子による感染は5月上中旬から始まり、7月中下旬まで続く。二次感染を繰り返す。

② 薬剤防除は円星落葉病に準ずる。

#### 4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における黄色粘着トラップによる4月1～20日の誘殺数は0頭（平年3.9頭）であった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 開花期～落弁期に防除する。

② 防風樹のイヌマキやサンゴジュの近くでは発生が多くなるので、特に丁寧に薬剤防除を行う。

## <モ モ>

#### 1. せん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部の4月中旬の発病葉の発生ほ場率は0%（平年14%）、発病葉率は0%（平年0.4%）、発病枝の発生ほ場率は40%（平年22%）、発病枝率は0.8%（平年1.1%）であった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 春型越冬病斑形成枝は葉への伝染源となるので剪除する。

② 果実発病は5月以降の風雨により多くなるので、降雨直前の予防散布を徹底する。予防散布ができなかった場合、降雨後できるだけ早く薬剤散布を行う。

③ 本病の防除薬剤のうち、マイコシールドは連用すると葉先の黄化を生じることがあるので注意する。

④ 令和6年度病害虫防除技術情報第2号（令和6年4月19日発表）を参照する。

#### 2. カイガラムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の4月中旬のカイガラムシ類（ウメシロカイガラムシ雌成虫・クワシロカイガラムシ雌成虫・ナシマルカイガラムシ幼虫）の寄生枝の発生ほ場率は10%（平年21%）、寄生枝率は0.1%（平年0.9%）であった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹体生育期における防除適期は、第1世代のふ化幼虫発生時期であるため、ふ化幼虫発生盛期の少し後に薬剤散布を実施する。

② 県北部のクワシロカイガラムシのふ化幼虫発生盛期は5月4日前後と予想している。

## <キウイフルーツ>

## 1. かいよう病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における4月中旬の発病葉の発生ほ場率は0%（過去5年の平均0%）であった。

② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 新梢の萎れ・黒変や樹液の漏出がみられる枝は、前年枝の基部から切除する。

② 作業に使用した器具類（ハサミ、ノコギリ等）は70%エタノールで消毒する。

③ 風当たりの強いほ場では、防風対策を行う。

## <果樹全般>

### 1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

① 県内47地点のチャバネアオカメムシ越冬成虫の捕獲頭数は落葉50リットル当たり2.9頭（前年0.0頭、平年0.5頭）、捕獲地点率は48.9%（前年2.1%、平年21.9%）であった。

② 紀の川市粉河の予察灯における4月1～20日の誘殺数はチャバネアオカメムシが13頭（平年1.3頭）、ツヤアオカメムシが23頭（同2.1頭）であった。有田川町奥の予察灯における4月1～20日の誘殺数はチャバネアオカメムシが25頭（平年0.9頭）、ツヤアオカメムシが51頭（同1.2頭）であった。みなべ町東本庄の予察灯における4月1～20日の誘殺数はチャバネアオカメムシが5頭（平年1.4頭）、ツヤアオカメムシが150頭（同22.0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きいので、ほ場内での発生及び被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。

② 山林に隣接するほ場はカメムシ類の飛来時期が早いので、ほ場内での発生状況を観察して早めに防除する。

③ ウメでは被害の品種間差が大きく、小梅類等の収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるので、これらの品種では特に注意が必要である。

④ カンキツでは蕾、花が加害されるので、被害状況を観察して防除する。

⑤ 今後の発生動向については、農林水産部鳥獣害対策課ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

⑥ 令和6年病虫害発生予察注意報第1号（令和6年4月25日発表）を参照する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○鳥獣害対策課ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

# 病害虫発生予報 第3号（6月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

## < 予報の概要 >

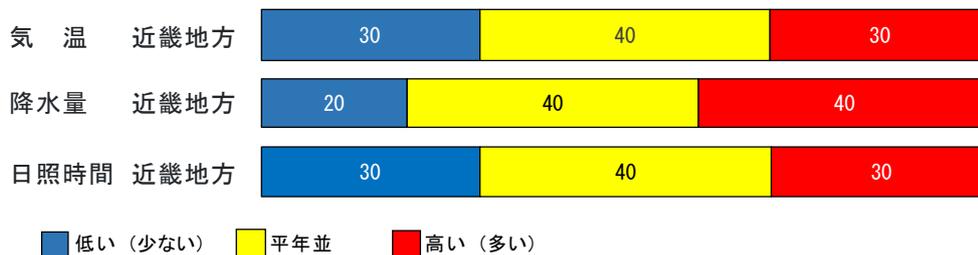
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	いもち病	並	カンキツ	黒点病	やや多
	ヒメトビウンカ	並		かいよう病	並
	縞葉枯病	やや少		ミカンハダニ	やや多
	ツマグロヨコバイ	並		ヤノネカイガラムシ	やや少
	セジロウンカ	並		チャノキイロアザミウマ	やや少
	トビイロウンカ	並		アブラムシ類	やや少
ウリ科野菜	イネミズゾウムシ	やや少	カキ	うどんこ病	並
	モザイク病	並		円星落葉病	やや少
	べと病	並		角斑落葉病	やや多
	褐斑病	やや多		カキクダアザミウマ	並
	うどんこ病	やや少	チャノキイロアザミウマ	並	
	疫病	並	フジコナカイガラムシ	並	
野菜全般	つる枯病	並	モモ	せん孔細菌病	並
	炭疽病	やや多	カイガラムシ類	カイガラムシ類	並
	アブラムシ類	並	キウイフルーツ	かいよう病	並
	ハダニ類	並		果樹全般	カメムシ類
	ミナミキイロアザミウマ	県北部 やや多 県中部 やや少			
	ミカンキイロアザミウマ	県北部 やや多 県中部 並			
シロイチモジヨトウ	並 やや少				

## 気象予報

### 近畿地方 1か月予報（05/25～06/24）

2024年05月23日14時30分 大阪管区気象台 発表		
向こう1か月 05/25～06/24	天候	期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
1週目 05/25～05/31	気温	1週目は、平年並または低い確率ともに40%です。
2週目 06/01～06/07	気温	2週目は、低い確率50%です。
3～4週目 06/08～06/21	気温	3～4週目は、高い確率50%です。

### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



# I. 水 稲

## 1. いもち病（苗いもち、葉いもち）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 低温、日照不足、長雨が続く条件で発生しやすい。

② 県南部の早植え地域の常発地では気象条件に注意し、発生を認めたら直ちに薬剤防除を行う。

③ 県北部、県中部の普通期栽培地域では、「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」などの罹病性品種を作付けする場合には育苗箱施薬剤を施用する。

④ 田植え後の余り苗を水田に放置しない。

## 2. ヒメトビウンカおよび縞葉枯病

(1) 予報内容 ヒメトビウンカ 発生量 並  
縞葉枯病 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 予察灯による5月1～20日の誘殺数は、紀の川市、上富田町および那智勝浦町でいずれも0頭（平年：紀の川市0頭、上富田町0頭、那智勝浦町0.2頭）であった。

② 県北部におけるヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市1.2%（平年5.0%）、かつらぎ町1.8%（平年5.4%）であった。

③ 県北部および中部の本田における前年のイネ縞葉枯病の発生面積率は0%（平年3%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、雑草地付近での育苗を避ける。

② 田植え時はヒメトビウンカに効果がある育苗箱施薬剤を施用する。

③ 第2世代成虫は6月中旬頃に水田に飛来し、第3世代幼虫の発生最盛期は6月下旬頃と考えられることから、前年に縞葉枯病の発生が認められた地域では、この時期の幼虫を対象に追加防除を行う。

## 3. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 予察灯による5月1～20日の誘殺数は、紀の川市、上富田町および那智勝浦町でいずれも0頭（平年：紀の川市0頭、上富田町0.2頭、那智勝浦町0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 田植え時にツマグロヨコバイに効果がある育苗箱施薬剤を施用する。

## 4. セジロウンカ

(1) 予報内容 発生時期 早い 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 予察灯への初飛来は、上富田町4月4日（平年6月4日）、那智勝浦町4月30日（平年6月3日）であった。5月20日現在、紀の川市（平年6月21日）では飛来を認めていない。

② 予察灯による5月1～20日の誘殺数は、紀の川市、上富田町および那智勝浦町でいずれも0頭（平年：紀の川市0.1頭、上富田町0.3頭、那智勝

浦町 0.6 頭) であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 田植え時にセジロウンカに効果がある育苗箱施薬剤を施用する。
- ② フィプロニル剤に対する感受性低下が報告されている。

5. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生時期 並 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 5月20日現在、県内の予察灯(紀の川市、上富田町、那智勝浦町)への飛来は認められていない(平年の5月1~20日の誘殺数:紀の川市0頭、上富田町0.1頭、那智勝浦町0頭。平年の初飛来日:6月24日)。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 田植え時にトビイロウンカに効果がある育苗箱施薬剤を施用する。
- ② イミダクロプリド剤、クロチアニジン剤、チアメトキサム剤に対する感受性低下が報告されている。

6. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 予察灯による5月1~20日の誘殺数は、紀の川市1頭(平年0頭)、上富田町0頭(平年26.0頭)、那智勝浦町3頭(平年17.4頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① イネミズゾウムシに効果がある育苗箱施薬剤を施用していないほ場で、田植え3~7日後に成虫による食害株率が30%あるいは成虫が1株あたり0.5頭を超える場合は、直ちに薬剤防除を実施する。

※ 水稲害虫の発生動向については、鳥獣害対策課ウェブページ内農作物病虫害防除所の水稲害虫の予察灯誘殺消長も参考にする。

## II. 野 菜

### <ウリ科野菜>

1. モザイク病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培キュウリおよび露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率はいずれも0%(平年:キュウリ0%、スイカ0%)であった。
- ② 県中部の施設栽培キュウリおよび露地栽培スイカにおける5月中下旬の発生ほ場率はいずれも0%(平年:いずれも0%)であった。
- ③ アブラムシ類の発生は平年並と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① アブラムシ類の防除を行う。

2. ベと病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は40%(平年46%)、発病葉率は3.1%(平年5.3%)であった。
- ② 県中部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は46%(平年

62%)、発病葉率は1.9% (平年14.8%)であった。

③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。

② 薬剤防除は予防散布を重点に、薬液が葉裏に十分かかるように行う。

### 3. 褐斑病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は20% (平年7%)、発病葉率0.5% (平年0.2%)であった。

② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。

② 罹病葉や収穫後の残さは速やかに処分する。

③ 資材に付着した病原菌の胞子が伝染源になるので、支柱等再利用する資材は栽培終了後に消毒する。ネットやマルチ等は更新する。

### 4. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は0% (平年：発生ほ場率19%、発病葉率1.3%)であった。

② 県中部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は73% (平年81%)、発病葉率は11.2% (平年24.6%)であった。

③ 県北部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0% (平年0%)であった。

④ 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0% (平年0%)であった。

⑤ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培やトンネル栽培では風通しを良くし、薬剤防除は薬液が葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。

### 5. 疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0% (平年0%)であった。

② 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0% (平年0%)であった。

③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤防除は予防散布を重点に、6月上旬頃から定期的に行う。

② ほ場の排水を良くし、マルチ、敷わらを行う。

### 6. つる枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0% (平年0%)であった。

② 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0% (平年0%)であった。

%)であった。

③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 梅雨期の降雨にともない株元から発病するので、薬剤散布にあたっては薬液が株元にも十分かかるように行う。

## 7. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0% (平年0%)であった。

② 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0% (平年：発生ほ場率7%、発病葉率0.6%)であった。

③ 5月下旬の強風を伴う大雨および6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 6月以降の露地条件で降雨が続くと、病斑上の胞子が雨滴などで飛散するため被害が拡大しやすい。降雨前の予防散布に努める。

## <野菜全般>

### 1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の施設栽培ナスにおける5月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は10% (平年1%)、生息葉率は0.2% (平年0.04%)、ワタアブラムシの発生ほ場率は20% (平年0%)、生息葉率は0.4%であった。

② 県中部の露地栽培スイカにおける5月下旬のワタアブラムシの発生ほ場率は56% (平年60%)、生息葉率は1.3% (平年3.6%)であった。

③ 黄色水盤(紀の川市)の5月1~20日の飛来数は30頭 (平年175頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

### 2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 県北部 やや多

県中部 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の施設栽培ナスにおける5月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は40% (平年10%)、生息葉率は1.5% (平年1.3%)、ナミハダニの発生ほ場率は20% (平年0%)、生息葉率は0.8%であった。

② 県中部の露地栽培スイカにおける5月下旬のカンザワハダニの発生ほ場率は44% (平年64%)、生息葉率は2.9% (平年8.5%)、ナミハダニの発生ほ場率は0% (平年：発生ほ場率12%、生息葉率1.9%)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

### 3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 県北部 やや多

県中部 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培ナスにおける5月中旬の発生ほ場率は50%（平成25年）、生息葉率は6.9%（平成4.0%）であった。
- ② 県中部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は40%（平成48%）、生息葉率は3.9%（平成4.5%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。
  - ② 施設栽培では、栽培終了後に抜根した上で7～10日間以上施設を密閉して死滅させ、後作や周辺の野菜等での発生源とならないようにする。

#### 4. ミカンキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部の施設栽培ナスにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率2.4%、生息葉率0.4%）であった。
  - ② 県中部の露地栽培スイカにおける5月下旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率1%、生息葉率0.0%）であった。
  - ③ 県中部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率17%、生息葉率2.9%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

#### 5. シロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 県中部の露地栽培スイカにおける5月下旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率5%、生息葉率0.1%）であった。
  - ② フェロモントラップによる5月1～20日の誘殺数は、紀の川市4頭（平成4.5頭）、御坊市4頭（平成29.8頭）であった。
  - ③ 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 若齢幼虫を対象に初期防除に努める。
  - ② 幼虫は作物の生長点付近の未展開葉の芯部に潜入するので、薬剤による防除効果が上がりにくい。初期は局部的に発生するので、管理作業時に見つけしだい捕殺する。
  - ③ 施設栽培では、栽培終了後に20日程度施設を密閉して死滅させ、後作の発生源にならないようにする。

## Ⅲ. 果 樹

### <カンキツ>

#### 1. 黒点病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 5月下旬までに薬剤散布を実施していないほ場では早急（6月上旬）に防除を行う。
  - ② マンゼブ剤またはマンネブ剤を用いる場合、散布後の累積降水量が200～250mmとなった時点、または1か月を経過した時点のどちらかの早いタ

イミングで次の散布を行う。

- ③ 伝染源となる枯枝や剪定枝の処理を徹底する。

## 2. かいよう病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）における越冬病斑の発生葉率は7.0%（平成10.0%）であった。

② 前年10月中旬の県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における春葉発病の発生ほ場率は11%（平成20%）、発病葉率は0.2%（平成0.5%）であった。

③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬害対策を講じた上で銅水和剤の予防散布を行う。

② 罹病枝葉の剪除と防風垣や防風ネットの整備に努める。

## 3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場における5月中旬の100葉あたりの雌成虫数は、無防除区28頭（平成31.7頭、多発年であった令和元年を除いた過去9年の平均9.4頭）、マシン油乳剤を散布している慣行防除区0頭（平成0.6頭）であった。

② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性対策としてマシン油乳剤の散布を励行する。マシン油乳剤の散布は発生初期に行うと高い防除効果が得られる。

## 4. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容 発生時期 並

第1世代1齢幼虫最盛期 5月23～27日

同 2齢幼虫最盛期 6月14～23日

同 雌成虫初発日 6月17～21日

発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）における第1世代1齢幼虫の初発は5月10日（平成5月12日）であった。

② 前年10月中旬の発生ほ場率は2%（平成5%）、寄生果率は0.05%（平成0.4%）であった。

③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 防除適期の2齢幼虫最盛期にネオニコチノイド系等の殺虫剤を散布する。

## 5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除）における黄色粘着トラップによる5月1～20日の誘殺数は由良町17頭（平成30.7頭）、有田川町14頭（平成12.9頭）であった。

② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 地域での発生活長調査の結果を参考にするとともにほ場内の観察に努め、適期に薬剤散布を行う。
- ② 防風樹のイヌマキやサンゴジュの近くでは発生が多くなるので、特に丁寧に薬剤防除を行う。

## 6. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）における5月中旬の発生新梢率は0%（平年1.7%）であった。
  - ② 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 各ほ場で発生状況を観察し、適期防除に努める。

## <カ キ>

### 1. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部における5月中旬の「富有」での発生ほ場率は24%（平年18%）、発病葉率は0.6%（平年0.5%）であった。
  - ② 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 伝染源となる病斑上の分生子は、6月以降活発に形成され伝染を繰り返す。病原菌は葉裏の気孔から侵入するため、薬剤防除にあたっては葉裏にも丁寧に薬液を散布する。

### 2. 円星落葉病

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 前年10月の「富有」における発生ほ場率は31%（平年38%）、発病葉率は1.0%（平年3.2%）であった。
  - ② 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 子のう胞子飛散は、5月上中旬から始まり、5月下旬～7月中旬の降雨後に多い。二次感染はしない。
  - ② 薬剤防除は、5月から8月までマンゼブ水和剤、マンネブ水和剤、有機銅水和剤等を定期的に予防散布する。

### 3. 角斑落葉病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 前年10月の「富有」における発生ほ場率は94%（平年64%）、発病葉率は25.7%（平年10.0%）であった。
  - ② 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 分生子による感染は5月上中旬から始まり、7月中下旬まで続く。二次感染を繰り返す。
  - ② 薬剤防除は、円星落葉病に準ずる。

### 4. カキクダアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における5月中旬の発生ほ場率は0%（平成1%）であった。
- ② 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における黄色粘着トラップによる4月21日～5月20日の誘殺数は0頭（平成1.3頭）であった。
- ③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 防除適期は新成虫飛来期の6月上中旬である。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における黄色粘着トラップによる4月21日～5月20日の誘殺数は2頭（平成3.3頭）であった。
- ② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 防除適期は新成虫飛来期の6月中下旬である。

6. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における5月中旬の「富有」での発生ほ場率は0%（平成8%）、寄生花蕾率は0%（平成0.2%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 防除適期であるふ化幼虫発生盛期の6月上中旬に薬剤を散布する。多発ほ場では特に丁寧な散布を心がける。

<モ モ>

1. せん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における5月中旬の葉での発生ほ場率は0%（平成69%）、発病葉率は0%（平成2.4%）であった。
- ② 県北部における5月中旬の果実での発生ほ場率は10%（過去6年の平均17%）、発病果率は0.2%（同0.6%）であった。
- ③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 防風ネット、防風樹の設置などの防風対策を励行する。

2. カイガラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における5月中旬のカイガラムシ類（ウメシロカイガラムシ・クワシロカイガラムシ・ナシマルカイガラムシ）の寄生枝の発生ほ場率は0%（平成5%）、寄生枝率は0%（平成0.2%）であった。
- ② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 防除適期であるふ化幼虫発生盛期に薬剤を散布する。多発ほ場では特に丁寧な散布を心がける。
- ② 近年の第2世代ふ化幼虫発生盛期は、ウメシロカイガラムシが7月1～5日頃、クワシロカイガラムシが7月11～15日頃、ナシマルカイガラムシが7月21日～8月5日頃である。ほ場の主な発生種に合わせて薬剤散

布を行う。

## ＜キウイフルーツ＞

### 1. かいよう病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における5月中旬の発病葉の発生ほ場率は0%（過去5年の平均0%）であった。

② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 新梢の萎れ・黒変や樹液の漏出がみられる枝は、前年枝の基部から切除する。

② 作業に使用した器具類（ハサミ、ノコギリ等）は70%エタノールで消毒する。

③ 風当たりの強いほ場では、防風対策を行う。

## ＜果樹全般＞

### 1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

① 紀の川市粉河の予察灯における5月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが3,279頭（前年6頭、平年156頭）、ツヤアオカメムシが1,027頭（前年8頭、平年95頭）であった。

② 有田川町奥の予察灯における5月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが479頭（前年1頭、平年94頭）、ツヤアオカメムシが657頭（前年4頭、平年289頭）であった。

③ みなべ町東本庄の予察灯における5月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが1,015頭（前年55頭、平年234頭）、ツヤアオカメムシが3,895頭（前年71頭、平年1,611頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きいので、ほ場内での発生および被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。

② 山林に隣接するほ場でカメムシ類の飛来する時期が早いので、このようなほ場では特に注意が必要である。

③ ウメの被害は品種間差が大きい。小梅類等の収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるので、これらの品種では特に注意が必要である。

④ カキでは「富有」で被害が大きいため、特に注意が必要である。

⑤ 今後の発生動向については、農林水産部鳥獣害対策課ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

⑥ 令和6年病虫害発生予察注意報第1号（令和6年4月25日発表）及び令和6年病虫害防除技術情報第3号（令和6年5月29日発表）を参照する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○鳥獣害対策課ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

# 病害虫発生予報 第4号（7月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

< 予報の概要 >

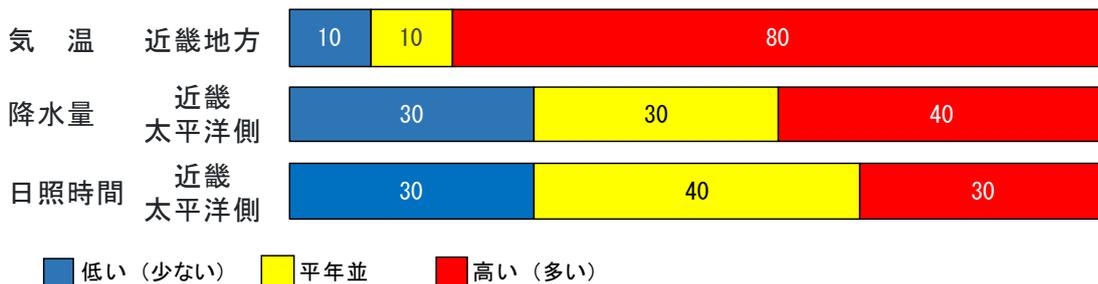
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	いもち病	並	野菜全般	シロイチモジヨトウ	やや少
	紋枯病	並		カンキツ	黒点病 かいよう病 ミカンハダニ ヤノネカイガラムシ チャノキイロアザミウマ ゴマダラカミキリ
	縞葉枯病	並			
	ヒメトビウンカ	並			
	ツマグロヨコバイ	やや多			
	セジロウンカ	やや多	カキ	炭疽病 うどんこ病 円星落葉病 角斑落葉病 フジコナカイガラムシ	やや多 並 並 やや多 並
トビイロウンカ	並				
コブノメイガ	並	ナス科野菜	疫病	並	
ウリ科野菜	疫病				並
うどんこ病	並				
つる枯病	並				
野菜全般	炭疽病	並	モモ	せん孔細菌病 カイガラムシ類	並 並
	疫病	並			
	アブラムシ類	並	果樹全般	カメムシ類	多
	ハダニ類	やや多			
ミナミキイロアザミウマ	並				
ミカンキイロアザミウマ	並				

気象予報

近畿地方 1か月予報（06/22～07/21）

2024年06月20日14時30分 大阪管区気象台 発表		
特に注意を要する事項	期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。	
向こう1か月 06/22～07/21	天候	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率80%です。
	降水量	降水量は、近畿日本海側で平年並または多い確率ともに40%です。
1週目 06/22～06/28	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 06/29～07/05	気温	2週目は、高い確率60%です。
3～4週目 07/06～07/19	気温	3～4週目は、高い確率50%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



# I. 水 稲

## 1. いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の発病株率は0%（平年0.7%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 低温、日照不足、長雨が続きと発生しやすい。

② 補植用苗は葉いもちの発生源となるので、早急に処分する。

③ 常発地や罹病性品種（「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」等）の栽培ほ場では初発時期に注意し、発生がみられたら直ちに薬剤防除を行う。

## 2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の発病株率は0%（平年0%）であった。

② 県北部および中部の普通期栽培における前年9月上旬の発病株率は15.2%（平年14.9%）であった。

③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 梅雨明け後の高温期から病勢が急激に進展するので、常発地や前年の多発ほ場では幼穂形成期～穂ばらみ期の防除を徹底する。

## 3. 縞葉枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の発病株率は0%（平年0%）であった。

② 県北部および中部の本田における前年のイネ縞葉枯病の発生面積率は0%（平年5%）であった。

③ 県北部におけるヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市1.2%（平年5.0%）、かつらぎ町1.8%（平年5.4%）であった。

④ ヒメトビウンカの7月の発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ヒメトビウンカの防除を行う。本虫の第2世代成虫は6月下旬頃に水田に飛来し、第3世代幼虫の発生最盛期は7月上旬頃と考えられる。前年に縞葉枯病の発生が認められた地域では、幼虫を対象にこの時期の追加防除を行う。

## 4. ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の25株あたり生息密度は0頭（平年0.2頭）であった。

② 予察灯による6月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年1.1頭）、上富田町0頭（平年0.4頭）、那智勝浦町0頭（平年1.2頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 育苗箱施薬剤を施用した6月田植えのほ場では、縞葉枯病の発生が認められる地域以外は7月の防除は必要ない。

## 5. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県南部(田辺市以南)の早期栽培における6月中旬の25株あたり生息密度は1.8頭(平成0.6頭)であった。

② 予察灯による6月1～20日の誘殺数は、紀の川市69頭(平成11.9頭)、上富田町0頭(平成1.1頭)、那智勝浦町6頭(平成7.3頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 育苗箱施薬剤を施用した6月田植えのほ場では、7月の防除は必要ない。

## 6. セジロウンカ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県南部(田辺市以南)の早期栽培における6月中旬の25株あたり生息密度は1.2頭(平成0.4頭)であった。

② 予察灯による6月1～20日の誘殺数は、紀の川市2頭(平成2.7頭)、上富田町3頭(平成3.7頭)、那智勝浦町2頭(平成11.0頭)であった。

③ 予察灯への初飛来は、紀の川市5月26日(平成6月21日)、上富田町4月4日(平成6月4日)、那智勝浦町4月30日(平成6月3日)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ツマグロヨコバイに準ずる。

## 7. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県南部(田辺市以南)の早期栽培における6月中旬の25株あたり生息密度は0頭(平成0頭)であった。

② 予察灯による6月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭(平成0頭)、上富田町0頭(平成0.3頭)、那智勝浦町0頭(平成0.4頭)であった。

③ 予察灯への初飛来は、紀の川市(平成7月16日)、上富田町(平成6月24日)、那智勝浦町(平成6月29日)とも6月20日現在認めていない。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発生ほ場では、出穂前の防除に努める。本虫は株元に多く生息するので、薬剤が株元に届くように散布する。

## 8. コブノメイガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県南部(田辺市以南)の早期栽培における6月中旬の25株あたり被害葉数は0葉(平成0葉)であった。

② 紀の川市の蛍光灯誘殺箱による6月1～20日の誘殺数は0頭(平成0頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 第1世代の発蛾最盛期は平成7月下旬頃である。防除適期は、粒剤の場合は第1世代の発蛾最盛期、その他の薬剤(乳剤、水溶剤、フロアブル

等) の場合は第 2 世代幼虫発生時期 (第 1 世代の発蛾最盛期の 7 日後) である。

- ② 幼穂形成期後、出穂期頃までに上位 2 葉の被害葉率が 40% になると 10% 程度減収する。それ以降の被害は被害葉率 80% 以上でも収量・品質に及ぼす影響は小さいので、県南部の早期栽培では防除の必要性は低い。

※ 水稲害虫の発生動向については、鳥獣害対策課ウェブページ内農作物病虫害防除所の水稲害虫の予察灯誘殺消長も参考にする。

## Ⅱ. 野 菜

### <ウリ科野菜>

#### 1. 疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培スイカにおける 6 月中旬の発生ほ場率は 0% (平年 0%) であった。

② 県中部の露地栽培スイカにおける 6 月中旬の発生ほ場率は 0% (平年 0%) であった。

③ 7 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ほ場の排水を良くし、冠水や滞水を防ぐ。

#### 2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培スイカにおける 6 月中旬の発生ほ場率は 0% (平年 0%) であった。

② 県中部の露地栽培スイカにおける 6 月中旬の発生ほ場率は 12% (平年 1%)、発病葉率 0.4% (平年 0.0%) であった。

③ 県北部の施設栽培キュウリにおける 6 月中旬の発生ほ場率は 10% (平年 27%)、発病葉率 0.2% (3.2%) であった。

④ 7 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

#### 3. つる枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培スイカにおける 6 月中旬の発生ほ場率は 0% (平年：発生ほ場率 1%、発病葉率 0.01%) であった。

② 県中部の露地栽培スイカにおける 6 月中旬の発生ほ場率は 0% (平年：発生ほ場率 1%、発病葉率 0.0%) であった。

③ 7 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 降雨にともない株元から発病するので、薬剤散布にあたっては薬液が株元にも十分かかるように行う。

#### 4. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率5%、発病葉率0.2%）であった。

② 県中部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は12%（平年20%）、発病葉率0.9%（平年2.0%）であった。

③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発病した茎葉や果実は、ほ場外に持ち出す。

② 降雨日が連続すると多発する可能性があるため、長雨が予想される場合は予防散布を実施する。

### <ナス科野菜>

#### 1. 疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 県中部の露地栽培ミニトマトにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率1%、発病株率0.4%）であった。

③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 梅雨末期の多雨で急激に病勢が進展するため、降雨前の予防散布に努める。予防散布ができなかった場合は降雨後に早急に防除する。

② ほ場の排水を良くし、冠水や滞水を防ぐ。

### <野菜全般>

#### 1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける6月中旬の生息葉率は、モモアカアブラムシ2.6%（平年0.4%）、ワタアブラムシ0.3%（平年1.0%）であった。

② 県中部の露地および施設栽培スイカにおける6月中旬のワタアブラムシの発生ほ場率は80%（平年78%）、生息葉率は9.7%（平年8.7%）であった。

③ 黄色水盤（紀の川市）による6月1～20日の誘殺数は18頭（平年118.2頭）であった。

④ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

#### 2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける6月中旬の発生ほ場率は、カンザワハダニ56%（平年28%）、ナミハダニ11%（平年5%）であった。

② 県中部の露地および施設栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は、

カンザワハダニ 87% ( 平年 46% ) 、ナミハダニ 0% ( 平年 8% ) であつた。

③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

### 3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける6月中旬の発生ほ場率は22% ( 平年 20% ) 、生息葉率は1.9% ( 平年 6.0% ) であつた。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。

② 施設栽培では、栽培終了後に抜根した上で7～10日間以上施設を密閉してアザミウマを死滅させ、後作や周辺の野菜等での発生源にならないようにする。

### 4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける6月中旬の発生ほ場率は0% ( 平年：発生ほ場率5%、生息葉率0.7% ) であつた。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

### 5. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地および施設栽培スイカにおける6月中旬の被害果率は0.3% ( 平年 4.8% ) であつた。

② フェロモントラップによる6月1～20日の誘殺数は、紀の川市12頭 ( 平年 17.2頭 ) 、御坊市20頭 ( 平年 50.3頭 ) であつた。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 若齢幼虫を対象に初期防除に努める。

② 幼虫は作物の生長点付近の未展開葉に潜入するので、薬剤による防除効果が上がりにくい。初期は局部的に発生するので、管理作業時に見つけしだい捕殺する。

## Ⅲ. 果 樹

### <カンキツ>

#### 1. 黒点病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部 ( 海南市下津町 ) 、県中部、県南部 ( 田辺市 ) における6月中旬の発生ほ場率は13% ( 平年 13% ) 、発病果率は1.5% ( 平年 1.7% ) であつた。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① マンゼブ剤またはマンネブ剤を用いる場合、散布後の累積降水量が 200～250mm となった時点または 1 か月を経過した時点のどちらかの早いタイミングで次の散布を行う。
- ② 過乾燥等で樹勢が衰弱すると伝染源の枯れ枝が増えるおそれがあるため、かん水等の栽培管理を適切に行う。

2. かいよう病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における 6 月中旬の春葉での発生ほ場率は 23%（平成 21%）、発病葉率は 1.6%（平成 0.8%）であった。
- ② 7 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 罹病枝葉は果実への伝染源になるので剪除する。
- ② ミカンハモグリガの食害痕は病原菌の侵入口となるため本害虫の防除を徹底する。
- ③ 罹病性品種では強風雨前に銅水和剤の予防散布を徹底する（薬害軽減のための措置を講じる）。
- ④ 防風ネット設置などの防風対策に努める。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における 6 月中旬の発生ほ場率は 39%（平成 31%）、発生葉率は 5.0%（平成 11.6%）、100 葉あたり雌成虫数は 15.0 頭（平成 37.9 頭）であった。
- ② 7 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤を年間に 2 回以上使用しない。
- ② 薬剤抵抗性対策として 97%・98%マシン油乳剤の散布を励行する。ただし、高温強日射時の散布は薬害が発生しやすい。また、7 月中旬以降の散布は果実品質を低下させるおそれがあるので、散布は 7 月上旬までとする。

4. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における 6 月中旬の発生ほ場率は 0%（平成 0%）であった。
- ② 7 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 6 月下旬に防除できなかつた発生ほ場では、7 月上旬に 97%・98%マシン油乳剤を散布する。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における 6 月中旬の発生ほ場率は 0%（平成 1%）、寄生果率は 0%（平成 0.1%）であっ

た。

② 予察ほ場（無防除）における黄色粘着トラップによる6月1～20日の誘殺数は、由良町133頭（平年187頭）、有田川町28頭（平年123頭）であった。

③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 地域での発生活消長調査の結果を参考に適期防除に努める。

## 6. ゴマダラカミキリ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における6月中旬の発生ほ場率は0%（平年2%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 成虫の捕殺に努めるとともに、薬剤を散布する。

② 発生が多いほ場では、7月中旬以降に成虫の産卵防止および幼虫対象の防除として薬剤を主幹から株元に散布する。

## <カ キ>

### 1. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部における6月中旬の発生ほ場率は「富有」6%（平年1%）、「平核無」・「刀根早生」0%（平年0%）であった。発病新梢率は「富有」0.3%（平年0.0%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発病枝や発病果がみられる場合は剪除する。

② 密植ほ場や風通しの悪い場所は発病しやすいので、ほ場内の通風・採光をはかる。

### 2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における6月中旬の発生ほ場率は「富有」63%（平年46%）、「平核無」・「刀根早生」24%（平年16%）であった。発病葉率は「富有」2.4%（平年2.2%）、「平核無」・「刀根早生」1.1%（平年0.6%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に散布する。

② 盛夏期には一時病勢は停滞するが、好適な気象条件やほ場条件で秋季まで二次伝染を繰り返すので、必要に応じて薬剤散布を行う。

### 3. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 前年10月の「富有」における発生ほ場率は31%（平年38%）、発病葉率は1.0%（平年3.2%）であった。

② 県北部では感染時期である5月上旬から6月上旬にかけて降水量が平年並～かなり多く推移した。

- ③ 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 子のう胞子飛散は、5月上中旬から始まり、5月下旬～7月中旬の降雨後に多い。二次伝染はしない。
  - ② 薬剤防除は、5月から8月までマンゼブ水和剤、マンネブ水和剤、有機銅水和剤等を定期的に予防散布する。

#### 4. 角斑落葉病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 前年10月の「富有」における発生ほ場率は94%（平年64%）、発病葉率は25.7%（平年10.0%）であった。
  - ② 県北部では感染時期である5月上旬から6月上旬にかけて降水量が平年並～かなり多く推移した。
  - ③ 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 分生子による感染は5月上中旬から始まり、7月中下旬まで続く。二次伝染を繰り返す。
  - ② 薬剤防除は、円星落葉病に準ずる。

#### 5. フジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部における6月中旬の発生ほ場率は「富有」19%（平年15%）、「平核無」・「刀根早生」0%（平年4%）であった。寄生果率は「富有」0.6%（平年0.8%）、「平核無」・「刀根早生」0%（平年0.1%）であった。
  - ② 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 樹体生育期における防除適期は、ふ化幼虫発生時期である。
  - ② 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における近年の第2世代ふ化幼虫の初発は7月下旬頃であり、回目の防除適期は8月上旬頃と思われる。

### <モ モ>

#### 1. せん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部における6月中旬の発病葉の発生ほ場率は80%（平年79%）であった。発病葉率は3.6%（平年5.3%）、発病果率は0%（平年5.5%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 防風対策に取り組む。防風ネット、防風樹設置ほ場では保守点検を行う。
  - ② 翌年の伝染源軽減のため、秋季に無機銅水和剤を散布する。

#### 2. カイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部における6月中旬のカイガラムシ類（ウメシロカイガラムシ・クワシロカイガラムシ・ナシマルカイガラムシ）の寄生枝の発生ほ場率は0%（平年5%）、寄生枝率は0%（平年0.2%）であった。

- ② 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 樹体生育期における防除適期は、ふ化幼虫発生時期であるため、ふ化幼虫発生盛期から1週間以内に薬剤散布を実施する。
- ② 県北部の第2世代ふ化幼虫発生盛期は、ウメシロカイガラムシが6月29日前後、クワシロカイガラムシが7月7日前後と予想される。ナシマルカイガラムシは、7月21日～8月5日頃である。ほ場の主な発生種に合わせて薬剤散布を行う。

## <果樹全般>

### 1. カメモムシ類

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 紀の川市粉河の予察灯における6月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメモムシが2,740頭（前年17頭、平年138頭）、ツヤアオカメモムシが7,225頭（前年11頭、平年262頭）であった。
- ② 有田川町奥の予察灯における6月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメモムシが6,154頭（前年2頭、平年141頭）、ツヤアオカメモムシが2,914頭（前年2頭、平年236頭）であった。
- ③ みなべ町東本庄の予察灯における6月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメモムシが1,931頭（前年121頭、平年376頭）、ツヤアオカメモムシが3,448頭（前年302頭、平年1,267頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹カメモムシ類の飛来量はほ場間差が大きく、山林隣接ほ場では被害が出やすい傾向がある。
- ② カキでは「富有」で被害が大きいため、特に注意が必要である。
- ③ モモは袋がけを行っていても果実が肥大して袋に密着すると袋の上から吸汁されるので、園内の発生状況をよく観察し、発生があれば薬剤散布を行う。除袋後は特に注意が必要である。
- ④ 今後の発生動向については、農林水産部鳥獣害対策課ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメモムシ情報や各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。
- ⑤ 令和6年度病虫害発生予察注意報第2号（令和6年6月21日発表）を参照する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○鳥獣害対策課ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

# 病害虫発生予報 第 5 号（8 月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

## < 予報の概要 >

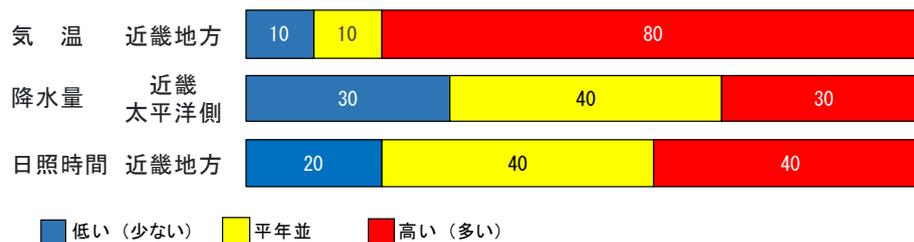
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	いもち病	並	野菜全般	ハスモンヨトウ	並
	紋枯病	県北部・中部 並 県南部 やや多		シロイチモジヨトウ	並
	縞葉枯病	並	カンキツ	黒点病	並
	ヒメトビウンカ	並		かいよう病	やや少
	ツマグロヨコバイ	並		ミカンハダニ	やや多
	セジロウンカ	やや多		ヤノネカイガラムシ	並
	トビイロウンカ	並		チャノキイロアザミウマ	並
	イチモンジセセリ	並		ゴマダラカミキリ	並
	コブノメイガ	やや多	カキ	炭疽病	多
	斑点米カメムシ類	やや多		うどんこ病	並
トマト・ミニトマト	疫病	並		円星落葉病	並
	黄化葉巻病	多		角斑落葉病	やや多
野菜全般	アブラムシ類	やや少	果樹全般	フジコナカイガラムシ	並
	ミナミキイロアザミウマ	並		カメムシ類	多
	ミカンキイロアザミウマ	並			

## 気象予報

### 近畿地方 1 か月予報（07/27～08/26）

2024年07月25日14時30分 大阪管区気象台 発表		
特に注意を要する事項		期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
向こう1か月 07/27～08/26	天候	平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率80%です。
	日照時間	日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。
1 週目 07/27～08/02	気温	1 週目は、高い確率80%です。
2 週目 08/03～08/09	気温	2 週目は、高い確率80%です。
3～4 週目 08/10～08/23	気温	3～4 週目は、高い確率70%です。

### 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）





(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり生息密度は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では5.5頭（平年1.8頭）、県北部および中部の普通期栽培では0.2頭（平年1.5頭）であった。
- ② 予察灯による7月1～20日の誘殺数は、紀の川市10頭（平年4.2頭）、上富田町11頭（平年18.5頭）、那智勝浦町95頭（平年196.2頭）であった。

## 6. セジロウンカ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり生息密度は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では31.7頭（平年24.4頭）、県北部および中部の普通期栽培では2.5頭（平年14.7頭）であった。
- ② 予察灯による6月1日～7月20日の誘殺数は、紀の川市357頭（平年20.6頭）、上富田町137頭（平年73.2頭）、那智勝浦町41頭（平年68.2頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 穂ばらみ期に株あたり成幼虫10頭以上の発生を認めた場合は薬剤散布を行う。

## 7. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり生息密度は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では0頭（平年0.03頭）、県北部および中部の普通期栽培では0頭（平年0.2頭）であった。
- ② 予察灯による6月1日～7月20日の誘殺数は、紀の川市4頭（平年2.3頭）、上富田町0頭（平年18.0頭）、那智勝浦町1頭（平年22.4頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 8月中旬の発生に注意し、株あたり成幼虫5頭以上の発生を認めた場合は薬剤散布を行う。

## 8. イチモンジセセリ（イネツトムシ）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたりツト数は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では0（平年0.02）、県北部および中部の普通期栽培では0（平年0.01）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 8月上旬の発生に注意し、若齢幼虫の防除に重点を置く。

## 9. コブノメイガ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり上位2葉の被害は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では2.0葉（平年1.2葉）、県北部および中部の普通期栽培では0.9葉（平年0.2葉）であった。
- ② 蛍光灯誘殺箱（紀の川市）による7月1日～7月20日の誘殺数は1頭（平年1.3頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 幼穂形成期後、出穂期頃までに上位2葉の被害葉率が40%になると10%程度減収する。それ以降の被害は被害葉率80%以上でも収量・品質に及ぼす影響は小さいので、県南部の早期栽培では防除の必要性は低い。

## 10. 斑点米カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠

- ① 県南部(田辺市以南)の早期栽培の本田における7月中旬の捕虫網20回振りによる捕獲虫数は17.3頭(平年4.1頭)であった。
- ② 予察灯による7月1~20日の誘殺数は、紀の川市13頭(過去9年の平均73.9頭)、上富田町47頭(過去9年の平均31.8頭)、那智勝浦町292頭(過去9年の平均149.9頭)であった。

- ③ 8月の気象予報による。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 出穂の早い作型で、周辺に雑草が繁茂していると被害を受けやすい。
- ② イネ科雑草が発生源となる。本田への成虫の飛来を防ぐためには、出穂10日前までにはほ場周辺を除草する。
- ③ イネカメムシが多く生息しているほ場は、不稔被害防止のため出穂期に防除する。
- ④ カスミカメムシ類の発生が多い場合は穂ぞろい期(出穂3日後)に薬剤散布する。出穂後、本田内で大型のカメムシ類の飛来を認めたら、乳熟期(出穂10日後)から糊熟期(出穂20日後)に薬剤散布する。

※ 水稻害虫の発生動向については、鳥獣害対策課ウェブページ内農作物病虫害防除所の水稻害虫の予察灯誘殺消長も参考にする。

## II. 野 菜

### <トマト・ミニトマト>

#### 1. 疫病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培ミニトマトにおける7月下旬の発生ほ場率は0%(平年5%)であった。
- ② 8月の気象予報による。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 排水を良くし、株元に滞水しないようにする。
- ② 露地栽培では、降雨前の予防散布に努める。降雨前に散布できなかつた場合は降雨後に早急に防除する。

#### 2. 黄化葉巻病

- (1) 予報内容 発生量 多
- (2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培ミニトマトにおける7月下旬の発生ほ場率は100%(平年41%)であった。
- ② 8月の気象予報による。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。
- ② 施設栽培では育苗ほ、本ほとも施設開口部へ目合い0.4mm以下の防虫ネ

- ットを展張し、媒介虫であるタバココナジラミの侵入を防止する。
- ③ 施設栽培では、定期的な薬剤散布および定植期の粒剤処理等により、育苗期から本ほ初期のタバココナジラミ防除を徹底する。

## ＜野菜全般＞

### 1. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部の露地栽培ナスにおける7月中旬の生息葉率は、ワタアブラムシ0%（平成1.1%）、モモアカアブラムシ0%（平成0.9%）であった。
  - ② 黄色水盤（紀の川市）による7月1～20日の飛来数は27頭（平成19.9頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
  - ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

### 2. ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量 多
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部の露地栽培ナスにおける7月中旬の発生ほ場率および生息葉率は、カンザワハダニでそれぞれ78%（平成29%）、15.6%（平成5.5%）、ナミハダニでそれぞれ33%（平成10%）、12.4%（平成2.6%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
  - ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

### 3. ミナミキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部の露地栽培ナスにおける7月中旬の発生ほ場率は22%（平成14%）、生息葉率は0.7%（平成2.4%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① ナスでは、収穫果実の選別時に被害を認めたら防除を始める。
  - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
  - ③ 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。
  - ④ 施設栽培では、栽培終了後に抜根した上で7～10日間以上施設を密閉してアザミウマを死滅させ、後作や周辺の野菜等での発生源とならないようにする。

### 4. ミカンキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部の露地栽培ナスにおける7月中旬の発生ほ場率および生息葉率は、いずれも0%（平成：発生ほ場率3%、生息葉率0.2%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

### 5. ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部の露地栽培ナスにおける7月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発

生ほ場率 3%、生息葉率 0.1%) であった。

② フェロモントラップによる 7 月 1～20 日の誘殺数は、和歌山市 141 頭（平年 143.5 頭）、紀の川市 57 頭（平年 117.5 頭）、御坊市 55 頭（平年 162.6 頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。

② 抑制栽培エンドウでは、ウイルス病、鳥害や防風対策を兼ねて、は種後 40～50 日間寒冷紗被覆を行うと被害が軽減される。

## 6. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① フェロモントラップによる 7 月 1～20 日の誘殺数は、紀の川市 17 頭（平年 26.8 頭）、御坊市 49 頭（平年 66.7 頭）であった。

② 8 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ハスモンヨトウに準ずる。

## Ⅲ. 果 樹

### <カンキツ>

#### 1. 黒点病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における 7 月中旬の果実での発生ほ場率は 30%（平年 26%）、発病果率は 7.2%（平年 5.0%）であった。

② 8 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 秋雨時期における後期感染防止のため、8 月中下旬の防除を徹底する。

② 伝染源となる枯枝や剪定枝の処理を徹底する。

③ 過乾燥等で樹勢が衰弱すると枯枝が増えるおそれがあるため、かん水等の栽培管理を適切に行う。

#### 2. かいよう病

(1) 予報内容 果実発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における 7 月中旬の春葉での発生ほ場率は 16%（平年 28%）、発病葉率は 0.3%（平年 1.0%）であった。

② 8 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 台風の接近等で強風雨が予想される場合には事前に薬剤散布を行う。

② 夏秋梢の病斑は翌春の主要な伝染源になるので剪除に努める。

③ ミカンハモグリガによる新葉の食害痕は病原菌の侵入口となる。幼木や高接樹では新葉が発生しやすいため本害虫の防除を徹底する。

④ 防風ネット設置などの防風対策に努める。

### 3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の発生ほ場率は44%（平年22%）、発生葉率は14.6%（平年5.6%）、100葉あたり雌成虫数は59.8頭（平年17.0頭）であった。

② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。

### 4. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の発生ほ場率は0%（平年1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 第2世代2齢幼虫の発生最盛期は8月下旬頃と考えられる。発生ほ場ではこの時期に、散布むらがなく葉裏までかかるように、十分量の薬液を丁寧に散布する。

### 5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の発生ほ場率は0%（平年1%）、果実の被害ほ場率は20%（平年18%）であった。

② 予察ほ場（無防除）における黄色粘着トラップによる7月1～20日の誘殺数は、由良町128頭（平年158頭）、有田川町79頭（平年144頭）であった。

③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 地域での発生消長調査の結果を参考に適期防除に努める。

② 発生ほ場およびイヌマキやサンゴジュに隣接するほ場では防除を徹底する。

### 6. ゴマダラカミキリ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の発生ほ場率は0%（平年1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 成虫の捕殺に努めるとともに、放任ほ場周辺など発生の多いほ場では、産卵防止および食入幼虫対象の防除として薬液を主幹から株元に散布する。

## <カ キ>

### 1. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

① 県北部における7月中旬の発生ほ場率は「富有」31%（平年5%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平年0%）であった。

- ② 県北部における7月中旬の発病果率は「富有」1.3%（平年0.4%）であった。
- ③ 8月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 発病枝や発病果がみられる場合は剪除する。
  - ② 台風が接近する場合は事前に薬剤を散布する。散布できなかつたほ場では台風通過後速やかに散布する。
  - ③ 密植ほ場や風通しの悪い場所は発病しやすいので、ほ場内の通風・採光をはかり、薬液をかかりやすくする。
  - ④ 令和6年度病害虫発生予察注意報第5号（令和6年7月30日発表）を参照する。

## 2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部における7月中旬の発生ほ場率は「富有」69%（平年66%）、「刀根早生」・「平核無」24%（平年22%）であった。
  - ② 県北部における7月中旬の発病葉率は「富有」5.9%（平年4.4%）、「刀根早生」・「平核無」0.7%（平年0.8%）であった。
  - ③ 8月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。
  - ② 一般に盛夏期の発病は一時休止するが、山間部や風通しの悪いほ場は発病を繰り返しやすいので、これらのほ場では秋雨前の予防散布に努める。

## 3. 円星落葉病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部における前年10月の「富有」における発生ほ場率は31%（平年38%）、発病葉率は1.0%（平年3.2%）であった。
  - ② 県北部では感染時期である5月上旬から7月中旬にかけて降水量が平年並～かなり多く推移した。
  - ③ 8月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。
  - ② 子のう胞子の飛散が続く8月上旬まで防除が必要である。

## 4. 角斑落葉病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部における前年10月の「富有」における発生ほ場率は94%（平年64%）、発病葉率は25.7%（平年10.0%）であった。
  - ② 県北部では感染時期である5月上旬から7月中旬にかけて降水量が平年並～かなり多く推移した。
  - ③ 8月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。
  - ② 本病は7月頃から発病し二次伝染を繰り返すので、多発ほ場では発病後も防除を励行する。

## 5. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における7月中旬の発生ほ場率は「富有」38%（平成48%）、  
「刀根早生」・「平核無」6%（平成11%）であった。

② 県北部における7月中旬の寄生果率は「富有」1.1%（平成3.0%）、  
「刀根早生」・「平核無」0.1%（平成0.7%）であった。

③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 第2世代ふ化幼虫の発生時期は7月下旬～8月上旬頃と考えられる。発生ほ場では8月上旬頃に、散布むらがなくへたにもかかるように、十分量の薬液を丁寧に散布する。

## <果樹全般>

### 1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

① 県北部のカキにおける7月中旬の被害発生ほ場率は「富有」81%（平成11%）、  
「刀根早生」・「平核無」59%（平成5%）であった。また被害果率は「富有」10.9%（平成0.4%）、  
「刀根早生」・「平核無」4.6%（平成0.1%）であった。

② 紀の川市粉河の予察灯における7月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが13,934頭（前年114頭、平成466頭）、ツヤアオカメムシが4,490頭（前年6頭、平成185頭）であった。

③ 有田川町奥の予察灯における7月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが9,926頭（前年16頭、平成637頭）、ツヤアオカメムシが2,811頭（前年3頭、平成156頭）であった。

④ みなべ町東本庄の予察灯における7月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが6,541頭（前年301頭、平成823頭）、ツヤアオカメムシが1,650頭（前年31頭、平成239頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 果樹カメムシ類の飛来量は園地間差が大きく、特に山林隣接ほ場では早くから被害が出やすい。

② 飛来の多いカンキツ園では落果が多数発生する可能性があるため、防除を徹底する。

③ カキでは「富有」で被害が大きいため、特に注意が必要である。

④ ほ場内での果樹カメムシ類の発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。

⑤ 今後の発生動向については、農林水産部鳥獣害対策課ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

⑥ 令和6年度病虫害発生予察注意報第4号（令和6年7月12日発表）を参照する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○鳥獣害対策課ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稻、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

# 病害虫発生予報 第6号（9月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

## < 予報の概要 >

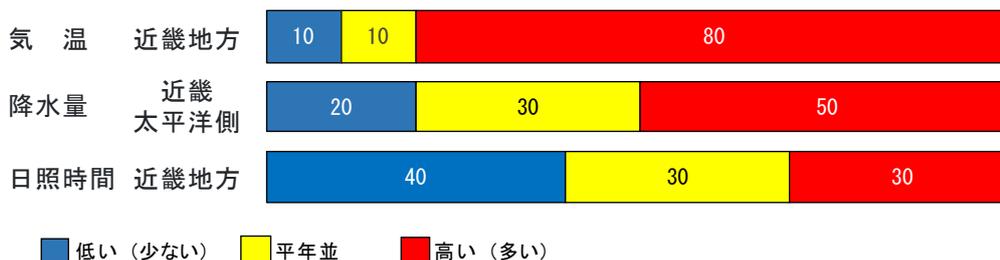
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	いもち病	やや少	野菜・花 き全般	ミナミキイロアザミウマ	並
	紋枯病	やや少		ミカンキイロアザミウマ	並
ダイコン ハクサイ キャベツ	トビイロウンカ	並	カンキツ	シロイチモジヨトウ	やや多
	イチモンジセセリ	並		黒点病	並
	コブノメイガ	やや多		かいよう病	やや多
	斑点米カメムシ類	やや多		ミカンハダニ	並
野菜・花 き全般	アブラムシ類	やや多	カキ	チャノキイロアザミウマ	多
	ハダニ類	やや多		炭疽病	やや少
果樹全般			果樹全般	うどんこ病	並
				円星落葉病	並
				角斑落葉病	少
				フジコナカイガラムシ	少
				カメムシ類	多

## 気象予報

### 近畿地方 1か月予報（08/24～09/23）

2024年08月22日14時30分 大阪管区気象台 発表		
特に注意を要する事項	2週目は、気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう1か月 08/24～09/23	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。近畿太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率80%です。
	降水量	降水量は、近畿日本海側で平年並または高い確率ともに40%、近畿太平洋側で高い確率50%です。
1週目 08/24～08/30	気温	1週目は、高い確率60%です。
2週目 08/31～09/06	気温	2週目は、高い確率80%です。
3～4週目 09/07～09/20	気温	3～4週目は、高い確率80%です。

### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



# I. 水 稲

## 1. いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部および中部の普通期栽培における8月上旬の葉いもちの発生ほ場率は25%（平成34%）、発病株率は1.2%（平成7.6%）であった。

② 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① いもち病に感受性が高い品種（「キヌヒカリ」等）の作付ほ場では今後の気象推移に注意する。

② 常発地では次作から、いもち病に感受性が高い品種の作付けを避ける。

## 2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部および中部の普通期栽培における8月上旬の発生ほ場率は4%（平成27%）、発病株率は0.3%（平成5.0%）であった。

② 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 第3葉鞘以上の上位葉で発病すると減収などの被害に繋がる。病斑が上位葉鞘まで達している場合は早急に防除を実施する。また、病斑が上位葉鞘まで達していなくても、発病株が多い場合は防除を実施する。

② 発生が多いほ場では、次作の伝染源となる菌核の形成が多くなる。次作は密植にならないよう注意し、防除を徹底する。

## 3. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 8月上旬の25株あたり生息密度は、県北部の普通期栽培では0頭（平成0.3頭）、県中部の普通期栽培では0.1頭（平成2.8頭）であった。

② 予察灯による6月1日～8月20日の飛来数は、紀の川市4頭（平成6.1頭）、上富田町0頭（平成22.0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① トビイロウンカの発生量は地域間やほ場間で大きな差があるため、ほ場毎に発生状況を確認する。なお、同一ほ場内においても発生に偏りがあり局所的に多発することから、ほ場の全体をよく観察する必要がある。

② 本種は増殖率が高いため、現在は低密度のほ場でも坪枯れ被害を引き起こす恐れがある。定期的に発生状況を確認し、1株あたり5頭以上の成虫・幼虫を確認したら、早急に薬剤防除を実施する。

③ 本種は株元に生息するので、薬液が株元に十分到達するように散布する。

## 4. イチモンジセセリ（イネツトムシ）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 8月上旬の25株あたりツトム数は、県北部の普通期栽培では0（平成0.1）、県中部の普通期栽培では0（平成0）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 8月下旬～9月上旬に蛹化し9月中旬以降に成虫となるため、防除の必要はない。

## 5. コブノメイガ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 8月上旬の25株あたり被害葉数は、県北部の普通期栽培では1.1葉（平成0.3葉）、県中部の普通期栽培では3.3葉（平成1.8葉）であった。

② 紀の川市の蛍光灯誘殺箱による8月1～15日の成虫誘殺数は、8頭（平成5.4頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 9月以降は被害葉率が高くても減収率は低い。また、次世代幼虫の出現がないため、防除の必要はない。

## 6. 斑点米カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① すくい取り調査（捕虫網20回振り）による8月上旬の発生ほ場率および平均成虫数は、県北部の普通期栽培で90%（平成73%）、16.0頭（平成7.8頭）、県中部の普通期栽培で83%（平成79%）、6.0頭（平成6.5頭）であった。

② 予察灯による8月1～20日の誘殺数は、紀の川市223頭（過去9年の平均170.0頭）、上富田町10頭（過去9年の平均12.4頭）であった。

③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 晩生品種では、乳熟期～糊熟期に薬剤を散布する。

※ 水稻害虫の発生動向については、鳥獣害対策課ウェブページ内農作物病虫害防除所の水稻害虫の予察灯誘殺消長も参考にする。

## II. 野菜・花き

### <ダイコン、ハクサイ、キャベツ>

#### 1. コナガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① フェロモントラップによる8月1～20日の誘殺数は、和歌山市2頭（平成0.5頭）、紀の川市0頭（平成0.2頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

### <野菜・花き全般>

#### 1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける8月下旬のワタアブラムシの発生ほ場率は44%（平成13%）、生息葉率は1.4%（平成1.3%）、モモアカアブラムシの発生ほ場率は22%（平成3%）、生息葉率は0.2%（平成0.2%）であった。

② アブラムシ類の黄色水盤（紀の川市）への8月1～20日の飛来数は、31頭（平成69.4頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① シルバーマルチと薬剤防除を併用してアブラムシ類の防除を行う。
- ② ハクサイ等の育苗では、防虫ネットで被覆して有翅虫の飛来を防ぐ。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける8月下旬のカンザワハダニの発生ほ場率は78% (平成23%)、生息葉率は4.4% (平成5.0%)、ナミハダニの発生ほ場率は44% (平成14%)、生息葉率14.8% (平成2.2%)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける8月下旬の発生ほ場率は44% (平成44%)、生息葉率は10.6% (平成11.6%)であった。

- ② 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。また、施設の開口部に防虫ネットを展張し、成虫の飛び込みを防ぐ。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ③ 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。

4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける8月下旬の発生ほ場率は11% (平成0%)、生息葉率は1.2% (平成0%)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

5. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① フェロモントラップによる8月1～20日の誘殺数は、紀の川市18頭 (平成35.5頭)、御坊市47頭 (平成75.7頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期 (ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき)の防除を心がける。

- ② 抑制栽培エンドウでは、ウイルス病、鳥害や防風対策を兼ねて、は種後40～50日間寒冷紗または防虫ネットで被覆すると被害が軽減される。

6. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける8月下旬の発生ほ場率は44% (平成1%)であった。

- ② フェロモントラップによる8月1～20日の誘殺数は、和歌山市204頭 (平成131.6頭)、紀の川市326頭 (平成226.3頭)、御坊市327頭 (平

- 年 161.1 頭)、印南町 33 頭 ( 平 年 77.2 頭 ) で あ っ た 。  
( 3 ) 防 除 上 考 慮 す べ き 諸 点  
① シロイチモジヨトウに準ずる。

## Ⅲ. 果 樹

### <カンキツ>

#### 1. 黒点病

( 1 ) 予 報 内 容 発 生 量 並

( 2 ) 予 報 の 根 拠

① 県北部 ( 海南市下津町 ) 、 県中部、 県南部 ( 田辺市 ) における 8 月下旬の発生ほ場率は 28% ( 平 年 40% ) 、 発 病 果 率 は 10.5% ( 平 年 10.6% ) で あ っ た 。

② 9 月の気象予報による。

( 3 ) 防 除 上 考 慮 す べ き 諸 点

① 8 月中下旬に防除できなかつたほ場では、 9 月上旬に早急に防除を行う。

② 伝染源となる枯枝や剪定枝の処理を徹底する。

#### 2. かいよう病

( 1 ) 予 報 内 容 発 生 量 ( 果 実 お よ び 夏 秋 梢 ) 並

( 2 ) 予 報 の 根 拠

① 県北部 ( 海南市下津町 ) 、 県中部、 県南部 ( 田辺市 ) における 8 月下旬の春葉病斑の発生ほ場率は 23% ( 平 年 25% ) 、 発 病 葉 率 は 1.1% ( 平 年 0.9% ) 、 果 実 の 発 病 果 率 は 1.7% ( 平 年 2.0% ) で あ っ た 。

② 9 月の気象予報による。

( 3 ) 防 除 上 考 慮 す べ き 諸 点

① 罹病性品種の場合、付傷すると果実発病のおそれがある。台風の接近等で強風雨が予想される場合には、事前に薬剤散布を行う。

② 夏秋梢の病斑は翌春の主要な伝染源になるので、 9 月以降翌春までに剪除する。

#### 3. ミカンハダニ

( 1 ) 予 報 内 容 発 生 量 や や 多

( 2 ) 予 報 の 根 拠

① 県北部 ( 海南市下津町 ) 、 県中部、 県南部 ( 田辺市 ) における 8 月下旬の発生ほ場率は 42% ( 平 年 13% ) 、 発 生 葉 率 は 13.6% ( 平 年 2.7% ) 、 100 葉あたりの雌成虫数は 45.9 頭 ( 平 年 6.6 頭 ) で あ っ た 。

② 9 月の気象予報による。

( 3 ) 防 除 上 考 慮 す べ き 諸 点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に 2 回以上使用しない。

② ミカンサビダニの発生が認められるほ場では、ミカンハダニとミカンサビダニの両種に適用のある有効薬剤を選択する。

#### 4. チャノキイロアザミウマ

( 1 ) 予 報 内 容 発 生 量 並

( 2 ) 予 報 の 根 拠

① 県北部 ( 海南市下津町 ) 、 県中部、 県南部 ( 田辺市 ) における 8 月下旬の果実の被害ほ場率は 23% ( 平 年 21% ) 、 被 害 果 率 は 1.6% ( 平 年 2.4

%)、100果あたりの生息虫数は0頭(平成0.0頭)であった。

② 予察ほ場(無防除)における黄色粘着トラップによる8月1~20日の誘殺数は由良町276頭(平成177頭)、有田川町63頭(平成53頭)であった。

③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 8月中旬以降に有効な殺虫剤を散布していないほ場および夏秋梢の多いほ場では、9月の発生状況をよく観察し、成幼虫の生息果率が15%以上の場合は薬剤防除を行う。

## <カ キ>

### 1. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」31%(平成11%)、「刀根早生」・「平核無」0%(平成1%)であった。

② 県北部における8月中旬の発病果率は、「富有」1.0%(平成0.5%)、「刀根早生」・「平核無」0%(平成0.0%)であった。

③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発病枝や発病果がみられる場合は剪除する。

② 降雨が続く場合は追加防除を行う。また、台風が接近する場合は事前に薬剤を散布し、できなかつた場合は台風通過後速やかに散布する。

③ 密植ほ場や風通しの悪い場所は発病しやすいので、ほ場内の通風・採光をはかり、薬液をかかりやすくする。

④ 令和6年度病害虫発生予察注意報第5号(令和6年7月30日発表)を参照する。

### 2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は「富有」69%(平成68%)、「刀根早生」・「平核無」6%(平成19%)であった。

② 県北部における8月中旬の発病葉率は「富有」3.1%(平成6.6%)、「刀根早生」・「平核無」0.1%(平成1.1%)であった。

③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。

② 秋季になり気温が低下すると再び病勢が増すので、二次伝染防止に努める。

### 3. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」0%(平成2%)、「刀根早生」・「平核無」0%(平成3%)であった。

② 県北部における8月中旬の発病葉率は、「富有」0%(平成0.0%)、「刀根早生」・「平核無」0%(平成0.1%)であった。

③ 県北部では感染時期である5月上旬から7月中旬にかけて降水量は平成並~かなり多いの間を推移した。

④ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

#### 4. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」0%（平成1%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平成2%）であった。
- ② 県北部における8月中旬の発病葉率は、「富有」0%（平成0.0%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平成0.0%）であった。
- ③ 県北部では主な感染時期である5月上旬から7月中旬にかけて降水量は平成並～かなり多いの間を推移した。
- ④ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。
- ② 本病は二次伝染を繰り返すので、10月上旬まで防除を励行する。

#### 5. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」19%（平成63%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平成20%）であった。
- ② 県北部における8月中旬の寄生果率は、「富有」0.5%（平成5.7%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平成0.8%）であった。
- ③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 主に果実とへたの間隙部に寄生しているので、薬液がこの部分にかかるように丁寧に散布する。

### <果樹全般>

#### 1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における8月中旬のカキの被害果率は、「富有」27.5%（平成4.7%）、「刀根早生」・「平核無」6.7%（平成0.4%）であった。
- ② 紀の川市粉河の予察灯における8月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが2,095頭（前年711頭、平成581頭）、ツヤアオカメムシが1,244頭（前年61頭、平成231頭）、クサギカメムシが849頭（前年1,132頭、平成449頭）であった。
- ③ 有田川町奥の予察灯における8月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが2,241頭（前年140頭、平成522頭）、ツヤアオカメムシが397頭（前年122頭、平成108頭）、クサギカメムシが676頭（前年199頭、平成185頭）であった。
- ④ みなべ町東本庄の予察灯における8月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが1,837頭（前年2,373頭、平成1,221頭）、ツヤアオカメムシが890頭（前年697頭、平成488頭）、クサギカメムシが144頭（前年982頭、平成404頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹カメムシ類の飛来時期・量はほ場間差が大きく、特に山林隣接ほ場では被害が出やすい傾向がある。
- ② ほ場内での果樹カメムシ類の発生及び被害状況をよく観察し、防除は発

生に応じて早めに行う。

- ③ カキでは「富有」、カンキツでは収穫時期の早い極早生品種で被害が大きいため発生に注意する。
- ④ 台風通過後や強風後に一時的に飛来が多くなることもあるので、ほ場内での発生に注意する。
- ⑤ 今後の発生動向については、鳥獣害対策課ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。
- ⑥ 令和6年度病虫害発生予察注意報第4号（令和6年7月12日発表）を参照する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○鳥獣害対策課ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

# 病害虫発生予報 第7号（10月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

## < 予報の概要 >

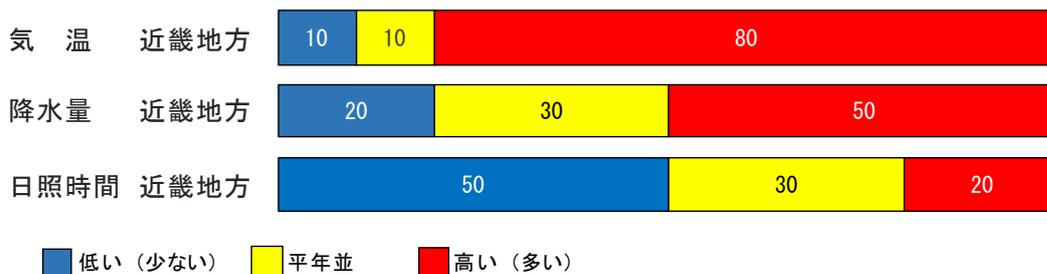
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
トマト・ミニトマト	黄化葉巻病	並	野菜・花き全般	シロイチモジヨトウ	やや多
				ハスモンヨトウ	やや多
エンドウ	褐斑病、褐紋病 うどんこ病 つる枯細菌病	並 並 並	カンキツ	オオタバコガ	並
				果実腐敗病 ミカンハダニ	やや多 やや多
アブラナ科野菜	コナガ	並	カキ	炭疽病 うどんこ病 円星落葉病 角斑落葉病 フジコナカイガラムシ	並 やや少 並 並 少
野菜・花き全般	アブラムシ類 ハダニ類 ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ	並 やや多 並 並		果樹全般	カメムシ類

## 気象予報

### 近畿地方 1か月予報（09/21～10/20）

2024年09月19日14時30分 大阪管区气象台 発表		
特に注意を要する事項	期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう1か月 09/21～10/20	天候	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率80%です。
	降水量	降水量は、多い確率50%です。
	日照時間	日照時間は、少ない確率50%です。
1週目 09/21～09/27	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 09/28～10/04	気温	2週目は、高い確率80%です。
3～4週目 10/05～10/18	気温	3～4週目は、高い確率70%です。

### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



# I. 野菜・花き

## <トマト、ミニトマト>

### 1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の施設栽培ミニトマトにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（  
平年：発生ほ場率8%、発病株率0.4%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 定期的な薬剤散布により本ほ初期のタバココナジラミ防除を徹底する。

② 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋める  
か、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。

③ 台風通過後は、施設の外張りフィルムおよび防虫ネットの保守点検を必  
ず行う。

④ 令和6年度病害虫発生予察注意報第6号（令和6年8月9日発表）を参  
照する。

## <エンドウ>

### 1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年  
：発生ほ場率1%、発病葉率0.0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。

② 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

### 2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年  
0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 開花期ごろから発生する。発生初期より防除を行う。

② 乾燥条件が続くと発生が多くなる。

### 3. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平年  
0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、  
褐紋病が日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見え  
ることで区別できる。

② 防風ネットの発病抑制効果は高い。

- ③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

## <アブラナ科野菜>

### 1. コナガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年0頭）、和歌山市6頭（平年14.7頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。  
② 収穫後の作物残さが発生源になり、周辺のは場に成虫が分散して発生が多くなるので、収穫後は速やかに残さをすき込む。

## <野菜・花き全般>

### 1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率2%、生息葉率0.4%）、ワタアブラムシの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率22%、生息葉率3.2%）であった。

- ② 黄色水盤（紀の川市）への9月1～20日の飛来数は74頭（平年129.1頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① シルバーマルチは有翅虫の飛来防止効果がある。  
② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。ネオニコチノイド系薬剤に対する感受性が低下したワタアブラムシが認められているので注意する。

### 2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は22%（平年14%）、生息葉率4.1%（平年2.7%）、ナミハダニの発生ほ場率は11%（平年9%）、生息葉率2.0%（平年1.6%）であった。

- ② 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬のハダニ類の発生ほ場率は59%（平年24%）、生息株率は14.1%（平年8.5%）であった。

- ③ 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。  
② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

### 3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は33%（平年49%）、生息葉率12.9%（平年12.3%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。また、施設の開口部に防虫ネットを展張し、成虫の飛び込みを防ぐ。

- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ③ 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。

#### 4. ミカンキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は11%（平成0%）、生息葉率は0.4%（平成0%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。
  - ② イチゴではミツバチの導入前に徹底防除を行う。

#### 5. シロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は59%（平成28%）、生息株率は12.9%（平成7.6%）であった。
  - ② フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市97頭（平成60.4頭）、御坊市35頭（平成64.8頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。
  - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

#### 6. ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は68%（平成20%）、生息葉率は1.9%（平成0.8%）であった。
  - ② 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は47%（平成23%）、生息株率は8.2%（平成3.7%）であった。
  - ③ フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市314頭（平成555頭）、和歌山市2,279頭（平成1,223頭）、御坊市1,407頭（平成925頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① シロイチモジヨトウに準ずる。

#### 7. オオタバコガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率11%、生息株率2.1%）であった。
  - ② フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市29頭（平成22.4頭）、御坊市6頭（平成3.0頭）、印南町0頭（平成2.0頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期の防除を心がける。

## Ⅱ．果 樹

### <カンキツ>

#### 1. 果実腐敗病（緑かび病、青かび病）

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 樹上の発病果や、これに接触している果実は速やかに除去する。
  - ② 収穫前の薬剤散布を励行する。
  - ③ 果実は丁寧に取り扱い、果面に傷をつけない。

#### 2. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
  - ① 予察ほ場（有田川町奥）における9月中旬の100葉あたり雌成虫数は、無防除区29頭（平成0.8頭）、慣行防除区38頭（平成0頭）であった。
  - ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① ほ場内を観察し、発生の増加がみられる場合は薬剤散布を行う。特に、9月に防除していないほ場では発生に注意する。
  - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。

### <カ キ>

#### 1. 炭疽病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は31%（平成30%）、発病果率は1.0%（平成1.4%）であった。
  - ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 発病枝や発病果実は伝染源になるため、ほ場内を巡回し、見つけ次第除去して土中に埋める。
  - ② 発病果実がみられるほ場や降雨が続くと予想される場合は薬剤防除を行う。また、台風が接近する場合は事前に薬剤を散布し、できなかった場合は台風通過後速やかに散布する。
  - ③ 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤のローテーション散布を行う。
  - ④ 軟弱徒長した枝が増えないように施肥による窒素過多に注意するとともに、強剪定を控える。冬季の剪定時に病斑を形成した枝を除去する。
  - ⑤ 排水不良ほ場、密植で通風の悪いほ場は発病しやすいため、ほ場内の環境改善に努める。

#### 2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は56%（平成62%）、発病葉率は3.1%（平成9.0%）であった。
  - ② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。
- ② 秋季になり気温が低下すると再び病勢が増すので、二次伝染防止に努める。

3. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は0%（平成9%）、発病葉率は0%（平成0.2%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

4. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は13%（平成31%）、発病葉率は2.1%（平成2.6%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

5. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は13%（平成61%）、寄生果率は0.3%（平成6.6%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 主に果実とへたの間隙部に寄生しているので、薬液がこの部分にかかるように丁寧に散布する。

<果樹全般>

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のカキ「富有」における9月中旬の果実の被害ほ場率は94%（平成41%）、被害果率は28.9%（平成6.5%）であった。
- ② 紀の川市粉河の予察灯による9月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが1,219頭（平成1,197頭）、ツヤアオカメムシが210頭（平成375頭）、クサギカメムシが108頭（平成134頭）であった。
- ③ 有田川町奥の予察灯による9月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが1,057頭（平成556頭）、ツヤアオカメムシが126頭（同343頭）、クサギカメムシが73頭（同37頭）であった。
- ④ みなべ町東本庄の予察灯による9月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが1,497頭（平成5,090頭）、ツヤアオカメムシが434頭（平成3,914頭）、クサギカメムシが61頭（平成153頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹カメムシ類の飛来時期・量はほ場間差が大きく、特に山林隣接ほ場では早くから被害が出やすい。
- ② ほ場内での発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。収穫が近いほ場では薬剤の収穫前日数に注意する。

- ③ カキでは「富有」、カンキツでは収穫時期の早い極早生品種で被害が大きいため発生に注意する。
- ④ 台風通過後や強風後に一時的に飛来が多くなることがあるので、ほ場内での発生に注意する。
- ⑤ 今後の発生動向については、鳥獣害対策課ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。
- ⑥ 令和6年度病虫害発生予察注意報第4号（令和6年7月12日発表）を参照する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○鳥獣害対策課ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

# 病害虫発生予報 第8号（11月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

## < 予報の概要 >

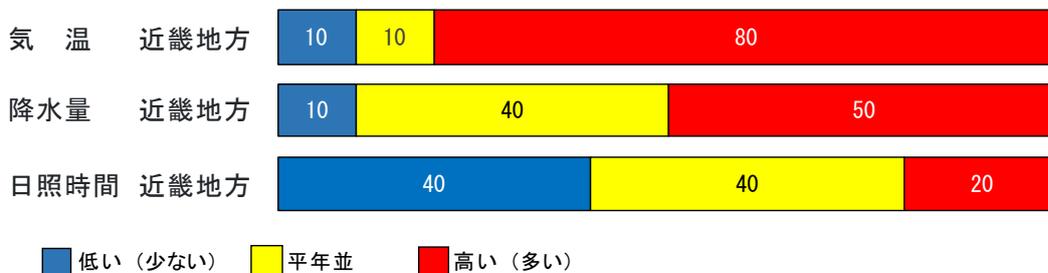
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
エンドウ	褐斑病、褐紋病	並	野菜・花 き全般	シロイチモジヨトウ	やや多
	うどんこ病	並		ハスモンヨトウ	多
	つる枯細菌病	並		オオタバコガ	やや多
	ハダニ類	並			
	ウラナミシジミ	多			
ハクサイ キャベツ	黒斑細菌病	並	カンキツ	果実腐敗病	やや少
	アブラムシ類	並		ミカンハダニ	やや多
	コナガ	やや少		カメムシ類	並
	ヨトウガ	並			

## 気象予報

### 近畿地方 1か月予報（10/26～11/25）

2024年10月24日14時30分 大阪管区气象台 発表		
特に注意を要する事項		期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。
向こう1か月 10/26～11/25	天候	近畿日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率80%です。
	降水量	降水量は、多い確率50%です。
	日照時間	日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。
1週目 10/26～11/01	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 11/02～11/08	気温	2週目は、高い確率70%です。
3～4週目 11/09～11/22	気温	3～4週目は、高い確率50%です。

### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



# I. 野菜・花き

## <エンドウ>

### 1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月下旬の発生ほ場率は6%（平成17年）、発病葉率は0.1%（平成0.6%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。

② 施設栽培では、降雨が多いと予想される場合は早めにビニル被覆を行う。

③ 薬剤の予防散布に努める。

④ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

### 2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月下旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率7%、発病葉率1%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では、低温期でも乾燥すると発生しやすい。

② 下位葉に病斑を認めたら薬剤散布を行う。

### 3. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月下旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率1%、発病葉率0.0%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、褐紋病の病斑は日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

② 防風ネットは予防効果が高い。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

### 4. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部における10月下旬の発生ほ場率は33%（平成27%）、生息株率は12.7%（平成11.1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

### 5. ウラナミシジミ

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県中部における 10 月下旬の被害発生ほ場率は 77%（平年 68%）、被害株率は 40.8%（平年 23.6%）であった。被害さや率は 18.8%（平年 7.0%）、1 花あたりの産卵数は 0.29 個（平年 0.22 個）であった。
- ② 11 月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 食入加害されたさやは、ほ場の外に持ち出し処分する。
  - ② 主な産卵部位である花や蕾に薬液が十分かかるよう、7～10 日間隔で防除を行う。
  - ③ 令和 6 年度病害虫発生予察注意報第 8 号（令和 6 年 10 月 30 日発表）を参照する。

## ＜ハクサイ、キャベツ＞

### 1. 黒斑細菌病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部のハクサイ、キャベツにおける 10 月下旬の発生ほ場率はいずれも 0%（平年：ハクサイ 0%、キャベツ 0%）であった。
  - ② 11 月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 降雨前に薬剤を予防散布する。

### 2. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部のキャベツにおける 10 月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は 27%（平年 16%）、生息株率は 2.7%（平年 2.5%）、ニセダイコンアブラムシの発生ほ場率は 18%（平年 29%）、生息株率は 1.8%（平年 7.5%）であった。
  - ② 黄色水盤（紀の川市）への 10 月 1～20 日の飛来数は、32 頭（平年 46.1 頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 薬剤散布にあたっては薬液が株元の葉裏に十分かかるように行う。

### 3. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部のキャベツにおける 10 月中旬の発生ほ場率は 0%（平年：発生ほ場率 7%、10 株あたり生息密度 0.0 頭）であった。
  - ② フェロモントラップによる 10 月 1～20 日の誘殺数は、和歌山市 15 頭（平年 65.6 頭）、紀の川市 0 頭（平年 0.2 頭）であった。
  - ③ 11 月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
  - ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

### 4. ヨトウガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
  - ① 県北部のキャベツにおける 10 月中旬の発生ほ場率は 9%（平年 3%）、生息株率は 0.5%（平年 0.4%）であった。
  - ② フェロモントラップによる 10 月 1～20 日の誘殺数は、紀の川市 2 頭（平年 7.9 頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生初期の若齢幼虫の防除に努める。

## <野菜・花き全般>

### 1. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は46%（平成5%）、生息株率は3.6%（平成0.3%）であった。
- ② 県中部のエンドウにおける10月下旬の発生ほ場率は13%（平成4%）、生息株率1.3%（平成0.5%）であった。
- ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市103頭（平成27.3頭）、御坊市91頭（平成69.6頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

### 2. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は73%（平成17%）、生息株率は17.3%（平成1.8%）であった。
- ② 県中部のエンドウにおける10月下旬の発生ほ場率は60%（平成14%）、生息株率は8.7%（平成2.5%）であった。
- ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、和歌山市7,432頭（平成1,504頭）、紀の川市1,883頭（平成994頭）、御坊市7,664頭（平成2,508頭）であった。
- ④ 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① シロイチモジヨトウに準ずる。
- ② 令和6年度病害虫発生予察注意報第7号（令和6年10月30日発表）を参照する。

### 3. オオタバコガ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月中旬の発生ほ場率は55%（平成7%）、生息株率は5.5%（平成0.5%）であった。
- ② 県中部のエンドウにおける10月下旬の発生ほ場率は20%（平成9%）、生息株率4.0%（平成1.1%）であった。
- ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市117頭（平成36.4頭）、御坊市197頭（平成31.4頭）、印南町70頭（平成43.3頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 中～老齢幼虫に対する薬剤の防除効果は低いので、若齢幼虫期に防除するよう努める。

## Ⅱ．果 樹

### <カンキツ>

#### 1. 果実腐敗病（緑かび病、青かび病）

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬のウンシュウミカン樹上果実の緑かび病発生ほ場率は0%（平成8%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹上の発病果や、これに接触している果実は速やかに除去する。

② 収穫前の薬剤散布を励行する。

③ 果実は丁寧に取り扱い、果面に傷をつけない。

#### 2. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬の発生ほ場率28%（平成11%）、発生葉率は7.1%（平成1.7%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 収穫前の薬剤散布は使用基準に特に留意する。

② 収穫時期まで袋かけを行う品種では袋かけ前に発生状況を確認し、必要に応じて薬剤散布を行う。

③ 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。

#### 3. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 紀の川市粉河の予察灯による10月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが106頭（平成189頭）、ツヤアオカメムシが71頭（平成308頭）であった。

② 有田川町奥の予察灯による10月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが97頭（平成92頭）、ツヤアオカメムシが58頭（平成466頭）であった。

③ みなべ町東本庄の予察灯による10月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが139頭（平成459頭）、ツヤアオカメムシが609頭（平成5,852頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ほ場内での発生及び被害状況をよく観察し、発生に応じて防除を行う。

② 発生がみられるほ場で薬剤散布する場合は、収穫期の散布となるので使用基準に十分注意する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○鳥獣害対策課ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/072000/d00216368.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

## 2. 病害虫の診断・同定の件数

### 1) 本所

作物分類	分類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
水稲	病害	0	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0	4
	虫害	0	0	2	3	2	1	0	0	0	0	0	0	8
	その他	1	0	1	0	3	2	1	0	0	0	0	0	8
野菜	病害	4	1	3	5	7	6	3	5	1	3	1	4	43
	虫害	3	1	2	3	5	2	9	5	1	4	1	2	38
	その他	4	4	1	5	3	1	5	1	0	3	1	0	28
花き	病害	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
	虫害	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	4
	その他	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	4
果樹	病害	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	虫害	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	病害	4	1	6	7	8	8	3	5	1	3	1	5	52
	虫害	5	1	5	6	7	4	9	6	2	4	1	2	52
	その他	7	4	2	5	6	3	8	1	0	3	1	0	40

### 2) 有田川駐在

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
常緑果樹	病害	15	21	6	5	7	7	2	4	3	6	3	7	86
	虫害	12	20	13	13	10	9	11	6	3	7	4	5	113
	その他	1	4	3	2	3	4	0	3	1	3	4	0	28

### 3) 紀の川駐在

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
落葉果樹	病害	12	12	5	4	1	4	2	0	3	0	1	5	49
	虫害	1	7	4	3	0	2	1	0	0	0	1	0	19
	その他	1	1	1	1	2	1	4	0	1	1	1	0	14

### 4) みなべ駐在

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
落葉果樹	病害	9	9	5	8	0	4	5	0	2	3	2	10	57
	虫害	10	11	1	2	2	4	5	0	4	3	0	5	47
	その他	0	2	3	2	3	3	1	1	1	1	0	0	17

### 5) 全体

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
合計	病害	40	43	22	24	16	23	12	9	9	12	7	27	244
	虫害	28	39	23	24	19	19	26	12	9	14	6	12	231
	その他	9	11	9	10	14	11	13	5	3	8	6	0	99

VI. 病害虫の発生経過の概要

都道府県	農作物名	有害動植物名	発生時期	発生量	発生過程の概要	発生原因の解析	防除の概要
和歌山県	早期水稲	葉いもち	4～7月	やや少	7月の発生ほ場率は0%(平成：発生ほ場率25%、発病株率5.7%)であった。	7～8月の気温が高かったため。	育苗箱薬剤剤及び適量施肥。初発時の薬剤防除。
和歌山県	早期水稲	穂いもち	7～8月	並	8月の発生ほ場率は0%(平成：発生ほ場率3%、発病穂率0.2%)であった。		通常は穂ばらみ期の薬剤防除。罹病性品種の作付ほ場及び山間地では穂揃い期に追加防除。
和歌山県	早期水稲	紋枯病	5～8月	並	8月の発生ほ場率は33%(平成25%)、発病株率は3.3%(平成2.9%)であった。		通常は穂ばらみ期1回の薬剤防除。出穂後も上位葉への進展が見られる場合は追加防除。
和歌山県	早期水稲	ばか苗病	5～6月	並	7月の発生ほ場率は0%(平成2%)であった。		種子消毒。
和歌山県	早期水稲	もみ枯細菌病	4月、8月	並	8月の発生ほ場率は0%(平成0%)であった。		育苗箱薬剤剤の施用と穂ばらみ期の薬剤防除。
和歌山県	早期水稲	綿葉枯病	6～9月	並	7月の発病株率は0%(平成0%)であった。		ヒメトビウカの防除。
和歌山県	早期水稲	稲こうじ病	8月	並	8月の発生ほ場率は0%(平成0%)であった。		穂いもちとの同時防除
和歌山県	早期水稲	セジロウカ	6～8月	やや多	予察灯への初飛来は、那智勝浦町4月30日(平成6月3日)、上富田町4月4日(平成6月4日)であった。25株あたり平均虫数は、7月が31.7頭(平成24.4頭)、8月が2.3頭(平成17.8頭)であった。	平年に比べて飛来が早かった。7月の高温の影響。	7月の薬剤防除。
和歌山県	早期水稲	トビウカ	6～8月	並	予察灯への初飛来は、那智勝浦町で7月2日(平成6月28日)であった。上富田町では予察灯への飛来はなかった(平成の初飛来日6月24日)。予察灯による6月1日～7月20日の誘殺数は、上富田町0頭(平成18.0頭)、那智勝浦町1頭(平成22.4頭)であった。8月の25株あたり平均虫数は0頭(平成1.5頭)であった。		7月の薬剤防除。
和歌山県	早期水稲	ヒメトビウカ	5～8月	並	25株あたり平均虫数は、7月が8.2頭(平成4.9頭)、8月が0頭(平成12.0頭)であった。		育苗箱薬剤剤の施用と7月の薬剤防除。
和歌山県	早期水稲	ツマグロヨコバイ	5～8月	やや多	25株あたり平均虫数は、6月が1.8頭(平成0.6頭)、7月が5.5頭(平成1.8頭)、8月が3.5頭(平成3.3頭)であった。	7月の高温の影響。	7月の薬剤防除。
和歌山県	早期水稲	斑点米カメムシ類	7～8月	やや多	本田における7月の捕虫網20回振りによる捕獲虫数は17.3頭(平成4.1頭)であった。予察灯による7月1～20日の誘殺数は上富田町47頭(平成28.8頭)、那智勝浦町292頭(平成136.5頭)であった。	7.8月の高温の影響。	畦畔及びほ場周辺の除草。乳熟期の薬剤散布。
和歌山県	早期水稲	コブノメイガ	6～8月	やや多	25株あたり平均被害葉数は、7月が2.0葉(平成1.2葉)、8月が1.7葉(平成2.3葉)であった。	7.8月の高温の影響。	7月の薬剤防除。
和歌山県	早期水稲	イネミズソウムシ	5～8月	並	6月の25株あたり平均虫数は0頭(過去9年の平均0.5頭)であった。		育苗箱薬剤剤の施用。
和歌山県	普通期水稲	葉いもち	5～8月	やや少	8月の発生ほ場率は25%(平成34%)、発病株率1.2%(7.6%)であった。	7～8月の気温が高かったため。	育苗箱薬剤剤。適量施肥。初発時の薬剤防除。
和歌山県	普通期水稲	穂いもち	8～9月	並	9月の発生ほ場率は4%(平成10%)であった。		通常は穂ばらみ期の薬剤防除。罹病性品種の作付圃場及び山間地では穂揃い期の追加防除。
和歌山県	普通期水稲	紋枯病	6～9月	やや少	9月の発生ほ場率は29%(平成54%)であった。		通常は穂ばらみ期1回の薬剤防除。出穂後も上位葉への進展が見られる場合は追加防除。
和歌山県	普通期水稲	ばか苗病	5～6月	並	8月の発生ほ場率は0%(平成0.4%)であった。		種子消毒。
和歌山県	普通期水稲	もみ枯細菌病	4月、8～9月	並	9月の発病穂率は0%(平成0.01%)であった。		育苗箱薬剤剤の施用と穂ばらみ期の薬剤防除。
和歌山県	普通期水稲	綿葉枯病	6～9月	並	8月の発生ほ場率は0%(平成：発生ほ場率3%、発病株率0.3%)であった。		ヒメトビウカの防除。
和歌山県	普通期水稲	稲こうじ病	9月	並	9月の発病株率は0%(平成0%)であった。		穂いもちとの同時防除
和歌山県	普通期水稲	ニカメイガ	6～10月	並	8月の25株あたり被害株数は0株(平成0株)であった。		1化期：育苗箱薬剤剤の施用。 2化期：8月の薬剤防除。
和歌山県	普通期水稲	セジロウカ	6～10月	並	予察灯への初飛来は、紀の川市5月26日(平成6月21日)であった。25株あたり平均虫数は、7月が2.5頭(平成14.7頭)、8月が25.2頭(平成23.0頭)、9月が3.5頭(平成10.1頭)であった。		育苗箱薬剤剤の施用。 8月の薬剤防除。
和歌山県	普通期水稲	トビウカ	6～10月	並	予察灯への初飛来は、紀の川市6月23日(平成7月20日)であった。25株あたり平均虫数は、7月が0頭(平成0.2頭)、8月が0.1頭(平成1.1頭)、9月が0.1頭(平成7.4頭)であった。		育苗箱薬剤剤の施用。 8月の薬剤防除。

都道府県	農作物名	有害動物名	発生時期	発生量	発生過程の概要	発生原因の解析	防除の概要
和歌山県	普通期水稻	ヒメトビウンカ	6~10月	やや少	25株あたり平均虫数は、7月が0.3頭(平年10.9頭)、8月が3.9頭(平年12.2頭)、9月が9.3頭(平年12.3頭)であった。	薬剤防除の効果が高かった。	育苗箱薬剤の施用。
和歌山県	普通期水稻	ツマグロヨコバイ	6~10月	やや多	25株あたり平均虫数は、7月が0.2頭(平年1.5頭)、8月が4.3頭(平年2.2頭)、9月が8.8頭(平年5.3頭)であった。	7,8月の高温の影響。	育苗箱薬剤の施用。 8月の薬剤防除。
和歌山県	普通期水稻	斑点米カメムシ類	8~10月	やや多	すくい取り調査(捕虫網20回振り)による8月の発生ほ場率および捕獲数は、県北部で90%(平年73%)、16.0頭(平年7.8頭)、県中部で83%(平年79%)、6.0頭(平年6.5頭)であった。	7,8月の高温の影響。	畦畔及びほ場周辺の除草。 乳熟期の薬剤散布。
和歌山県	普通期水稻	フタオビコヤガ	6月~8月	並	25株あたり平均虫数は8月が0頭(平年0頭)、9月が0頭(平年0頭)であった。		8月の薬剤防除。
和歌山県	普通期水稻	コブノメイガ	6~10月	やや多	紀の川市の蛍光灯誘殺箱による8月1日~8月15日の成虫誘殺数は、8.0頭(平年5.1頭)であった。25株あたり平均被害葉数は、7月が0.9葉(平年0.2葉)、8月が1.7葉(平年0.7葉)、9月が1.5葉(平年1.8葉)であった。	7,8月の高温の影響。	8月の薬剤防除。
和歌山県	普通期水稻	イネミズソウムシ	6~9月	並	7月の25株あたり平均虫数は0頭(過去9年の平均0頭)であった。		育苗箱薬剤の施用。
和歌山県	トマト(冬春)	疫病	8~6月	並	発生は認められなかった。		薬剤防除
和歌山県	トマト(冬春)	灰色かび病	1~4月	並	3月の発生ほ場率は0%(過去8年の平均3%)であった。		薬剤防除
和歌山県	トマト(冬春)	葉かび病	3~6月	並	3月の発生ほ場率は55%(過去6年の平均47%)であった。		薬剤防除
和歌山県	トマト(冬春)	モザイク病	8~6月	並	3月の発生ほ場率は0%(過去8年の平均0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	トマト(冬春)	黄化葉巻病	8~6月	やや多	3月の発生ほ場率は18%(過去8年の平均9%)であった。	タバコナジラミの薬剤に対する感受性低下。	タバコナジラミの防除
和歌山県	トマト(冬春)	タバコナジラミ	12~6月	多	5月の発生ほ場率は80%(平年44%)、生息葉率は16.5%(平年5.8%)であった。	感受性低下による薬剤の効果低下。	防虫ネットの展張。 薬剤防除
和歌山県	トマト(冬春)	アブラムシ類	12~6月	並	5月の発生ほ場率は7%(平年1%)であった。		防虫ネットの展張。 薬剤防除
和歌山県	トマト(夏秋)	疫病	5~11月	並	7月の発生ほ場率は0%(平年5%)であった。		薬剤防除
和歌山県	トマト(夏秋)	灰色かび病	5~11月	並	7月の発生ほ場率は0%(過去9年の平均0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	トマト(夏秋)	葉かび病	6~11月	やや少	7月の発生ほ場率は0%(過去8年の平均:発生ほ場率25%、発病株率4.4%)であった。	抵抗性品種の導入。	薬剤防除、抵抗性品種導入
和歌山県	トマト(夏秋)	モザイク病	6~11月	並	7月の発生ほ場率は0%(平年0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	トマト(夏秋)	黄化葉巻病	6~11月	多	7月の発生ほ場率は100%(平年41%)、発生株率は69.6%(平年6.4%)であった。	タバコナジラミの薬剤に対する感受性低下。	タバコナジラミの防除
和歌山県	ナス(冬春)	うどんこ病	12~6月	並	5月の発生ほ場率は21%(平年15%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ナス(冬春)	灰色かび病	12~5月	並	5月の発生ほ場率は0%(平年5%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ナス(冬春)	ミナミキイロアザミウマ	9~6月	やや多	5月の発生ほ場率は50%(平年25%)、生息葉率は6.9%(平年4.0%)であった。	4月の高温の影響。	薬剤防除
和歌山県	ナス(冬春)	アブラムシ類	9~6月	並	5月の生息葉率は、モモアカアブラムシ0.2%(平年0.04%)、ワタアブラムシ0.4%(平年0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ナス(冬春)	ハダニ類	9~6月	やや多	5月のカンザワハダニの発生ほ場率は40%(平年10%)、生息葉率は1.5%(平年1.3%)、ナミハダニの発生ほ場率は20%(平年0%)、生息葉率0.8%(平年0%)であった。	4月の高温の影響。	薬剤防除
和歌山県	ナス(冬春)	ハスモンヨトウ	9~6月	並	5月の発生ほ場率は0%(平年:発生ほ場率0%、生息葉率0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ナス(夏秋)	うどんこ病	4~10月	並	6月の発生ほ場率は0%(平年:発生ほ場率1%、発病株率0.01%)であった。		薬剤防除

都道府県	農作物名	有害動物名	発生時期	発生量	発生過程の概要	発生原因の解析	防除の概要
和歌山県	ナス(夏秋)	灰色かび病	4~10月	並	6月の発生ほ場率は0%(平成1年)であった。		薬剤防除
和歌山県	ナス(夏秋)	ミナミキイロアザミウマ	5~11月	並	8月の発生ほ場率は44%(平成44%)、生息率は10.6%(平成11.6%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ナス(夏秋)	アブラムシ類	5~11月	やや多	6月の生息率は、モモアカアブラムシ2.6%(平成0.4%)、ワタアブラムシ0.3%(平成1.0%)であった。	アブラムシ類防除意識の低下。	薬剤防除
和歌山県	ナス(夏秋)	ハダニ類	5~11月	多	7月のカンザワハダニの発生ほ場率は78%(平成30%)、生息率は15.6%(平成5.6%)であった。ナミハダニの発生ほ場率は33%(平成10%)、生息率は12.4%(平成2.6%)であった。	7月の高温の影響。	薬剤防除
和歌山県	ナス(夏秋)	ハスモンヨトウ	7~11月	やや多	9月の発生ほ場率は67%(平成20%)、生息率は1.9%(平成0.8%)であった。	9月の高温の影響。	薬剤防除
和歌山県	キュウリ(冬春)	べと病	10~6月	並	5月の県北部における発生ほ場率は40%(平成46%)、発病率は3.1%(平成5.3%)、県中部における発生ほ場率は45%(平成62%)、発病率は1.9%(平成14.8%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キュウリ(冬春)	うどんこ病	10~6月	やや少	5月の発生ほ場率は、県北部で0%(平成19%)、県中部で73%(平成81%)であった。	4月の降水量が多かったため。	薬剤防除
和歌山県	キュウリ(冬春)	灰色かび病	10~6月	並	5月の発生ほ場率は、県北部で0%(平成3%)、県中部で0%(平成0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キュウリ(冬春)	褐斑病	10~6月	やや多	5月の発生ほ場率は、県北部で20%(平成7%)、県中部で0%(過去8年の平均42%)であった。	4月の気温が高く、降水量も多かったため。	薬剤防除
和歌山県	キュウリ(冬春)	ミナミキイロアザミウマ	9~6月	やや多	3月の発生ほ場率40%(平成16%)、生息率5.1%(平成1.4%)であった。	抵抗性発達による薬剤の効果低下。	薬剤防除
和歌山県	キュウリ(冬春)	アブラムシ類	9~6月	並	3月のワタアブラムシの発生ほ場率は10%(平成5%)、生息率0.1%(平成0.2%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キュウリ(冬春)	タバココナジラミ	9~6月	やや多	3月の発生ほ場率は70%(平成32%)、生息率9.3%(平成3.0%)であった。	抵抗性発達による薬剤の効果低下。	薬剤防除
和歌山県	スイカ	つる枯病	5~7月	並	6月の発生ほ場率は、県北部で0%(平成1%)、県中部で0%(平成1%)であった。		薬剤防除
和歌山県	スイカ	炭疽病	5~7月	並	6月の発生ほ場率は、県北部で0%(平成5%)、県中部で12%(平成20%)であった。		薬剤防除
和歌山県	スイカ	疫病	5~7月	並	6月の発生ほ場率は、県北部で0%(平成0%)、県中部で0%(平成0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	スイカ	シロイチモジヨトウ	4~8月	やや少	6月の発生ほ場率は20%(平成37%)、被害率は0.4%(平成4.8%)であった。	薬剤防除の効果が高かった。	薬剤防除 交信攪乱剤による防除
和歌山県	スイカ	アブラムシ類	3~8月	やや多	6月のワタアブラムシの発生ほ場率は80%(平成78%)、生息率は9.7%(平成8.7%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ハクサイ(秋冬)	軟腐病	9~12月	やや多	12月の発生ほ場率は6%(平成0%)であった。	11月の気温が高く、降水量が多かったため。	薬剤防除
和歌山県	ハクサイ(秋冬)	白斑病	9~12月	並	12月の発生ほ場率は0%(平成・発生ほ場率8%、発病株率1.3%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ハクサイ(秋冬)	べと病	10~12月	並	12月の発生ほ場率は0%(平成0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ハクサイ(秋冬)	黒斑病	10~12月	並	12月の発生ほ場率は0%(平成・発生ほ場率2%、発病株率0.04%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ハクサイ(秋冬)	モザイク病	9~12月	並	12月の発生ほ場率は0%(平成0%)であった。		アブラムシ類防除
和歌山県	キャベツ(春)	黒腐病	3~4月	並	4月の発生ほ場率は0%(過去9年の平均0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ(春)	菌核病	3~4月	やや少	3月の発生ほ場率は27%(過去9年の平均61%)、発病株率は1.3%(過去9年の平均2.8%)であった。	1月の降水量が少なかつたため。	薬剤防除
和歌山県	キャベツ(春)	アブラムシ類	12~4月	やや多	4月のモモアカアブラムシの生息率は17.3%(平成4.9%)、ニセダイコンアブラムシの生息率は1.8%(平成0.2%)であった。	4月の高温の影響。	薬剤防除
和歌山県	キャベツ(春)	モンシロチョウ	4月	多	4月の発生ほ場率は100%(平成14%)、生息率は23.2%(平成1.9%)であった。	4月の高温の影響。	薬剤防除

都道府県	農作物名	有害動物名	発生時期	発生量	発生過程の概要	発生原因の解析	防除の概要
和歌山県	キャベツ(春)	コナガ	12~4月	並	4月の発生ほ場率は18%(平年7%)、1株当たり発生密度0.02頭(平年0.02頭)であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ(春)	ヨトウガ	4月	並	4月の発生ほ場率は0%(平年0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ(冬)	黒腐病	9~12月	並	12月の発生ほ場率は14%(平年1%)、発生株率0.3%(0.01%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ(冬)	菌核病	10~12月	やや少	12月の発生ほ場率は5%(平年14%)、発病株率は0.05%(平年0.7%)であった。	12月の降水量が少なかったため。	薬剤防除
和歌山県	キャベツ(冬)	アブラムシ類	9~3月	並	10月のモモアカアブラムシの生息株率は2.7%(平年2.5%)、ニセダイコンアブラムシの生息株率は1.8%(平年7.5%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ(冬)	モンシロチョウ	9~10月	やや少	10月の発生ほ場率は0%(平年：発生ほ場率12%、生息株率1.0%)であった。	薬剤防除の効果が高かった。	薬剤防除
和歌山県	キャベツ(冬)	コナガ	9~3月	並	10月の発生ほ場率は0%(平年：発生ほ場率7%、10株あたり生息密度0.005頭)であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ(冬)	ヨトウガ	9~3月	並	10月の発生ほ場率は9%(平年3%)、生息株率0.5%(平年0.4%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ(冬)	ハスモンヨトウ	9~11月	多	10月の発生ほ場率は73%(平年17%)、生息株率は17.3%(平年1.8%)であった。	9月の高温の影響。	薬剤防除 令和6年度病害虫防除注意報第7号(令和6年10月30日発表)による注意喚起。
和歌山県	タマネギ	白色疫病	2~4月	やや少	3月の発生ほ場率は3%(平年19%)、発病株率0.1%(2.4%)であった。	1月上旬~2月中旬における気温が高く、降水量が少なかったため。	薬剤防除
和歌山県	タマネギ	べと病	1~5月	やや多	4月の発生ほ場率は47%(平年30%)であった。	4月の気温が高く、3月中旬~4月中旬の降水量が多かったため、	薬剤防除 令和5年度病害虫防除技術情報第3号(令和6年3月6日発表)および令和6年度病害虫防除技術情報第1号(令和6年4月18日発表)による注意喚起。
和歌山県	イチゴ	灰色かび病	10~4月	やや多	4月の発生ほ場率は40%(過去8年の平均17%)であった。	3月下旬~4月下旬の気温が高く、降雨量も多かったため。	薬剤防除
和歌山県	イチゴ	うどんこ病	10~4月	やや少	4月の発生ほ場率は0%(過去8年の平均6%)であった。	3月上旬~4月下旬の降雨量が多かったことから、湿度等が発病に不適だったと考える。	薬剤防除
和歌山県	イチゴ	アブラムシ類	9~4月	並	3月の発生ほ場率22%(平年12%)、生息株率1.3%(平年3.5%)であった。		薬剤防除
和歌山県	イチゴ	アザミウマ類	9~4月	並	4月のヒラズハナアザミウマは発生ほ場率44%(過去8年の平均50%)、1花当たり生息密度0.2頭(過去8年の平均0.6頭)、ミカンキイロアザミウマは発生ほ場率11%(平年8%)、1花当たりの生息密度0.01頭(平年0.1頭)であった。		薬剤防除
和歌山県	イチゴ	ハダニ類	9~4月	やや少	4月のナミハダニは発生ほ場率22%(平年48%)、発生株率1.3%(平年19.1%)、カンザワハダニは発生ほ場率11%(平年14%)、発生株率0.0%(平年3.5%)であった。	薬剤防除の効果が高かった。	薬剤防除。 天敵カブリダニ類の利用。
和歌山県	エンドウ(秋冬)	うどんこ病	9~12月	並	10月の発生ほ場率は0%(平年7%)であった。		薬剤防除
和歌山県	エンドウ(秋冬)	灰色かび病	9~12月	並	10月の発生ほ場率は0%(平年0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	エンドウ(秋冬)	褐斑病	9~11月	並	10月の発生ほ場率は6%(平年8%)、発病株率は0.1%(平年0.3%)であった。		薬剤防除
和歌山県	エンドウ(秋冬)	褐紋病	9~11月	並	10月の発生ほ場率は0%(平年10%)、発病株率0.4%であった。		薬剤防除
和歌山県	エンドウ(秋冬)	オオタバコガ	9~11月	多	10月の発生ほ場率は20%(平年9%)、生息株率4.0%(平年1.1%)であった。	9~10月の高温の影響。	薬剤防除
和歌山県	エンドウ(秋冬)	ウラナミシジミ	9~12月	多	10月の被害発生ほ場率は77%(平年68%)、被害株率は40.8%(平年23.6%)であった。被害さや率は18.8%(平年7.0%)、1花あたりの産卵数は0.29個(平年0.22個)であった。	9~10月の高温の影響。	薬剤防除 令和6年度病害虫防除注意報第8号(令和6年10月30日発表)による注意喚起。
和歌山県	エンドウ(秋冬)	シロイチモジヨトウ	8~10月	やや多	9月の発生ほ場率は59%(平年28%)、生息株率は12.9%(平年7.6%)であった。	9月の高温の影響。	防除ネット被覆、薬剤防除、交信攪乱剤
和歌山県	エンドウ(秋冬)	ハスモンヨトウ	9~11月	多	10月の発生ほ場率は60%(平年14%)、生息株率は8.7%(平年2.5%)であった。	9~10月の高温の影響。	薬剤防除 令和6年度病害虫防除注意報第7号(令和6年10月30日発表)による注意喚起。

都道府県	農作物名	有害動物名	発生時期	発生量	発生過程の概要	発生原因の解析	防除の概要
和歌山県	エンドウ(秋冬)	ハダニ類	9～11月	やや多	9月の発生ほ場率は59%(平年24%)、生息株率は14.1%(平年8.5%)であった。	9月の高温の影響。	薬剤防除
和歌山県	カンキツ	そうか病	4～10月	やや多	平年に比べて6月、7月および8月はやや多で推移した。10月の発生ほ場率は9%(平年7%)、発病果率は1.9%(平年0.9%)であった。	前年の発生がやや多く、伝染源となる越冬斑病もやや多かった。また、感染期にあたる5月～7月前半の降雨が多かったため。	常発ほ場では発芽直後に薬剤散布。その他一般防除圏では満開期を中心に予防散布。発病果実の除去。
和歌山県	カンキツ	黒点病	6～10月	やや少	予察ほ場(有田川町奥)における初発は5月30日と平年(6月2日)並であった。10月の発生ほ場率は33%(平年63%)、発病果率は9.3%(平年23.6%)であった。	気象条件による。	幼果期(5月下旬～6月上旬)から8月下旬にかけてマンゼブ剤およびマンネブ剤の予防散布による基幹防除及び伝染源である枯枝の剪除。
和歌山県	カンキツ	かいよう病	5～10月	並	10月の果実の発生ほ場率は16%(平年19%)、発病果率は3.1%(平年2.8%)であった。	気象条件による。	罹病性品種や常発ほ場において、無機銅剤の予防散布による基幹防除及び罹病枝葉の剪除。
和歌山県	カンキツ	灰色かび病	5～6月	やや多	6月の発生ほ場率は38%(平年17%)、発病果率は2.0%(平年1.1%)であった。	主要な感染時期である落弁期の降雨が多かったためと考えられる。	満開期～落弁期の予防散布。被害果実の除去。
和歌山県	カンキツ	褐色腐敗病	9～11月	並	10月の発生ほ場率は0%(平年0%)であった。	気象条件による。	常発ほ場では薬剤散布と罹病果の除去。
和歌山県	カンキツ	貯蔵病害	10～3月	少	10月のウンシュウミカン樹上果実の緑かび病の発生ほ場率は0%(平年12%)であった。	気象条件による。	収穫前にベンゾイミダゾール系薬剤やイミノクタジン酢酸塩剤、または両系統剤を混用して散布。
和歌山県	カンキツ	ヤノネカイガラムシ	5～11月	並	予察ほ場(有田川町奥)の第1世代幼虫の初発は5月10日で平年(5月12日)並であった。10月の寄生果率は0%(平年0.4%)、発生ほ場率0%(平年5%)であった。	気象条件による	マシン油乳剤、ネオニコチノイド剤を散布。
和歌山県	カンキツ	ミカンハダニ	5～11月	やや多	3月中旬無防除区の発生葉率は0%(平年5.0%)、10月の寄生葉率は7.1%(平年1.7%)であった。	気象条件による	冬季または春季および6月にマシン油乳剤を散布。秋季に化学殺ダニ剤を散布。
和歌山県	カンキツ	ミカンサビダニ	5～11月	やや多	10月の発生ほ場率は3%(平年2%)であった。	気象条件による。	梅雨明け時期および秋季の発生時に薬剤散布。多発ほ場では落弁期にも実施。
和歌山県	カンキツ	カメムシ類	5～11月	多	チャバネアオカメムシの越冬成虫数は多かった。紀の川市、有田川町、みなべ町の4月～9月の誘殺数は平年に比べ多かった。	前年の夏季以降の新成虫の発生量が平年より多かったため。	発生状況に応じて複数回薬剤を散布。令和6年度病害虫発生予察注意報第4号(7月12日)を発出して注意を喚起。
和歌山県	カンキツ	チャノキイロアザミウマ	5～10月	少	10月の被害ほ場率は8%(平年27%)であった。	気象条件による。	発生時に薬剤を散布。
和歌山県	カンキツ	ナシマルカイガラムシ	5～10月	並	10月の発生ほ場率は0%(平年0%)であった。	気象条件による。	マシン油乳剤、ネオニコチノイド剤を散布。
和歌山県	カンキツ	ロウムシ類	6～8月	並	8月の発生ほ場率は0%(平年0%)であった。	気象条件による。	
和歌山県	カンキツ	ミカンハモグリガ	5～10月	多	8月の発生ほ場率は38%(平年13%)であった。	気象条件による。	幼木園、高接更新園および部分全摘果処理したほ場を中心に薬剤散布。
和歌山県	カンキツ	アブラムシ類	5～7月	少	6月の夏秋梢における発生ほ場率は0%(平年6%)であった。	気象条件による。	幼木園、高接更新園および部分全摘果処理したほ場を中心に薬剤散布。
和歌山県	カキ	炭そ病	5～10月	並	富有における5月中旬の新梢での発生ほ場率は6%でやや多く、果実では7月より発生が見られた。10月中旬の富有における発生ほ場率は25%とやや少なかったが、全体としては平年並の発生となった。	5月中下旬から6月上旬にかけて降水量が多かったが、適切な防除が実施された。9月～10月は気温が高く、降水量は少なく推移し、果実での発生は平年並となった。	4月下旬～9月に定期防除を実施。
和歌山県	カキ	うどんこ病	5～10月	やや少	5月から発生が見られ、9月中旬の発生ほ場率は富有56%、刀根早生・平核無6%と平年よりやや少なかった。10月中旬の富有の発生ほ場率は44%と平年よりやや少なかった。	薬剤による防除が徹底された。気象条件等による。	展葉期(4月下旬)と6、8月に定期的に防除を実施。
和歌山県	カキ	角斑落葉病	9～11月	並	初発は9月と平年並で、9月中旬の発生ほ場率は富有13%、刀根早生・平核無12%と平年並であった。10月中旬の発生ほ場率は、富有94%と平年より多かったが、全体としては平年並の発生であった。	前年の発生量が多かった。5月中下旬から6月上旬にかけて降水量が多かったが、適切な防除が実施された。	主要感染時期の5月下旬～7月上旬に重点的な防除を実施。
和歌山県	カキ	円星落葉病	9～11月	並	9月中旬の発生ほ場率は富有0%、刀根早生・平核無0%と平年並であった。10月中旬の富有での発生ほ場率は25%と平年並であった。	5月中下旬から6月上旬にかけて降水量が多かったが、適切な防除が実施された。	主要感染時期の5月下旬～7月上旬に重点的な防除を実施。
和歌山県	カキ	灰色かび病	5～6月	やや多	6月中旬の果実の発生ほ場率は富有75%、刀根早生・平核無77%とやや多い発生となった。	県北部では富有の落弁期である5月下旬に降雨がかなり多かった。	基幹防除は行われていない。一部のほ場で臨機防除が実施された。
和歌山県	カキ	カキノヘタムシガ	5～10月	並	8月中旬の発生ほ場率は富有0%、刀根早生・平核無0%、9月中旬の発生ほ場率は、富有0%、刀根早生・平核無0%で平年並の発生となった。	薬剤による防除が徹底された。	幼虫発生期の6月上旬、8月上旬に防除を実施。
和歌山県	カキ	ハマキムシ類	5～10月	並	7月から被害果実がみられ、9月中旬の発生ほ場率は、富有25%、刀根早生・平核無6%で、平年並の発生であった。	薬剤による防除が徹底された。気象条件等による。	6月～8月に防除を実施。
和歌山県	カキ	フジコナカイガラムシ	4～10月	やや少	9月中旬の発生ほ場率は富有13%、刀根早生・平核無6%で平年より少なかった。10月中旬の発生ほ場率は富有31%でやや少ない発生であり、全体としてはやや少ない発生であった。	薬剤による防除が徹底された。気象条件等による。	冬期の粗皮削り、越冬世代の4月上旬および第1世代幼虫の孵化時期である6月中旬に防除を重点的に実施。

都道府県	農作物名	有害動植物名	発生時期	発生量	発生過程の概要	発生原因の解析	防除の概要
和歌山県	カキ	カメムシ類	5～10月	多	9月中旬の被害果の発生ほ場率は富有94%、刀根早生・平核無53%で平年より多かった。10月中旬の被害果の発生ほ場率は、富有100%で平年より多かった。	チャバネアオカメムシの越冬量は多かった。予察灯への飛来は4月下旬から8月上旬まで平年より多く推移し、ほ場への飛来も多かった。	5月から8月に臨機防除を実施。病害虫発生予察注意報第1号（4月25日）、第2号（6月21日）、第4号（7月12日）を発生して注意を喚起。
和歌山県	カキ	チャノキイロアザミウマ	4～10月	並	8月中旬の発生ほ場率は、刀根早生・平核無18%と平年並の発生であった。	薬剤による防除が徹底された。	5月、6月に防除を実施。
和歌山県	カキ	カキクダアザミウマ	4～10月	並	6月中旬の被害葉の発生ほ場率は、富有0%、刀根早生・平核無0%であった。	薬剤による防除が徹底された。	5月、7月に防除を実施。
和歌山県	モモ	せん孔細菌病	4～8月	並	4月の枝における発生ほ場率は40%、発病枝率は0.8%で平年よりやや多い発生であった。6月の葉での発生は平年並であった。7月の葉における発生ほ場率は100%、発病葉率は13.4%で平年に比べやや高かったが、全体として平年並の発生となった。	春先の伝染源となる4月の発病枝の発生は平年並であった。梅雨入りが遅く、収穫時の葉での発生はやや多かったが、薬剤による防除が徹底された。	秋期と開花前の無機銅水和剤、生育期の抗生物質剤を中心とした薬剤防除を実施。着型発病枝の剪除を実施。風当たりの強いほ場では、防風ネットや防風樹による防風対策を実施。令和6年度病害虫防除技術情報第2号（4月19日）により注意喚起。
和歌山県	モモ	灰星病	5～7月	並	発生はほとんどみられなかった。	薬剤による慣行防除が徹底された。	袋かけ前2～3回、袋かけ後2回の防除を実施。
和歌山県	モモ	シンクイムシ類	5～9月	やや多	6月中旬のナシヒメシンクイによる新梢被害の発生ほ場率は80%と平年より多く、7月の枝での発生ほ場率は80%で、やや多い発生となった。	気象条件による。	4月上旬（落弁期）～収穫前にかけて定期的に防除を実施。
和歌山県	モモ	カメムシ類	5～8月	やや多	一部のほ場で、効果への被害が確認された。	チャバネアオカメムシの越冬量は平年よりも多かった。薬剤による防除が徹底された。	モモほ場への飛来を警戒して、一部の園場で例年よりも多くカメムシを対象とした薬剤散布が実施された。病害虫発生予察注意報第1号（4月25日）、第2号（6月21日）、第4号（7月12日）を発生して注
和歌山県	モモ	ハダニ類	5～8月	並	カンザワハダニなどは、6月から発生し、7月の発生ほ場率は50%と平年並で、生息葉率も平年並であった。	気象条件による。	ハダニ類を対象とした基幹防除は行われていない。
和歌山県	ウメ	黒星病	5～7月	並	予察ほ場の無防除樹における初発は5月上旬と平年よりやや早かった。一般防除園での6月の発生ほ場率は38%（平年26%）、発病果率は0.8%（平年0.7%）で平年並であった。		DMI剤、水和硫黄剤等により防除。
和歌山県	ウメ	かいはう病	3～7月	並	6月の発生ほ場率は41%（平年46%）、発病果率は1.2%（平年1.8%）で平年並の発生であった。		発芽前に無機銅剤、生育期に抗生物質剤により防除。
和歌山県	ウメ	すす斑病	6～7月	少	一般防除園での6月中旬の発病果率は0.8%（過去3年の平均27.6%）で平年より少ない発生であった。	着果数が非常に少なく、発生が問題となる時期の前に収穫が終了した園が多かったため。	DMI剤等により防除。
和歌山県	ウメ	ウメシロカイガラムシ	4～9月	やや多	6月の発生ほ場率は68%（平年56%）と平年よりやや多い発生であった。	気象条件による。	第1世代幼虫発生前または初期にIGR剤により防除。
和歌山県	ウメ	コスカシバ	4～11月	並	6月の発生ほ場率は29%（平年24%）と平年並の発生であった。	気象条件による。	フェロモン剤で防除。多発園は枝幹散布剤や捕殺も併用。
和歌山県	ウメ	アブラムシ類	3～7月	やや少	被害新梢率は低く、6月の発生ほ場率は7%（平年14%）と平年よりやや少ない発生であった。		発芽期にネオニコチノイド剤等で防除。
和歌山県	ウメ	ハダニ類	4～7月	やや多	6月の発生ほ場率は85%（平年61%）、被害葉率は16.5%（平年6.7%）と平年よりやや多い発生であった。	気象条件による。	発生に応じて殺ダニ剤で防除。
和歌山県	ウメ	カメムシ類	4～7月	多	越冬成虫の飛来が多く、小梅や早生品種でヤニ果や落果等の被害が見られた。	前年の越冬成虫が極めて多かったため。	発生状況に応じて複数回防除が行われた。発生予察注意報第1号（4月25日）、病害虫防除技術情報第3号（5月29日）を発生して注意を喚起。
和歌山県	キウイフルーツ	かいはう病	2～6月	並	調査期間中の葉での発病は認められなかった。	気象条件による。	発生地域では剪定に使用するハサミやノコギリの消毒。収穫後、発芽前及び生育期に無機銅剤または抗生物質剤の散布が行われた。

## Ⅶ. 作物病害虫の発生状況調査

### 1. 水稻の生育概況

#### 1. 水稻作付面積の推移（近畿農政局調べ）

	令和2年 (ha)	令和3年 (ha)	令和4年 (ha)	令和5年 (ha)	令和6年 (ha)	前年比 (%)
作付面積	6,250	6,100	5,980	5,780	5,680	98

・水稻作付面積は徐々に減少している。

#### 2. 作況および1等米比率の年次推移（近畿農政局調べ）

項目	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
穂数 (本/㎡)	335	337	345	329	329
1穂籾数 (粒/穂)	81.5	84	83.2	84.2	85.1
㎡当たり全籾数 (百粒)	273	283	287	277	280
玄米千粒重 (g)	20.9	22.3	22.2	22.3	21.9
玄米収量 (kg/10a)	462	497	519	506	506
作況指数	92	100	105	103	102
1等米比率 (%)	26.1	46.7	26.9	28.9	11.5

#### 3. 栽培上の変化

令和5年3月末に「ミネアサヒ」を奨励品種から除外した。

令和4年2月に奨励品種に採用した「にじのきらめき」の作付けが増加。

#### 4. 品種の作付動向

##### 1. 主要品種の作付動向

種類	熟期	品 種 名	令和3年		令和4年		令和5年		令和6年		前年 比率 (%)
			面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	
う る ち	極早	ハナエチゼン	36	0.6	39	0.7	44	0.8	47	0.8	107
	極早	イクヒカリ	264	4.3	251	4.2	238	4.1	202	3.6	85
	極早	キヌヒカリ	2,645	43.4	2,510	42.0	2,351	40.7	2,033	35.8	86
	極早	コシヒカリ	597	9.8	574	9.6	541	9.4	526	9.3	97
	極早	つや姫	22	0.4	22	0.4	19	0.3	21	0.4	111
	早生	にじのきらめき	-	-	22	0.4	91	1.6	275	4.8	302
	早生	ミネアサヒ	138	2.3	126	2.1	103	1.8	91	1.6	88
	中生	きぬむすめ	1,212	19.9	1,310	21.9	1,368	23.7	1,478	26.0	108
	晩生	ヒノヒカリ	489	8.0	492	8.2	485	8.4	466	8.2	96
	晩生	にこまる	169	2.8	202	3.4	216	3.7	237	4.2	110
		その他	432	7.1	342	5.7	243	4.2	226	4.0	93
も ち	早生	モチミノリ	82	1.3	77	1.3	70	1.2	67	1.2	96
		その他	14	0.2	13	0.2	11	0.2	11	0.2	100
作 付 面 積 計			6,100	100.0	5,980	100.0	5,780	100.0	5,680	100	98

注) 品種別作付面積は果樹園芸課調べ。作付面積計は近畿農政局調べ。

#### 5. 気象概況、生育状況、被害程度、検査等級

- 6月下旬、7月中旬の日照不足により分けつの抑制がみられたものの、生育期間を通して概ね天候に恵まれたことにより全籾数は「平年並み」となった。
- 出穂以降、高温・多照で経過したことから、登熟は「やや良」となった。
- 10a 当たり収量は 506 kg（前年産並み）となった。農家等が使用しているふるい目幅ベース

(1.80 mm) の作況指数は 102 の「やや良」であった。

- 4) 以上の結果、県内の水稲の収穫量（主食用）は 2 万 8,700t となり、前年産にくらべ 500t 減少した。
- 5) 水稲うる玄米の検査等級は令和 6 年 12 月 31 日現在で、1 等：11.5%、2 等：62.7%、3 等：23.7%、規格外：2.0%であった。また、2 等以下に格付けされた理由は形質：58.5%、着色米：25.3%、整粒不足」14.7%等であった。

## 2. 予察ほ場などにおける定点調査

### 1) 水稻予察ほ場調査

#### (1) 休閑田におけるツマグロヨコバイ・ヒメトビウンカの発生推移と齢構成

調査 月日	調査地点	調査 圃場 数	ツマグロヨコバイ					ヒメトビウンカ				
			平均 虫数	成虫 合計	幼虫合計			平均 虫数	成虫 合計	幼虫合計		
					若齢	中齢	老齢			若齢	中齢	老齢
2.28	紀の川市貴志川町高尾	4	1.8	0	0	1	6	3.5	4	0	0	10
2.28	伊都郡かつらぎ町窪	4	2.5	1	0	5	4	3.3	2	0	0	11
2.28	和歌山市小倉	4	8.3	9	0	4	20	5.8	0	0	8	15
3.8	紀の川市貴志川町高尾	4	8.5	9	0	2	23	4.5	6	0	2	10
3.8	伊都郡かつらぎ町窪	4	5.0	3	0	2	15	2.8	4	0	2	5
3.8	和歌山市小倉	4	9.8	19	0	2	18	5.0	1	0	1	18
3.22	紀の川市貴志川町高尾	4	4.3	14	0	1	2	4.8	17	0	0	2
3.22	伊都郡かつらぎ町窪	4	13.3	31	0	0	22	10.3	31	0	0	10
3.22	和歌山市小倉	4	50.5	167	0	5	30	8.8	23	0	0	12
4.2	紀の川市貴志川町高尾	4	1.0	4	0	0	0	14.0	55	0	0	1
4.2	伊都郡かつらぎ町窪	4	11.3	43	0	0	2	2.0	8	0	0	0
4.2	和歌山市小倉	4	271.8	946	1	9	131	29.5	98	0	0	20

捕虫網20回振り掬い取りによる捕獲虫数（頭）

#### (2) 本田（出穂後）における斑点米カメムシ類の発生状況

調査 月日	調査地域	調査 圃場 数	平均 虫数	内訳							
				クモヘリ カメムシ	ホソハリ カメムシ	シラホシ カメムシ	ミナミアオ カメムシ	アカスジ カスミカメ	トゲシラホ シカメムシ	ホソミドリ カスミカメ	その他
7.16	紀南地域	4	17.3	14	7	0	1	24	2	2	19
8.6	和歌山、海草	5	14.2	20	3	5	0	43	0	0	0
8.7	紀中地域	6	6.0	22	3	1	3	6	1	0	0
8.8	伊都、那賀	5	17.8	26	8	6	2	35	6	4	2

捕虫網20回振り掬い取りによる捕獲虫数（頭）

#### (3) ヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率

調査地点	令和 6年	平年	過去10年の年次推移(%)										
			平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	
和歌山市 小倉	1.2 (168)	5.0	9.1	12.5	4.9	6.0	2.5	4.8	4.1	3.3	0.8	1.7	
かつらぎ町 窪	1.8 (57)	5.4	12.0	17.4	4.9	7.9	1.6	2.0	4.0	1.3	1.5	1.2	

※ヒメトビウンカ採集及び検定は4月上旬～中旬。令和6年は和歌山市およびかつらぎ町で4月2日に採集し、4月17日に検定。

( )内の値は検定虫数（単位：頭）

検定：平成25～27年は高比重ラテックス凝集反応法、平成28年以降はDAS-ELISA法で実施。

### 3. 水稻巡回ほ場調査

#### 調査地域区分

地域 (作型)	市・郡	地域区分	調査地点	調査 ほ場数
紀北 (普通期)	和歌山市	中山間	谷	17
		平坦	直川、和佐関戸、朝日、小瀬田	
	海南市	中山間	次々谷	
		平坦	別院	
	海草郡	山間	紀美野町福田	
	紀の川市	平坦	西三谷、井田、貴志川町丸栖	
	岩出市	平坦	中迫	
	橋本市	中山間	山田	
		平坦	赤塚	
	伊都郡	山間	かつらぎ町下天野	
平坦		かつらぎ町西飯降		
有田郡	平坦	広川町広		
紀中 (普通期)	御坊市	平坦	野口	7
	日高郡	山間	日高川町熊野川	
		中山間	印南町印南原、みなべ町西本庄	
		平坦	日高町高家、日高川町和佐	
田辺市A	山間	龍神村甲斐ノ川		
紀南 (早期)	田辺市B	山間	中辺路町栗栖川	6
	西牟婁郡	中山間	上富田町市ノ瀬	
		平坦	白浜町富田、すさみ町周参見立野	
	新宮市	山間	熊野川町日足神丸	
東牟婁郡	中山間	那智勝浦町中里		

#### 水稻巡回ほ場調査の日程

調査場所	第1回	第2回	第3回
和歌山市・海南市・海草郡・岩出市	7/17	8/6	9/6
紀の川市・橋本市・伊都郡	7/16	8/8	9/5
有田郡・御坊市・日高郡・田辺市A	7/16	8/7	9/4
田辺市B・西牟婁郡・新宮市・東牟婁郡	6/13	7/16	8/5

# 1) 圃場における病害虫の発生状況

圃場における病害の発生状況(第1回)

2024年

作型	地域別	調査筆数	葉いもち (株数)	葉いもち (発病度)	穂いもち (穂首)	穂いもち (枝こう)	穂いもち (計)	紋枯病 (株数)	紋枯病 (発病度)	萎縮病 (株数)	縞葉枯病 (株数)	もみ枯細菌病 (株数)	もみ枯細菌病 (穂数)	ばか苗病 (株数)	ごま葉枯病 (株数)	白葉枯病 (株数)	稲こうじ病 (株数)	内えい褐変病 (株数)	内えい褐変病 (穂数)
(紀北)	山間	2	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	3	0.7	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平坦	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	17	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
(紀中)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平坦	3	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	7	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	山間	4	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	5	0.4	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平坦	15	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	24	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
(紀早南)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平坦	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	山間	6	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	7	0.3	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平坦	17	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	30	0.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注: 表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

葉いもち(発病度)・紋枯病(発病度)

$$\text{発病度} = \frac{4 \times A + 3 \times B + 2 \times C + D}{4 \times 25(\text{調査株数})} \times 100$$

葉いもち(発病度)

- A: 下葉は枯死し、完全なズリコミ症状を呈した株数(病斑面積率50%以上)
- B: かなり病斑が見られ、軽いズリコミ症状を呈した株数(病斑面積率10%程度)
- C: 病斑がかなり見られた株数(病斑面積率2%程度)
- D: 病斑がわずかに見られた株数(病斑面積率0.5%程度)

紋枯病(発病度)

- A: 止葉が枯死の症状を呈した株数
- B: 大部分の病斑が止葉の葉鞘まで達しているが、止葉には生色があった株数
- C: 大部分の病斑が第2葉鞘まで達した株数
- D: 病斑が第3葉鞘まで達した株数

圃場における病害の発生状況(第1回)平年値

(2014~2023年)

作型(地域)	地域別	葉いもち (株数)	穂いもち (穂数)	紋枯病 (株数)	萎縮病 (株数)	縞葉枯病 (株数)	もみ枯細菌病 (病株数)	ばか苗病 (株数)	ごま葉枯病 (株数)	白葉枯病 (株数)	稲こうじ病 (株数)	内えい褐変病 (株数)
(紀北) 普通期	山間	4.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	0.3	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平坦	0.6	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	1.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
(紀中) 普通期	山間	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	3.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平坦	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	山間	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	1.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平坦	0.6	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	1.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
(紀早南) 普通期	山間	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平坦	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
県計	山間	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	1.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平坦	0.6	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

圃場における害虫の発生状況(第1回)

2024年

作型	地域別	調査筆数	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	中山間	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	—	0.0	—	0.0	—	0.3
	平坦	12	0.3	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	—	0.0	—	0.0	—	1.8
	計	17	0.2	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	—	0.0	—	0.0	—	1.4
(紀中)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	12.5
	中山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	平坦	3	0.3	2.3	18.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	計	7	0.1	1.0	7.9	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	3.6
普通期	山間	4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	6.3
	中山間	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.0	0.0	0.4	—	0.0	—	0.0	—	0.2
	平坦	15	0.3	0.5	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	—	0.0	—	0.0	—	1.5
	計	24	0.2	0.3	2.5	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.1	—	0.0	—	0.0	—	2.0
(紀早期)	山間	2	0.5	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	中山間	2	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	平坦	2	3.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	計	6	1.8	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	—	0.0	—	0.0	—	0.0
県計	山間	6	0.2	0.0	0.3	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.8	—	0.0	—	0.0	—	4.2
	中山間	7	0.6	0.0	0.6	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.3	—	0.0	—	0.0	—	0.1
	平坦	17	0.6	0.4	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	—	0.0	—	0.0	—	1.3
	計	30	0.5	0.2	2.2	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.5	—	0.0	—	0.0	—	1.6

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

## 圃場における害虫の発生状況(第1回)平年値

(2014~2023年)

作型(地域)	地域別	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)※	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	2.6	9.8	11.4	0.0	0.0	0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	2.9
	中山間	1.8	35.5	18.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3
	平坦	0.9	6.0	11.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
	計	1.3	11.6	12.5	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
(紀中) 普通期	山間	3.6	4.0	10.2	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1
	中山間	3.0	23.2	40.6	1.6	0.0	0.6	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平坦	0.7	3.5	12.7	0.1	0.0	1.1	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0
	計	2.2	9.3	20.0	0.5	0.0	0.7	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
普通期	山間	3.1	6.9	10.8	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	5.0
	中山間	2.3	30.6	27.6	0.6	0.0	0.2	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4
	平坦	0.9	5.5	11.4	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
	計	1.5	10.9	14.7	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
(紀南) 早期	山間	0.2	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.1	1.0	6.5	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.3
	中山間	0.5	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.4	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9
	平坦	1.3	0.3	0.5	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
	計	0.6	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.5	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
県計	山間	2.1	4.7	7.3	0.0	0.0	0.1	0.1	0.3	2.2	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	3.4
	中山間	1.7	21.9	19.8	0.5	0.0	0.2	0.0	0.1	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5
	平坦	0.9	4.9	10.1	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
	計	1.4	8.8	11.8	0.1	0.0	0.2	0.0	0.1	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2

※過去9年の平均

## 圃場における病害の発生状況(第2回)

2024年

作型	地域別	調査筆数	葉いもち (株数)	葉いもち (発病度)	穂いもち (穂首)	穂いもち (枝こう)	穂いもち (計)	紋枯病 (株数)	紋枯病 (発病度)	萎縮病 (株数)	縞葉枯病 (株数)	もみ枯細菌病 (株数)	もみ枯細菌病 (穂数)	ばか苗病 (株数)	ごま葉枯病 (株数)	白葉枯病 (株数)	稲こうじ病 (株数)	内えい褐変病 (株数)	内えい褐変病 (穂数)
(紀北) 普通期	山間	2	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	3	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平坦	12	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	2.3
	計	17	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	1.6
(紀中) 普通期	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.0
	平坦	3	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3
	計	7	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.7
普通期	山間	4	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	5	0.4	0.4	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.8
	平坦	15	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	1.9
	計	24	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	1.3
(紀早期)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	9.0
	平坦	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.5	4.5
	計	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	4.5
県計	山間	6	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	7	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	3.1
	平坦	17	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	2.2
	計	30	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	2.0

注: 表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における病害の発生状況(第2回)平年値

(2014~2023年)

作型(地域)	地域別	葉いもち (株数)	穂いもち (穂数)	紋枯病 (株数)	萎縮病 (株数)	縞葉枯病 (株数)	もみ枯細菌病 (病株数)	ばか苗病 (株数)	ごま葉枯病 (株数)	白葉枯病 (株数)	稲こうじ病 (株数)	内えい褐変病 (株数)
(紀北) 普通期	山間	4.2	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
	中山間	1.0	0.0	1.4	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
	平坦	1.1	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
	計	1.4	0.0	1.5	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
(紀中) 普通期	山間	1.7	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2
	中山間	5.8	0.0	0.7	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9
	平坦	2.0	0.0	0.9	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
	計	3.0	0.0	0.6	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2
普通期	山間	3.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9
	中山間	2.9	0.0	1.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2
	平坦	1.3	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
	計	1.9	0.0	1.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
(紀南) 早期	山間	1.8	4.9	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7
	中山間	2.3	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7
	平坦	0.3	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	1.4	1.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
県計	山間	2.6	1.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
	中山間	2.7	0.0	0.8	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3
	平坦	1.1	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
	計	1.8	0.3	1.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7

圃場における害虫の発生状況(第2回)

2024年

作型	地域別	調査筆数	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	2	2.5	12.0	133.5	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	中山間	3	2.0	0.3	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	3.3
	平坦	12	5.8	4.6	24.9	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	—	0.2	0.1	0.0	—	0.0	0.3
	計	17	4.7	4.7	33.3	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	—	0.1	0.1	0.0	—	0.0	0.8
(紀中) 普通期	山間	2	5.5	1.0	10.5	0.0	0.0	3.5	0.0	0.0	—	5.0	0.0	0.0	—	0.0	11.5
	中山間	2	2.0	4.5	3.5	0.5	0.0	1.0	0.0	0.0	—	0.5	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	平坦	3	2.3	0.7	3.3	0.0	0.0	4.7	0.0	0.0	—	0.3	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	計	7	3.1	1.9	5.4	0.1	0.0	3.3	0.0	0.0	—	1.7	0.0	0.0	—	0.0	3.3
普通期	山間	4	4.0	6.5	72.0	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	—	2.5	0.0	0.0	—	0.0	5.8
	中山間	5	2.0	2.0	1.4	0.2	0.0	1.2	0.0	0.0	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	2.0
	平坦	15	5.1	3.8	20.6	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	—	0.2	0.1	0.0	—	0.0	0.3
	計	24	4.3	3.9	25.2	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	—	0.6	0.0	0.0	—	0.0	1.5
(紀早期)	山間	2	1.0	1.5	0.5	0.0	0.0	5.5	0.0	0.0	—	4.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	中山間	2	14.0	9.5	14.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	—	1.5	0.0	0.0	—	0.0	0.5
	平坦	2	1.5	13.5	80.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	1.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	計	6	5.5	8.2	31.7	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	—	2.2	0.0	0.0	—	0.0	0.2
県計	山間	6	3.0	4.8	48.2	0.0	0.0	3.5	0.0	0.0	—	3.0	0.0	0.0	—	0.0	3.8
	中山間	7	5.4	4.1	5.0	0.1	0.0	1.0	0.0	0.0	—	0.6	0.0	0.0	—	0.0	1.6
	平坦	17	4.6	4.9	27.6	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	—	0.3	0.1	0.0	—	0.0	0.2
	計	30	4.5	4.7	26.5	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	—	0.9	0.0	0.0	—	0.0	1.3

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における害虫の発生状況(第2回)平年値

(2014~2023年)

作型(地域)	地域別	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)※	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	3.6	15.0	16.4	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0
	中山間	0.7	8.7	6.7	0.3	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6
	平坦	2.7	14.0	32.3	0.4	0.0	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
	計	2.4	13.2	25.9	0.3	0.0	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
(紀中) 普通期	山間	1.1	4.3	7.9	3.1	0.1	1.7	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	4.9
	中山間	1.1	11.9	9.1	3.7	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	平坦	2.0	11.6	25.8	2.1	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	計	1.5	9.6	15.9	2.8	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4
普通期	山間	2.3	9.6	12.1	1.6	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	3.9
	中山間	0.9	10.0	7.6	1.7	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
	平坦	2.5	13.5	31.0	0.7	0.0	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
	計	2.2	12.2	23.0	1.1	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
(紀早南) 普通期	山間	1.4	4.4	32.8	0.1	0.0	1.8	0.1	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	2.0	8.2	17.2	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5
	平坦	2.1	2.1	23.2	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
	計	1.8	4.9	24.4	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
県計	山間	2.0	7.9	19.0	1.1	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6
	中山間	1.2	9.5	10.3	1.2	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
	平坦	2.5	12.2	30.1	0.6	0.0	0.7	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4
	計	2.1	10.7	23.3	0.8	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9

※過去9年の平均

圃場における病害の発生状況(第3回)

2024年

作型	地域別	調査筆数	葉いもち (株数)	葉いもち (発病度)	穂いもち (穂首)	穂いもち (枝こう)	穂いもち (計)	紋枯病 (株数)	紋枯病 (発病度)	萎縮病 (株数)	縞葉枯病 (株数)	もみ枯細菌病 (株数)	もみ枯細菌病 (穂数)	ばか苗病 (株数)	ごま葉枯病 (株数)	白葉枯病 (株数)	稲こうじ病 (株数)	内えい褐変病 (株数)	内えい褐変病 (穂数)
(紀北) 普通期	山間	2	0.0	0.0	0.0	2.5	2.5	9.0	20.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5
	中山間	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7
	平坦	12	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.4	11.3
	計	17	0.0	0.0	0.0	0.3	0.3	2.6	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	8.2
(紀中) 普通期	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.5	38.0
	中山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平坦	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.7	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	4.3
	計	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	12.7
普通期	山間	4	0.0	0.0	0.0	1.3	1.3	4.5	10.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	19.3
	中山間	5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.4
	平坦	15	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	4.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	9.9
	計	24	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	2.2	4.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	9.5
(紀早期) 普通期	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	4.5
	中山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	18.5	39.5
	平坦	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.5	58.5
	計	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.7	34.2
県計	山間	6	0.0	0.0	0.0	0.8	0.8	3.8	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	14.3
	中山間	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	11.6
	平坦	17	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	4.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.8	15.6
	計	30	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	1.9	3.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.1	14.4

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における病害の発生状況(第3回)平年値

(2014~2023年)

作型(地域)	地域別	葉いもち (株数)	穂いもち (穂数)	紋枯病 (株数)	萎縮病 (株数)	縞葉枯病 (株数)	もみ枯細菌病 (病株数)	ばか苗病 (株数)	ごま葉枯病 (株数)	白葉枯病 (株数)	稲こうじ病 (株数)	内えい褐変病 (株数)
(紀北) 普通期	山間	0.0	7.6	2.9	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	7.9
	中山間	0.0	0.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8	0.0	0.0	6.2
	平坦	0.0	0.5	4.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.8
	計	0.0	1.3	3.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	7.5
(紀中) 普通期	山間	0.0	0.3	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5
	中山間	0.0	4.6	3.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.1
	平坦	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	3.7
	計	0.0	1.4	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	3.5
普通期	山間	0.0	3.9	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7
	中山間	0.0	1.8	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	5.7
	平坦	0.0	0.4	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	7.0
	計	0.0	1.3	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	6.4
(紀早南) 普通期	山間	0.0	4.6	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9
	中山間	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.4
	平坦	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.4
	計	0.0	1.5	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.5
県計	山間	0.0	4.1	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.1
	中山間	0.0	1.3	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	7.4
	平坦	0.0	0.4	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	7.5
	計	0.0	1.3	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	7.0

## 圃場における害虫の発生状況(第3回)

2024年

作型	地域別	調査筆数	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	2	0.0	10.0	1.0	0.0	0.0	0.5	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	3	6.0	4.0	4.0	0.7	0.0	0.3	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	12	6.7	13.5	5.1	0.0	0.0	1.5	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	17	5.8	11.4	4.4	0.1	0.0	1.2	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
(紀中) 普通期	山間	2	1.5	0.5	3.0	0.0	0.0	4.5	0.0	—	—	3.5	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	2	0.5	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	—	—	1.5	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	3	36.0	8.3	0.7	0.0	0.0	1.3	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	7	16.0	4.0	1.1	0.0	0.0	2.1	0.0	—	—	1.4	0.0	0.0	—	0.0	—
普通期	山間	4	0.8	5.3	2.0	0.0	0.0	2.5	0.0	—	—	1.8	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	5	3.8	2.8	2.4	0.4	0.0	0.6	0.0	—	—	0.6	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	15	12.5	12.5	4.2	0.0	0.0	1.5	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	24	8.8	9.3	3.5	0.1	0.0	1.5	0.0	—	—	0.5	0.0	0.0	—	0.0	—
(紀早期)	山間	2	6.5	0.0	6.0	0.0	0.0	1.0	0.0	—	—	2.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	2	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	—	—	1.5	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	2	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	6	3.5	0.0	2.3	0.0	0.0	1.7	0.0	—	—	1.2	0.0	0.0	—	0.0	—
県計	山間	6	2.7	3.5	3.3	0.0	0.0	2.0	0.0	—	—	1.8	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	7	3.9	2.0	1.7	0.3	0.0	1.6	0.0	—	—	0.9	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	17	11.1	11.0	3.8	0.0	0.0	1.3	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	30	7.7	7.4	3.2	0.1	0.0	1.5	0.0	—	—	0.6	0.0	0.0	—	0.0	—

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における害虫の発生状況(第3回)平年値

(2014~2023年)

作型(地域)	地域別	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	4.6	16.0	15.7	14.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	中山間	3.7	10.7	5.0	13.2	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平坦	2.8	12.8	10.4	7.7	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	3.2	12.8	10.1	9.5	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
(紀中) 普通期	山間	13.6	3.5	4.0	2.2	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	21.0	9.8	11.7	3.7	0.0	8.4	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
	平坦	1.5	16.7	13.1	1.3	0.0	4.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
	計	10.5	10.9	10.1	2.2	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
普通期	山間	9.1	9.8	9.8	8.6	0.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
	中山間	10.6	10.3	7.7	9.4	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平坦	2.6	13.6	11.0	6.4	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	5.3	12.3	10.1	7.4	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
(紀南) 早期	山間	3.3	3.2	4.8	0.2	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	2.9	23.3	42.0	1.0	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0
	平坦	3.9	9.5	6.6	3.3	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	3.3	12.0	17.8	1.5	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
県計	山間	7.2	7.6	8.1	5.8	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	中山間	8.4	14.0	17.5	7.0	0.0	3.9	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0
	平坦	2.7	13.1	10.5	6.1	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	計	4.9	12.2	11.6	6.2	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

## 2) 主要病害虫の発生程度別面積

主要病害の発生程度別面積(第1回)

2024年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縞葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病
紀北 (普通期) 3657	発生面積	430	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	少	430	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
紀中 (普通期) 1191	発生面積	170	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	少	170	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
普通期計 4848	発生面積	600	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	少	600	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
紀南 (早期) 932	発生面積	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	少	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
県計 5780	発生面積	600	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	少	600	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—

発生程度基準: 葉いもち: 25株あたり病株数、少 $\leq$ 10、10 $<$ 中 $\leq$ 18、18 $<$ 多 $\leq$ 23、甚 $<$ 23  
穂いもち: 25株あたり病穂数、少 $\leq$ 50、50 $<$ 中 $\leq$ 200、200 $<$ 多 $\leq$ 350、甚 $<$ 350  
紋枯病: 25株あたり病株数、少 $\leq$ 10、10 $<$ 中 $\leq$ 18、18 $<$ 多 $\leq$ 23、甚 $<$ 23  
萎縮病: 25株あたり病株数、少 $\leq$ 5、5 $<$ 中 $\leq$ 10、10 $<$ 多 $\leq$ 17、甚 $<$ 17  
縞葉枯病: 25株あたり病株数、少 $\leq$ 5、5 $<$ 中 $\leq$ 10、10 $<$ 多 $\leq$ 17、甚 $<$ 17  
もみ枯細菌病: 25株あたり病株数、少 $\leq$ 3、3 $<$ 中 $\leq$ 8、8 $<$ 多 $\leq$ 15、甚 $<$ 15  
ばか苗病: 25株あたり病株数、少 $\leq$ 1、1 $<$ 中 $\leq$ 3、3 $<$ 多 $\leq$ 7、甚 $<$ 7  
ごま葉枯病: 25株あたり病株数、少 $\leq$ 10、10 $<$ 中 $\leq$ 18、18 $<$ 多 $\leq$ 23、甚 $<$ 23  
白葉枯病: 25株あたり病株数、少 $\leq$ 12、12 $<$ 中 $\leq$ 20、20 $<$ 多 $\leq$ 25、甚 $<$ 25  
稲こうじ病: 25株あたり病株数、少 $\leq$ 1、1 $<$ 中 $\leq$ 3、3 $<$ 多 $\leq$ 7、甚 $<$ 7  
内えい褐変病: 25株あたり病株数、少 $\leq$ 5、5 $<$ 中 $\leq$ 10、10 $<$ 多 $\leq$ 20、甚 $<$ 20

2) 主要病害虫の発生程度別面積

主要害虫の発生程度別面積(第1回)

2024年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ニカメイガ	コブノメイガ	イチモンジセセリ	イネミズゾウムシ	イネゾウムシ	斑点米カメムシ類	フタオビコヤガ	アワヨトウ	ハモグリバエ	イネシンガレセンチュウ	イナゴ	スクミリンゴガイ		
		発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多
紀北 (普通期) 3657	発生面積	430	0	215	0	0	0	0	0	645	—	0	—	0	—	645	3012		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	215	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	少	430	0	215	0	0	0	0	0	645	—	0	—	0	—	430	3012		
紀中 (普通期) 1191	発生面積	170	170	170	0	0	340	0	0	0	—	0	—	0	—	340	851		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	170	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	少	170	170	170	0	0	340	0	0	0	—	0	—	0	—	170	851		
普通期計 4848	発生面積	600	170	385	0	0	340	0	0	645	—	0	—	0	—	986	3862		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	170	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	215	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	少	600	170	385	0	0	340	0	0	645	—	0	—	0	—	600	3862		
紀南 (早期) 932	発生面積	466	0	466	0	0	0	0	0	466	—	0	—	0	—	0	155		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	少	466	0	466	0	0	0	0	0	466	—	0	—	0	—	0	155		
県計 5780	発生面積	1066	170	851	0	0	340	0	0	1111	—	0	—	0	—	986	4018		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	170	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	215	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	少	1066	170	851	0	0	340	0	0	1111	—	0	—	0	—	600	4018		

発生程度基準: ツマグロヨコバイ:25株あたり虫数、(第1回)少≤50、50<中≤125、125<多≤250、甚<250

ヒメトビウンカ:25株あたり虫数、少≤50、50<中≤125、125<多≤250、甚<250

セジロウンカ:25株あたり虫数、少≤250、250<中≤1250、1250<多≤2500、甚<2500

トビイロウンカ:25株あたり虫数、少≤125、125<中≤525、525<多≤1250、甚<1250

ニカメイガ:25株あたり被害株数、少≤7、7<中≤15、15<多≤22、甚<22

コブノメイガ:25株あたり被害葉数、少≤20、20<中≤60、60<多≤180、甚<180

イチモンジセセリ:25株あたりつと数、少≤10、10<中≤20、20<多≤40、甚<40

イネミズゾウムシ:25株あたり虫数、少≤5、5<中≤20、20<多≤40、甚<40

イネゾウムシ:25株あたり被害株数、少≤5、5<中≤12、12<多≤20、甚<20

フタオビコヤガ:25株あたり虫数、少≤25、25<中≤100、100<多≤250、甚<250

ハモグリバエ:25株あたり被害株数、少≤5、5<中≤12、12<多≤20、甚<20

イナゴ:25株あたり被害株数、少≤5、5<中≤12、12<多≤20、甚<20

2) 主要病害虫の発生程度別面積

主要病害の発生程度別面積(第2回)

2024年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縞葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病
紀北 (普通期)  3657	発生面積	1076	0	215	0	0	0	0	0	0	0	430
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	215
	少	1076	0	215	0	0	0	0	0	0	0	215
紀中 (普通期)  1191	発生面積	170	0	0	0	0	0	0	0	0	0	340
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	170	0	0	0	0	0	0	0	0	0	340
普通期計  4848	発生面積	1246	0	215	0	0	0	0	0	0	0	771
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	215
	少	1246	0	215	0	0	0	0	0	0	0	555
紀南 (早期)  932	発生面積	0	0	311	0	0	0	0	0	0	0	311
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	311
	少	0	0	311	0	0	0	0	0	0	0	0
県計  5780	発生面積	1246	0	526	0	0	0	0	0	0	0	1081
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	526
	少	1246	0	526	0	0	0	0	0	0	0	555

発生程度基準: 第1回発生面積の基準に同じ

2) 主要病害虫の発生程度別面積

主要害虫の発生程度別面積(第2回)

2024年

単位: ha

地域 (作型) 面積		ツマ	ヒメ	セジ	トビ	ニカ	コブ	イチ	イネ	イネ	斑	フタ	アワ	ハモ	イネ	イナ	スク
		グロ	トビ	ロウ	イロ	メイ	ノ	モン	ミズ	ネ	点	オビ	ヨト	グリ	シン	ゴ	ミ
		コ	ウ	ン	ウ	ガ	メイ	ジ	ズ	ム	米	ビ	ト	バ	ガ	ゴ	ゴ
		バイ	ン	カ	ン		ガ	セ	ウ	シ	カ	コ	ウ	エ	レ	ゴ	イ
			カ		カ			セ	ム		メ	ヤ			セ		
								リ	シ		ム	ガ			ン		
											シ				チ		
											類				ユ		
紀北 (普通期) 3657	発生面積	1506	2151	1506	0	0	1291	0	0	—	430	215	0	—	0	645	2581
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	中	0	0	215	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	215	0
	少	1506	2151	1291	0	0	1291	0	0	—	430	215	0	—	0	430	2581
紀中 (普通期) 1191	発生面積	681	510	851	170	0	851	0	0	—	510	0	0	—	0	340	851
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	—	170	0	0	—	0	170	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	少	681	510	851	170	0	851	0	0	—	340	0	0	—	0	170	851
普通期計 4848	発生面積	2186	2662	2357	170	0	2141	0	0	—	941	215	0	—	0	986	3432
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	—	170	0	0	—	0	170	0
	中	0	0	215	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	215	0
	少	2186	2662	2141	170	0	2141	0	0	—	771	215	0	—	0	600	3432
紀南 (早期) 932	発生面積	466	777	621	0	0	311	0	0	—	466	0	0	—	0	155	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	—	155	0	0	—	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	—	311	0	0	—	0	0	0
	少	466	777	621	0	0	311	0	0	—	0	0	0	—	0	155	0
県計 5780	発生面積	2652	3438	2978	170	0	2452	0	0	—	1407	215	0	—	0	1141	3432
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	—	325	0	0	—	0	170	0
	中	0	0	215	0	0	0	0	0	—	311	0	0	—	0	215	0
	少	2652	3438	2763	170	0	2452	0	0	—	771	215	0	—	0	756	3432

発生程度基準: ツマグロヨコバイ:25株あたり虫数、(第2回)少 $\leq$ 125、125<中 $\leq$ 375、375<多 $\leq$ 750、甚<750  
 斑点米カメムシ類:25株あたり虫数、少 $\leq$ 1、1<中 $\leq$ 4、4<多 $\leq$ 10、甚<10  
 アワヨトウ:25株あたり虫数、少 $\leq$ 10、10<中 $\leq$ 30、30<多 $\leq$ 100、甚<100  
 シンガレセンチュウ:25株あたり被害株数、少 $\leq$ 5、5<中 $\leq$ 12、12<多 $\leq$ 20、甚<20  
 その他害虫は第1回発生面積の基準に同じ

2) 主要病害虫の発生程度別面積

主要病害の発生程度別面積(第3回)

2024年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縞葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病
紀北 (普通期) 3657	発生面積	—	215	1291	0	0	0	0	0	0	0	1936
	甚	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	645
	中	—	0	430	0	0	0	0	0	0	0	430
	少	—	215	860	0	0	0	0	0	0	0	860
紀中 (普通期) 1191	発生面積	—	0	170	0	0	0	0	0	0	0	681
	甚	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	170
	中	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	—	0	170	0	0	0	0	0	0	0	510
普通期計 4848	発生面積	—	215	1461	0	0	0	0	0	0	0	2617
	甚	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	815
	中	—	0	430	0	0	0	0	0	0	0	430
	少	—	215	1031	0	0	0	0	0	0	0	1371
紀南 (早期) 932	発生面積	—	0	311	0	0	0	0	0	0	0	932
	甚	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	466
	多	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	155
	中	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	—	0	311	0	0	0	0	0	0	0	311
県計 5780	発生面積	—	215	1772	0	0	0	0	0	0	0	3549
	甚	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	466
	多	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	971
	中	—	0	430	0	0	0	0	0	0	0	430
	少	—	215	1341	0	0	0	0	0	0	0	1682

発生程度基準: 第1回発生面積の基準に同じ

2) 主要病害虫の発生程度別面積

主要害虫の発生程度別面積(第3回)

2024年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマ	ヒメ	セジ	トビ	ニカ	コブ	イチ	イネ	イネ	斑点	フタ	アワ	ハモ	イネ	イナ	スク
		グロ	トビ	ロウ	イロ	メイ	ノメイ	モン	ミズ	ゾウ	米カ	オビ	ヨト	グリ	シン	ゴ	ミリン
	面積	コ	ウ	ン	ン	ガ	ガ	ジ	ズ	ム	カ	コ	ト	バ	ガ	ン	ン
紀北 (普通期)  3657	発生面積	1721	2797	2151	215	0	860	0	-	-	215	0	0	-	0	-	-
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
	中	0	215	0	0	0	0	0	-	-	215	0	0	-	0	-	-
	少	1721	2581	2151	215	0	860	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
紀中 (普通期)  1191	発生面積	851	851	340	0	0	681	0	-	-	681	0	0	-	0	-	-
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	170	0	0	-	0	-	-
	中	0	0	0	0	0	0	0	-	-	170	0	0	-	0	-	-
	少	851	851	340	0	0	681	0	-	-	340	0	0	-	0	-	-
普通期計  4848	発生面積	2572	3647	2491	215	0	1541	0	-	-	896	0	0	-	0	-	-
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	170	0	0	-	0	-	-
	中	0	215	0	0	0	0	0	-	-	385	0	0	-	0	-	-
	少	2572	3432	2491	215	0	1541	0	-	-	340	0	0	-	0	-	-
紀南 (早期)  932	発生面積	311	0	466	0	0	466	0	-	-	311	0	0	-	0	-	-
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
	中	0	0	0	0	0	0	0	-	-	311	0	0	-	0	-	-
	少	311	0	466	0	0	466	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
県計  5780	発生面積	2882	3647	2957	215	0	2007	0	-	-	1206	0	0	-	0	-	-
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	170	0	0	-	0	-	-
	中	0	215	0	0	0	0	0	-	-	696	0	0	-	0	-	-
	少	2882	3432	2957	215	0	2007	0	-	-	340	0	0	-	0	-	-

発生程度基準: ツマグロヨコバイは第2回発生面積の基準に同じ  
 その他害虫は第1回発生面積の基準に同じ

2) 主要病害虫の発生程度別面積

主要病害の発生程度別面積(年計)

2024年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縞葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病
紀北 (普通期) 3657	発生面積	1076	215	1291	0	0	0	0	0	0	0	1936
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	645
	中	0	0	430	0	0	0	0	0	0	0	430
	少	1076	215	860	0	0	0	0	0	0	0	860
紀中 (普通期) 1191	発生面積	170	0	170	0	0	0	0	0	0	0	681
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	170
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	170	0	170	0	0	0	0	0	0	0	510
普通期計 4848	発生面積	1246	215	1461	0	0	0	0	0	0	0	2617
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	815
	中	0	0	430	0	0	0	0	0	0	0	430
	少	1246	215	1031	0	0	0	0	0	0	0	1371
紀南 (早期) 932	発生面積	0	0	311	0	0	0	0	0	0	0	932
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	466
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	155
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	少	0	0	311	0	0	0	0	0	0	0	311
県計 5780	発生面積	1246	215	1772	0	0	0	0	0	0	0	3549
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	466
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	971
	中	0	0	430	0	0	0	0	0	0	0	430
	少	1246	215	1341	0	0	0	0	0	0	0	1682

2) 主要病害虫の発生程度別面積

主要害虫の発生程度別面積(年計)

2024年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマ	ヒメ	セジ	トビ	ニカ	コブ	イチ	イネ	イネ	斑点	フタ	アワ	ハモ	イネ	イナ	スク	
		グロ	トビ	ロウ	イロ	カメイ	ノメイ	モン	ミズ	ネゾ	米カ	オビ	ヨト	グリ	シン	ナゴ	ミリン	ゴ
	面積	ロヨ	ウン	ウン	ウン	イガ	メイ	ジセ	ゾウ	ウム	カメ	コヤ	トウ	リバ	ガレ		ンゴ	ガイ
	バイ	カ	カ	カ	カ			セ	ム	ム	ムシ	ガ		エ	セン			
紀北 (普通期)  3657	発生面積	1721	2797	2151	215	0	1291	0	0	645	430	215	0	0	0	645	3012	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	215	0	
	中	0	215	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	少	1721	2581	2151	215	0	1291	0	0	645	430	215	0	0	0	430	3012	
紀中 (普通期)  1191	発生面積	851	851	851	170	0	851	0	0	0	681	0	0	0	0	340	851	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	170	0	
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	170	0	0	0	0	0	0	
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	170	0	0	0	0	0	0	
	少	851	851	851	170	0	851	0	0	0	340	0	0	0	0	170	851	
普通期計  4848	発生面積	2572	3647	3002	385	0	2141	0	0	645	1111	215	0	0	0	986	3862	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	170	0	
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	170	0	0	0	0	215	0	
	中	0	215	0	0	0	0	0	0	0	170	0	0	0	0	0	0	
	少	2572	3432	3002	385	0	2141	0	0	645	771	215	0	0	0	600	3862	
紀南 (早期)  932	発生面積	466	777	621	0	0	466	0	0	466	466	0	0	0	0	155	155	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	155	0	0	0	0	0	0	
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	311	0	0	0	0	0	0	
	少	466	777	621	0	0	466	0	0	466	0	0	0	0	0	155	155	
県計  5780	発生面積	3038	4424	3623	385	0	2607	0	0	1111	1577	215	0	0	0	1141	4018	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	170	0	
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	325	0	0	0	0	215	0	
	中	0	215	0	0	0	0	0	0	0	481	0	0	0	0	0	0	
	少	3038	4209	3623	385	0	2607	0	0	1111	771	215	0	0	0	756	4018	

#### 4. 予察灯・フェロモントラップ等による水稻主要害虫の誘殺状況

##### 1) 予察灯 (60W白熱灯)

単位：頭

月 半月	ツマグロヨコバイ						ヒメトビウンカ						セジロウンカ					
	紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	0.1	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4 3	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	1	0.0	0	0.0	欠	0.0	0	0.0	0	0.0	欠	0.0	0	0.0	0	0.0	欠	0.0
6	1	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	1	0.2
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.1
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.2
5 3	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.3	0	0.2
5	0	0.0	0	0.9	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.1
6	6	2.2	0	0.3	0	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.7	3	0.0	0	0.1	0	0.1
1	3	3.9	0	0.7	2	1.0	0	0.6	0	0.1	0	0.0	2	0.0	0	0.0	0	0.7
2	32	3.8	0	0.0	1	1.4	0	0.3	0	0.2	0	0.4	0	0.2	0	0.1	0	1.1
6 3	29	4.1	0	0.0	3	2.7	0	0.2	0	0.1	0	0.2	0	0.9	0	1.2	0	2.6
4	5	0.1	0	0.4	0	2.2	0	0.0	0	0.0	0	0.6	0	1.6	3	2.4	2	6.6
5	2	0.6	0	0.8	欠	2.8	6	0.2	0	0.4	欠	0.6	46	0.3	53	0.9	欠	6.3
6	0	0.8	0	0.2	11	3.5	5	0.3	1	0.7	1	0.1	178	1.1	53	3.0	6	3.3
1	0	0.1	8	1.6	28	30.0	5	0.3	0	0.1	1	0.3	91	3.0	12	42.7	1	19.8
2	0	0.3	1	1.9	38	30.2	2	1.8	0	0.0	0	0.8	2	6.2	1	3.8	1	12.9
7 3	2	1.7	2	4.1	20	58.8	1	0.5	0	0.9	0	5.6	30	2.2	12	10.9	27	8.9
4	8	2.1	0	10.9	9	77.2	6	0.9	0	0.1	0	1.6	8	5.1	3	8.2	4	6.0
5	0	5.2	1	4.1	4	51.4	0	0.9	1	0.4	1	1.2	6	6.9	2	3.5	0	16.3
6	4	7.4	0	3.8	33	57.8	0	0.7	0	1.2	2	1.5	2	4.4	7	5.4	1	15.5
1	12	2.8	4	3.6	61	23.0	0	4.1	4	4.6	2	11.0	21	3.5	90	8.6	41	15.6
2	9	3.1	0	2.0	56	18.4	1	4.3	1	2.0	5	3.8	20	22.3	40	10.1	144	16.1
8 3	3	5.5	0	1.5	61	43.5	3	4.2	0	1.0	1	10.0	46	17.1	49	4.3	68	29.6
4	5	3.5	0	0.5	9	58.8	5	4.9	0	3.3	0	9.6	32	27.9	11	24.9	70	102.6
5	1	2.0	0	0.5	11	41.3	1	3.7	0	0.4	2	3.7	18	28.2	7	9.5	34	75.8
6	1	2.8	0	0.6	1	35.1	2	3.9	6	1.5	10	8.1	15	22.0	1	17.2	242	178.0
合計	124	52.5	16	38.6	348	540.4	37	32.1	13	17.0	25	60.1	520	152.9	346	157.3	642	518.7

単位：頭

月 半旬	トビイロウンカ						ニカメイガ						イネミズヅウムシ						
	紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	3.5	0	0.1
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0	0	0	0.0	0	0.3	0	0.3	4	0.2
5	0	0.0	0	0.0	欠	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	4	2.6	欠	1.2
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	4	3.8	2	1.3
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	9.2	0	1.3
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	3.6	1	4.2
5 3	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	1	0.0	0	9.4	2	9.4
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	3.8	0	2.4
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	0	2.3
6	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.1	1	3.3	0	1.1
1	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	1.6	0	0.4
2	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.3	0	0.8
6 3	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.9
4	0	0.0	0	0.2	0	0.1	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.6
5	3	0.0	0	0.1	欠	0.5	0	0.1	0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.2	欠	0.4
6	1	0.1	0	0.3	0	2.6	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	1	0.2	0	1.1
1	0	0.2	0	15.8	1	4.7	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.2	4	2.8
2	0	0.4	0	0.4	0	9.4	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.7	7	9.8
7 3	0	0.5	0	0.9	0	3.3	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	2	0.8	23	6.9
4	0	1.0	0	0.2	0	1.5	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	1	2.0	5	12.8
5	0	0.1	0	0.3	0	0.8	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.1	1	1.2	16	6.9
6	0	0.1	0	0.2	0	1.1	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	2	1.0	5	7.3
1	0	0.3	0	0.9	0	0.2	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	1.1	5	3.8
2	0	0.9	0	1.2	0	1.0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	4.0
8 3	0	1.3	0	0.5	0	2.0	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.4	1	1.1
4	0	1.1	0	0.9	0	7.6	0	0.0	0	0	0	0	0.1	0	0.0	0	0.9	0	0.7
5	0	1.4	0	4.1	1	9.4	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.4
6	3	23.1	0	52.2	7	41.4	0	0.0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.2
合 計	7	30.6	0	78.5	9	85.9	0	0.4	0	0.0	0	0.1	1	0.2	17	52.9	75	84.6	

斑点米カメムシ類

紀の川市

単位：頭

月 半旬	クモヘ リカメ ムシ	ホソハ リカメ ムシ	シラホ シカメ ムシ	トゲシ ラホシ カメ ムシ	アオク サカメ ムシ	ミナミ アオカ メムシ	アカス ジカス ミカメ	ホソミ ドリカ スミカ メ類	イネカ メムシ
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 3	0	0	0	0	0	0	1	0	0
4 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 6	0	0	0	0	0	0	1	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 3	0	0	0	0	0	0	1	0	0
4 4	0	0	0	0	0	0	0	4	0
5 5	0	0	0	0	0	1	2	1	0
6 6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	2	0	0	0	0	0	0	1	0
2	0	0	0	0	0	0	4	0	0
7 3	1	0	0	0	0	0	1	0	0
4 4	0	0	0	0	0	0	4	0	0
5 5	1	0	0	0	0	0	6	0	2
6 6	5	0	0	1	0	0	5	0	1
1	5	0	0	0	0	0	11	0	0
2	2	0	0	0	0	1	13	0	0
8 3	71	0	1	0	0	0	8	0	0
4 4	94	0	0	0	0	1	15	0	1
5 5	19	0	5	0	0	1	14	0	1
6 6	8	0	0	0	0	0	3	0	0
合 計	208	0	6	1	0	4	89	6	5

上富田町

単位：頭

月 半旬	クモヘ リカメ ムシ	ホソハ リカメ ムシ	シラホ シカメ ムシ	トゲシ ラホシ カメ ムシ	アオク サカメ ムシ	ミナミ アオカ メムシ	アカス ジカス ミカメ	ホソミ ドリカ スミカ メ類	イネカ メムシ
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 3	0	0	0	0	0	1	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	1	0	0
6	0	0	0	0	0	0	1	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	1	0	0	0	0	0	0
6 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	1	2	0	0
5	0	0	1	0	0	2	1	0	0
6	0	0	0	0	0	1	1	0	0
1	0	0	0	0	0	42	2	1	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4	0	0	0	0	0	0	0	0	2
5	0	0	0	0	0	0	1	0	1
6	0	0	0	0	0	1	3	0	7
1	0	0	0	0	0	0	1	0	1
2	0	0	0	0	0	0	2	0	1
8 3	0	0	0	0	0	1	0	0	0
4	0	0	0	0	0	2	0	0	2
5	0	0	0	0	0	3	0	0	1
6	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	0	0	2	0	0	54	15	1	16

那智勝浦町

単位：頭

月 半旬	クモヘ リカメ ムシ	ホソハ リカメ ムシ	シラホ シカメ ムシ	トゲシ ラホシ カメ ムシ	アオク サカメ ムシ	ミナミ アオカ メムシ	アカス ジカス ミカメ	ホソミ ドリカ スミカ メ類	イネカ メムシ
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	4	0	0	0
4 3	0	0	0	0	0	3	0	0	0
4	0	0	0	0	0	2	0	0	0
5	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠
6	0	0	0	0	0	0	11	0	0
1	0	0	0	0	0	0	7	0	0
2	0	0	0	0	0	0	12	0	0
5 3	0	0	0	0	0	0	37	0	0
4	0	0	0	0	0	0	9	0	0
5	0	0	0	0	0	0	27	0	0
6	0	0	0	0	0	0	23	0	0
1	0	0	0	0	0	0	7	0	0
2	0	0	0	0	0	0	44	1	0
6 3	1	1	0	0	0	0	181	2	0
4	0	0	0	0	0	3	122	3	0
5	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠
6	0	1	0	0	0	6	91	4	0
1	1	0	0	0	0	1	59	6	5
2	2	1	0	0	0	2	51	2	7
7 3	0	2	0	0	0	0	68	2	4
4	0	0	0	0	0	0	61	0	18
5	2	1	0	0	0	1	68	0	16
6	17	1	0	0	0	0	72	1	18
1	3	1	0	0	0	1	58	4	8
2	3	2	0	0	0	4	58	2	10
8 3	5	4	0	0	0	9	46	2	17
4	8	1	0	0	0	10	41	1	50
5	9	2	0	0	0	8	14	0	8
6	1	0	0	0	0	5	33	2	2
合計	52	17	0	0	0	59	1200	32	163

## 2) フェロモントラップ

### ニカメイガ

紀の川市		単位：頭	
月	半旬	本年	平年
	1	0	0.1
	2	0	0.8
4	3	0	0.7
	4	0	0.5
	5	0	1.0
	6	0	0.4
<hr/>			
	1	0	0.6
	2	0	0.3
5	3	0	0.3
	4	0	0.3
	5	0	0.3
	6	0	0.2
<hr/>			
	1	0	0.3
	2	0	0.0
6	3	0	0.2
	4	0	0.6
	5	0	0.1
	6	0	0.3
<hr/>			
	1	0	0.3
	2	0	0.4
7	3	0	0.4
	4	0	0.1
	5	0	0.0
	6	0	0.0
<hr/>			
	1	0	0.0
	2	0	0.0
8	3	0	0.1
	4	0	0.0
	5	0	0.1
	6	0	0.2
<hr/>			
	1	0	0.0
	2	0	0.0
9	3	0	0.0
	4	0	0.0
	5	0	0.0
	6	0	0.1
合計		0	8.7

## 3) 蛍光灯誘殺箱 (15W)

### コブノメイガ

紀の川市		単位：頭	
月	半旬	本年	平年
	1	0	0.0
	2	0	0.0
6	3	0	0.0
	4	0	0.0
	5	0	0.0
	6	0	0.0
<hr/>			
	1	0	0.1
	2	0	0.0
7	3	1	0.5
	4	0	0.7
	5	3	1.2
	6	11	2.1
<hr/>			
	1	1	2.4
	2	2	1.8
8	3	5	1.2
	4	—	—
	5	—	—
	6	—	—
合計		23	10.0

## Ⅷ. 野菜病害虫の発生状況調査

### 1 巡回調査における発生状況

#### 1) キャベツ

##### ①キャベツにおける病害の発生状況（和歌山市）

調査 月日	調査 圃場数	黒腐病		菌核病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
4.18	19	0	0	26.3	0.8	36.8	0.5
10.25	18	0	0	0	0	-	-
12.20	21	14.3	0.3	4.8	0	-	-
3.21	20	0	0	40.0	1.2	35.0	0.5

注) 1圃場100株調査

##### ②キャベツにおける害虫の発生状況（和歌山市）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類				コナガ		モンシロチョウ	
		モモアカアブラムシ		ニセダイコンアブラムシ		発生圃場率 (%)	生息密度 (頭/株)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)				
4.19	11	73	17.3	18	1.8	18	0.02	100	23.2
10.18	11	27	2.7	18	1.8	0	0	0	0
3.21	12	17	0.8	25	2.5	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	ヨトウガ		ハスモンヨトウ		ウワバ類		オオタバコガ		シロイチモジヨトウ	
		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)								
4.19	11	0	0	0	0	100	13.2	0	0	0	0
10.18	11	9	0.5	73	17.3	9	0.5	55	5.5	46	3.6
3.21	12	0	0	0	0	8	0.4	0	0	0	0

注) 1圃場20株調査

#### 2) ハクサイ

##### ①ハクサイにおける病害の発生状況（和歌山市）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		軟腐病		べと病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
10.25	18	0	0	5.6	0.1	0	0

調査 月日	調査 圃場数	白斑病		黒斑病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
10.25	18	0	0	0	0

注) 1圃場100株調査

### 3) スイカ

#### ①露地栽培スイカにおける病害の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	つる枯病		うどんこ病		疫病		炭疽病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病茎率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
5.15	11	0	0	0	0	0	0	0	0
6.12	12	0	0	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場100葉または50茎調査

#### ②露地栽培スイカにおける病害の発生状況（印南町）

調査 月日	調査 圃場数	つる枯病		うどんこ病		疫病		炭疽病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病茎率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
5.17	15	0	0	0	0	0	0	0	0
6.14	17	0	0	11.8	0.4	0	0	11.8	0.9

注) 1圃場100葉または50茎調査

#### ③露地栽培スイカにおける害虫の発生状況（御坊市、印南町）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類 ※1		カンザワハダニ		ナミハダニ		シロイチモジヨトウ		
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	被害果率 (%)
4.19	12	75	7.3	83	7.0	0	0	0	0	-
5.23	16	56	1.3	44	2.9	0	0.0	0	0	0
6.19	15	80	9.7	87	15.1	0	0.0	13	0.1	0.4

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類					
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		ネギアザミウマ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
4.19	12	0	0	17	0.4	8	0.2
5.23	16	0	0	0	0	13	0.2
6.19	15	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場100葉、50果調査。被害果調査は果実片面（半球）のみ。

※1 発生種：ワタアブラムシ

#### 4) キュウリ

##### ①施設栽培キュウリにおける病害の発生状況（紀の川市、かつらぎ町）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		斑点細菌病		べと病		うどんこ病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
4.16	10	0	0	0	0	20.0	2.9	0	0
5.15	10	0	0	0	0	40.0	3.1	0	0
6.16-17	10	0	0	0	0	20.0	0.6	10.0	0.2

調査 月日	調査 圃場数	灰色かび病		疫病		褐斑病	
		発生圃場率 (%)	発病果率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
4.16	10	0	0	0	0	10.0	0.8
5.15	10	0	0	0	0	20.0	0.5
6.16-17	10	0	0	0	0	10.0	0.4

注) 1圃場50株、100葉、50果調査

##### ②施設栽培キュウリにおける病害の発生状況（美浜町）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		黄化えそ病		斑点細菌病		べと病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
4.15	13	0	0	7.7	0.3	0	0	69.2	11.7
5.17	11	0	0	18.2	0.9	0	0	45.5	1.9
3.19	12	0	0	0	0	0	0	33.3	5.8

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病		疫病		褐斑病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
4.15	13	46.2	4.6	0	0	0	0	0	0
5.17	11	72.7	11.2	0	0	0	0	0	0
3.19	12	58.3	5.3	8.3	0.2	0	0	0	0

注) 1圃場50株、100葉、50果調査

### ③施設栽培キュウリにおける害虫の発生状況（美浜町）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類		ハダニ類		コナジラミ類			
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	オンシツコナジラミ		タバココナジラミ	
						発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
4.19	11	9	0.1	0	0	0	0	64	21.0
5.15	10	10	0.1	0	0	0	0	80	8.3
3.17	11	0	0	0	0	0	0	55	11.3

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類					
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		ネギアザミウマ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
4.19	11	46	7.0	0	0	0	0
5.15	10	40	3.9	0	0	0	0
3.17	11	36	0.5	0	0	0	0

注) 1圃場50株、2葉/株調査

## 5) ナス

### ①露地栽培ナスにおける病害の発生状況（紀の川市、かつらぎ町、岩出市）

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)
5.15	6	0	0	0	0
6.12	7	0	0	0	0

注) 1圃場50株、100葉、100果調査

### ②施設栽培ナスにおける病害の発生状況（紀の川市、かつらぎ町）

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病		すすかび病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)
4.16	10	0	0	10.0	0.2	0	0
5.20	14	21.4	0.8	0	0	7.1	0.1
6.16-17	15	20.0	0.8	0	0	6.7	0.1

注) 1圃場50株、100葉、100果調査

### ③露地栽培ナスにおける害虫の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類				ハダニ類			
		モモアカアブラムシ		ワタアブラムシ		カンザワハダニ		ナミハダニ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
6.20	9	44	2.6	22	0.3	56	3.1	11	0.1
7.19	9	0	0	0	0	78	15.6	33	12.4
8.21	9	22	0.2	44	1.4	78	4.4	44	14.8
9.20	9	0	0	0	0	22	4.1	11	2

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類					
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		ネギアザミウマ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
6.20	9	22	1.9	0	0	89	8.1
7.19	9	22	0.7	0	0	22	0.8
8.21	9	44	11	11	1.2	33	1.4
9.20	9	33	12.9	11	0.4	11	0.2

調査 月日	調査 圃場数	ハスモンヨトウ		オオタバコガ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
		6.20	9	0	0
7.19	9	0	0	0	0
8.21	9	44	0.7	0	0
9.20	9	67	1.9	0	0

注) 1圃場中位葉100枚調査

### ④施設栽培ナスにおける害虫の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類				ハダニ類			
		モモアカアブラムシ		ワタアブラムシ		カンザワハダニ		ナミハダニ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
5.20	10	10	0.2	20	0.4	40	1.5	20	0.8

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類						ハスモンヨトウ		オオタバコガ	
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)		
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)						
5.20	10	50	6.9	0	0	0	0	0	0	0	

注) 1圃場中位葉100枚調査

## 6) トマト・ミニトマト

### ①露地栽培ミニトマトにおける病害の発生状況（日高町）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		黄化葉巻病		疫病		うどんこ病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
6.12	9	0	0	0	0	0	0	33.3	14.7
7.25	5	0	0	100.0	69.6	0	0	40.0	7.6

注) 1圃場50株、50複葉調査

### ②施設栽培ミニトマトにおける病害の発生状況（印南町、みなべ町）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		黄化葉巻病		灰色かび病		葉かび病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
4.19	11	0	0	9.1	0.9	0	0	54.5	19.5
5.22	11	0	0	9.1	0.9	0	0	90.9	43.6
6.19	11	0	0	9.1	0.2	27.3	4.5	100.0	60.2
9.18	9	0	0	0	0	0	0	0	0
10.22	12	0	0	16.7	0.7	0	0	8.3	0.8
11.20	12	0	0	0	0	0	0	33.3	5.2
12.13	11	0	0	0	0	0	0	63.6	4.2
1.15	11	0	0	0	0	0	0	45.5	9.3
2.21	12	0	0	0	0	0	0	33.3	3.0
3.17	12	0	0	8.3	0.2	0	0	41.7	2.7

注) 1圃場50株、50複葉調査

### ③施設栽培ミニトマトにおける害虫の発生状況（印南町、日高町）

調査 月日	調査 圃場数	タバココナジラミ		オンシツコナジラミ		アブラムシ類		ハダニ類	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	被害葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
5.29	12	80	16.5	0	0	7	0.1	0	0

調査 月日	調査 圃場数	ハモグリバエ類	
		発生圃場率 (%)	被害葉率 (%)
5.29	12	0	0

注) 1圃場100葉調査

## 7) タマネギ

### ①タマネギにおける病害の発生状況（和歌山市、岩出市、紀の川市、かつらぎ町）

調査 月日	調査 圃場数	さび病		べと病				白色疫病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	(越年罹病株)		(二次感染株)		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
				発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)				
4.15	30	0	0	0	0	46.7	1.2	3.3	0.01	0	0
2.27	30	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3.17	30	0	0	13.3	0.2	0	0	3.3	0.03	0	0

注) 1圃場500株調査

## 8) エンドウ

### ①露地栽培サヤエンドウにおける病害の発生状況（御坊市、印南町）

調査 月日	調査 圃場数	つる枯細菌病		褐紋病		褐斑病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
9.20	18	0	0	0	0	0	0
10.24	18	0	0	0	0	5.6	0.1

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
9.20	18	0	0	0	0
10.24	18	0	0	0	0

注) 1圃場100葉または50株調査

### ②露地栽培実エンドウにおける病害の発生状況（印南町、みなべ町）

調査 月日	調査 圃場数	つる枯細菌病		褐紋病		褐斑病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
3.18	14	0	0	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
3.18	14	0	0	14.3	0.2

注) 1圃場100葉または50株調査

③露地栽培エンドウにおける害虫の発生状況（印南町）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類		ハダニ類				アザミウマ類	
		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	カンザワハダニ		ナミハダニ		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
				発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)		
9.19	17	0	0	59	12.4	6	2.4	0	0
10.22	15	0	0	33	12.7	0	0	100	48.2

調査 月日	調査 圃場数	シロイチモジヨトウ		ハスモンヨトウ		オオタバコガ		ウラナミシジミ	
		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
10.22	15	13	1.3	60	8.7	20	4	77	40.8

注) 1圃場10株調査

9) イチゴ

①施設栽培イチゴにおける病害の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	灰色かび病		うどんこ病			
		発生圃場率 (%)	発病果率 (%)	(葉)		(果実)	
				発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)
4.18	10	40.0	1.6	0	0	0	0
3.21	9	22.2	0.3	0	0	0	0

注) 1圃場100果または100葉調査

②施設栽培イチゴにおける害虫の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	カンザワハダニ		ナミハダニ		アザミウマ類		アブラムシ類	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生密度 (頭/花)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
4.16	9	11	8.0	22	1.3	56	0.2	11	0.9
3.17	9	11	0.2	11	0.2	0	0	11	8.0

注) 1圃場20～30株、1株1複葉調査

## 2. フェロモントラップによる鱗翅目害虫の誘殺状況

フェロモントラップの設置場所

紀の川市：紀の川市貴志川町高尾  
和歌山市：和歌山市岩橋

御坊市：御坊市名田町野島  
印南町：日高郡印南町印南

### 1) コナガ

単位：頭

月	半旬	紀の川市		和歌山市		月	半旬	紀の川市		和歌山市	
		本年	平年	本年	平年			本年	平年		
1	1	1	0.8	1	1.3	7	1	0	0.2	2	17.6
	2	1	0.6	1	1.0		2	0	0.4	1	9.2
	3	1	0.8	0	0.4		3	0	0.2	1	2.8
	4	1	0.7	1	2.6		4	0	0.0	0	1.7
	5	0	0.9	1	0.7		5	0	0.1	0	0.8
	6	1	1.5	1	0.6		6	0	0.0	0	1.4
2	1	2	0.8	0	0.5	8	1	0	0.0	0	0.1
	2	2	0.3	0	0.5		2	0	0.1	0	0.2
	3	2	0.5	0	0.5		3	0	0.1	1	0.1
	4	2	0.7	8	1.8		4	0	0.0	1	0.3
	5	3	0.8	3	2.5		5	0	0.0	0	0.0
	6	2	0.7	2	1.2		6	0	0.1	0	0.2
3	1	5	1.5	7	3.1	9	1	0	0.0	1	0.7
	2	0	1.6	6	4.3		2	0	0.0	1	1.9
	3	3	0.7	8	5.7		3	0	0.0	1	4.4
	4	3	1.6	10	10.5		4	0	0.0	3	7.3
	5	1	1.8	9	12.0		5	0	0.0	1	8.1
	6	6	2.9	35	18.8		6	0	0.0	4	8.0
4	1	0	2.3	13	15.8	10	1	0	0.1	3	10.0
	2	0	1.2	19	17.1		2	0	0.1	3	17.5
	3	0	2.0	8	21.5		3	0	0.0	8	21.9
	4	1	1.0	11	20.1		4	0	0.0	1	12.9
	5	1	2.0	12	17.6		5	0	0.2	0	9.4
	6	0	1.3	16	14.5		6	0	0.0	0	8.6
5	1	0	1.8	15	28.8	11	1	0	0.1	1	9.5
	2	0	3.1	31	36.1		2	0	0.5	1	8.3
	3	0	1.8	37	58.2		3	0	0.2	1	7.3
	4	0	2.2	49	67.8		4	0	0.2	0	9.3
	5	0	1.5	40	80.9		5	0	0.4	0	7.8
	6	0	1.1	23	80.3		6	0	1.5	0	4.7
6	1	0	0.7	4	15.4	12	1	0	0.6	5	3.5
	2	1	0.7	7	5.3		2	2	1.1	0	3.1
	3	1	0.9	9	4.2		3	0	0.6	2	3.4
	4	0	0.2	1	3.9		4	1	1.1	0	1.9
	5	0	0.0	10	8.9		5	0	1.1	0	3.4
	6	0	0.2	5	14.4		6	2	1.2	0	1.4
合計		45	52.8	445	787.5						

## 2) ハスモンヨトウ

単位：頭

月 半旬	紀の川市		和歌山市		御坊市		印南町		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
1	1	0	0.0	0	0.0	0	1.5	1	1.0
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.9	0	0.8
	3	0	0.0	0	0.1	0	0.3	1	0.1
	4	0	0.0	0	0.0	7	1.2	1	0.4
	5	0	0.0	0	0.0	3	0.3	0	0.1
	6	0	0.4	0	0.0	0	0.2	0	0.1
2	1	0	0.2	0	0.0	1	0.2	0	0.3
	2	0	0.0	0	0.0	1	0.4	1	0.1
	3	0	0.1	1	0.2	1	0.2	0	0.5
	4	0	0.0	4	0.4	5	1.0	2	0.6
	5	0	0.1	1	0.1	2	0.5	3	0.8
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.4	0	0.0
3	1	0	0.0	0	0.0	1	1.0	0	0.4
	2	0	0.3	0	0.3	0	1.4	0	0.9
	3	1	0.3	0	0.2	1	0.8	0	1.7
	4	1	0.1	0	0.2	0	2.1	1	1.7
	5	0	0.2	0	0.8	0	4.5	1	2.9
	6	2	0.7	0	0.7	1	6.3	4	2.2
4	1	2	1.2	4	1.8	3	13.4	2	2.2
	2	3	0.9	11	2.9	11	11.3	2	2.6
	3	4	1.0	4	1.6	14	7.5	2	7.1
	4	1	1.5	5	2.2	7	18.4	1	6.7
	5	2	2.4	1	5.4	14	10.7	2	6.3
	6	7	2.5	6	9.4	17	14.1	1	7.5
5	1	2	4.2	24	9.7	21	17.5	1	10.5
	2	3	5.4	17	8.8	23	22.3	2	10.8
	3	4	4.9	7	7.6	17	20.1	0	12.7
	4	13	10.4	23	11.6	33	33.6	2	18.6
	5	5	11.0	31	23.6	17	31.8	1	18.2
	6	4	18.0	57	25.7	22	34.7	1	13.6
6	1	2	4.6	16	13.8	14	22.0	0	8.4
	2	0	7.7	7	27.9	16	34.9	2	6.8
	3	2	12.1	5	26.7	19	28.8	2	18.4
	4	28	20.5	51	49.6	40	27.9	6	18.2
	5	59	28.8	59	65.7	26	30.1	3	23.0
	6	53	28.7	42	47.5	25	69.9	4	25.4
7	1	15	59.2	30	84.6	4	67.7	6	16.8
	2	4	31.7	30	34.4	0	38.6	2	11.0
	3	27	13.4	59	21.7	25	20.5	5	9.2
	4	11	16.1	22	10.2	26	26.7	3	7.7
	5	49	24.6	29	29.4	19	24.1	1	6.6
	6	71	35.4	49	53.4	162	59.4	2	26.1
8	1	19	22.7	59	27.2	95	49.3	0	18.8
	2	25	52.3	28	40.4	13	48.3	1	30.9
	3	77	79.4	40	40.2	46	34.2	9	13.3
	4	205	100.9	77	34.8	173	56.5	23	12.8
	5	127	69.8	124	103.5	104	52.2	9	16.2
	6	218	127.4	600	278.3	240	165.3	4	57.8
9	1	34	124.1	488	461.4	227	198.4	5	114.4
	2	5	152.0	449	393.1	105	347.4	8	128.2
	3	32	115.8	631	324.2	380	226.0	17	101.6
	4	243	191.9	711	263.6	695	255.9	52	90.2
	5	602	219.4	2324	504.6	1225	358.7	135	96.7
	6	309	138.2	1860	553.3	460	474.3	127	97.6
10	1	478	242.1	2233	698.2	1800	704.6	209	183.8
	2	749	355.3	1775	613.6	1767	757.3	213	278.4
	3	242	296.1	1489	484.8	2339	856.9	203	281.2
	4	414	267.7	1935	397.8	1758	846.6	243	324.4
	5	901	389.4	2303	450.9	2839	692.6	264	255.1
	6	1753	491.4	2808	610.8	2360	808.3	324	203.1
11	1	665	263.8	3337	538.5	2666	549.2	338	179.1
	2	1246	414.3	2117	456.8	1242	440.6	378	206.9
	3	1628	423.5	3882	522.8	3592	554.1	489	241.2
	4	714	363.2	2483	392.4	1136	323.4	463	191.8
	5	266	205.3	333	129.6	63	178.4	98	136.6
	6	466	126.2	222	80.5	14	47.9	85	79.1
12	1	71	57.8	100	50.0	15	55.5	81	58.6
	2	3	20.6	16	15.0	2	26.3	13	25.7
	3	1	15.8	5	8.8	3	31.8	2	24.1
	4	0	1.5	0	3.7	2	8.3	2	7.3
	5	0	2.2	0	2.4	3	6.4	1	9.0
	6	0	0.2	0	0.4	2	3.5	0	1.7
合 計	11868	5678.9	33024	9059.8	25964	9867.4	3864	3774.6	

## 3) シロイチモジヨトウ

単位：頭

月 半旬	紀の川市		御坊市		印南町		
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	
1	1	—	—	0	1.0	1	0.2
	2	—	—	1	0.7	1	1.1
	3	—	—	1	0.1	1	0.6
	4	—	—	0	0.2	0	0.5
	5	—	—	0	0.0	1	0.1
	6	—	—	1	0.1	0	0.0
2	1	—	—	0	0.0	0	0.0
	2	—	—	0	0.2	0	0.1
	3	—	—	0	0.1	0	0.0
	4	—	—	1	0.4	0	0.0
	5	—	—	0	0.2	1	0.1
	6	—	—	0	0.3	0	0.0
3	1	—	—	0	0.5	0	0.1
	2	—	—	0	0.1	0	0.2
	3	—	—	0	0.5	0	0.1
	4	—	—	0	1.3	0	0.3
	5	—	—	0	0.8	1	0.7
	6	—	—	0	1.2	0	0.0
4	1	0	0.1	2	2.8	0	0.3
	2	0	0.1	1	2.1	0	0.2
	3	0	0.0	2	3.1	0	0.7
	4	0	0.3	1	6.3	0	0.8
	5	1	0.6	1	5.9	0	0.5
	6	2	1.4	0	3.2	0	1.4
5	1	2	1.1	1	4.7	0	0.6
	2	1	0.9	3	7.4	0	0.4
	3	1	1.1	0	8.1	0	0.7
	4	0	1.8	0	8.1	0	1.1
	5	0	2.5	0	5.0	0	1.5
	6	4	4.2	5	8.3	0	1.6
6	1	1	4.3	5	8.1	0	1.4
	2	2	5.2	5	15.2	2	4.1
	3	5	5.1	6	11.0	0	2.7
	4	4	3.6	4	13.0	0	2.0
	5	7	3.4	8	11.9	0	4.3
	6	2	5.8	9	18.1	0	4.0
7	1	3	8.0	5	15.3	0	3.8
	2	8	7.4	10	17.6	0	2.9
	3	5	5.3	14	15.1	3	3.5
	4	1	7.8	20	19.4	2	4.1
	5	14	8.2	13	11.6	1	4.8
	6	11	12.2	34	12.7	2	1.3
8	1	4	5.1	10	17.9	1	3.5
	2	2	6.2	8	35.0	0	6.6
	3	5	11.5	8	7.5	1	2.8
	4	7	14.4	21	11.6	0	3.2
	5	7	9.9	12	8.7	6	2.0
	6	42	19.1	23	10.2	0	1.4
9	1	14	10.5	16	13.6	0	0.9
	2	15	13.7	8	15.1	0	0.8
	3	41	20.3	7	15.3	0	3.1
	4	27	25.5	4	21.5	0	4.2
	5	61	21.4	25	21.8	5	1.8
	6	33	13.0	13	13.5	3	0.7
10	1	34	13.4	19	23.0	1	2.2
	2	36	11.4	28	21.8	3	4.0
	3	24	7.4	15	17.6	4	2.8
	4	9	5.3	29	14.6	11	1.7
	5	19	4.0	14	11.3	3	1.6
	6	19	3.7	22	11.0	1	3.2
11	1	4	1.5	10	9.6	0	0.9
	2	1	1.4	10	13.9	1	1.2
	3	8	2.8	21	13.7	2	2.3
	4	4	2.6	8	8.0	0	1.5
	5	2	1.3	0	3.0	0	0.9
	6	4	1.8	1	1.1	0	1.2
12	1	1	0.5	0	2.4	0	0.6
	2	0	0.5	0	1.3	0	0.4
	3	0	0.2	0	1.3	0	0.2
	4	0	0.0	0	0.3	1	0.2
	5	0	0.0	0	1.0	0	0.6
	6	0	0.0	0	0.6	0	0.6
合 計	497	318.8	485	588.9	59	109.9	

## 4) オオタバコガ

単位：頭

月	半旬	紀の川市		御坊市		印南町	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	1	—	—	1	1.4	0	0.3
	2	—	—	4	0.9	0	0.7
	3	—	—	0	0.8	1	0.3
	4	—	—	0	0.4	0	0.2
	5	—	—	1	0.8	0	1.3
	6	—	—	0	0.3	0	0.1
2	1	—	—	1	0.6	0	0.0
	2	—	—	0	0.1	0	0.1
	3	—	—	0	0.3	0	0.0
	4	—	—	1	0.1	0	0.0
	5	—	—	0	0.1	0	0.0
	6	—	—	1	0.3	0	0.0
3	1	—	—	0	0.2	0	0.5
	2	—	—	0	0.1	0	0.3
	3	—	—	0	0.2	0	0.1
	4	—	—	0	0.0	0	0.2
	5	—	—	0	0.4	0	0.0
	6	—	—	0	0.3	0	0.1
4	1	1	0.3	0	0.5	0	0.1
	2	0	0.6	0	0.8	0	0.1
	3	0	0.3	1	0.7	4	0.4
	4	1	0.4	3	1.0	1	0.5
	5	0	1.1	1	0.9	0	0.7
	6	2	1.1	0	1.8	0	0.4
5	1	4	2.3	4	3.3	0	0.1
	2	13	3.8	11	3.2	0	0.6
	3	11	4.7	22	2.4	0	1.4
	4	12	5.0	3	1.2	0	1.8
	5	7	3.7	5	1.5	0	1.8
	6	12	2.9	8	1.7	0	1.1
6	1	4	3.2	2	1.2	0	0.3
	2	4	2.1	2	1.0	0	1.0
	3	3	2.2	0	0.8	0	1.5
	4	11	2.5	2	5.0	0	2.4
	5	22	5.1	7	4.0	0	1.4
	6	26	8.5	12	3.9	0	0.7
7	1	16	8.2	3	0.7	0	0.5
	2	7	3.6	0	1.1	0	0.8
	3	3	1.8	2	2.1	0	0.5
	4	0	0.7	1	0.8	0	1.0
	5	2	1.6	1	0.4	0	0.4
	6	7	3.8	4	0.0	0	1.2
8	1	6	2.6	0	0.4	0	0.1
	2	6	2.9	0	0.2	0	0.6
	3	6	2.6	1	0.1	0	0.5
	4	9	2.3	1	0.5	0	0.5
	5	3	1.8	2	2.0	0	0.4
	6	23	6.1	14	0.4	0	0.2
9	1	10	8.1	4	0.5	0	0.0
	2	3	6.2	0	0.4	0	0.4
	3	3	2.8	0	2.3	7	0.6
	4	13	6.8	2	3.1	3	0.9
	5	26	5.5	15	3.7	5	4.6
	6	44	6.9	6	11.5	24	4.4
10	1	68	14.7	91	14.4	24	8.5
	2	20	12.8	46	11.8	17	14.7
	3	7	9.0	14	11.4	14	9.2
	4	22	8.3	46	10.9	29	17.5
	5	30	8.9	62	15.0	60	19.6
	6	33	8.2	82	14.2	32	17.1
11	1	7	6.8	69	11.7	26	14.5
	2	14	7.8	40	7.0	20	9.7
	3	33	9.5	22	6.3	30	8.4
	4	9	6.1	21	3.8	3	6.5
	5	17	3.7	0	2.4	4	7.1
	6	11	4.0	1	3.0	2	5.3
12	1	3	2.8	0	1.5	2	4.0
	2	0	0.7	0	1.1	2	3.2
	3	1	0.6	0	0.8	0	1.7
	4	0	0.4	0	0.7	1	0.5
	5	0	0.5	0	0.8	310	0.4
	6	0	0.8	0	189.9	0	0.4
合 計		595	229.7	633	121.9	253	186.5

## 5) ヨトウガ

単位：頭

月	半旬	紀の川市	
		本年	平均
3	1	20	13.8
	2	2	7.4
	3	7	8.2
	4	1	3.9
	5	2	3.4
	6	3	3.6
4	1	2	4.8
	2	1	9.3
	3	4	7.9
	4	7	14.3
	5	3	11.8
	6	1	8.8
5	1	2	3.6
	2	0	3.5
	3	0	2.0
	4	0	3.0
	5	0	0.8
	6	0	3.2
6	1	0	1.0
	2	0	0.2
	3	0	0.4
	4	0	0.4
	5	0	0.2
	6	0	0.3
7	1	0	0.1
	2	0	0.0
	3	0	0.0
	4	0	0.1
	5	0	0.1
	6	0	0.0

月	半旬	紀の川市	
		本年	平均
8	1	0	0.0
	2	0	0.0
	3	0	0.0
	4	0	0.0
	5	0	0.2
	6	0	0.0
9	1	0	0.3
	2	0	1.8
	3	0	2.6
	4	0	5.2
	5	2	8.0
	6	3	5.9
10	1	2	3.9
	2	0	2.2
	3	0	1.2
	4	0	0.8
	5	0	0.4
	6	0	0.9
11	1	0	0.2
	2	0	0.0
	3	0	0.0
	4	0	0.1
	5	0	1.0
	6	0	0.4
計		140	137.6

### 3. 黄色水盤によるアブラムシ類の飛来状況

		紀の川市				紀の川市	
月	半旬	本年	平年	月	半旬	本年	平年
1	1	14	3.7	7	1	7	6.3
	2	4	2.9		2	7	5.2
	3	2	2.1		3	4	4.0
	4	7	2.2		4	9	6.1
	5	3	1.4		5	7	6.5
	6	2	1.9		6	2	9.2
2	1	5	1.7	8	1	10	8.0
	2	1	1.9		2	3	8.6
	3	4	2.9		3	5	15.7
	4	15	2.9		4	13	39.2
	5	2	1.3		5	4	13.9
	6	2	1.8		6	19	17.5
3	1	3	2.8	9	1	12	19.8
	2	1	4.7		2	34	25.0
	3	10	7.1		3	14	35.6
	4	8	10.8		4	14	24.5
	5	3	9.4		5	5	23.4
	6	64	21.8		6	8	17.8
4	1	25	19.4	10	1	10	14.6
	2	59	26.5		2	11	9.1
	3	47	26.8		3	4	7.6
	4	24	42.7		4	7	10.6
	5	26	57.9		5	10	11.9
	6	12	28.8		6	10	15.4
5	1	4	42.8	11	1	11	15.7
	2	10	40.6		2	2	17.6
	3	11	44.6		3	8	31.6
	4	5	34.8		4	7	33.2
	5	7	44.1		5	3	18.9
	6	7	38.8		6	5	25.2
6	1	5	39.8	12	1	9	15.2
	2	3	32.0		2	2	11.3
	3	3	18.9		3	5	11.3
	4	7	17.4		4	1	6.3
	5	6	10.6		5	1	7.7
	6	0	10.0		6	2	5.2
合 計		808	1237.0	合 計		808	1237.0

## Ⅸ. 果樹病害虫の発生状況調査

### 1. 予察ほ場における調査成績

#### 1) カンキツ

##### (1) 生育状況 (有田川町奥)

##### a) 生育調査 (月/日)

品種	発芽期	展葉期	開花期		
			始期	盛期	終期
早生ウンシュウミカン	4/2 (3/30)	4/19 (4/19)	4/25 (4/30)	5/1 (5/5)	5/7 (5/11)
普通ウンシュウミカン	4/3 (4/2)	4/21 (4/20)	4/26 (5/2)	5/7 (5/8)	5/11 (5/13)
不知火	3/31 (3/29)	4/18 (4/14)	4/24 (5/4)	5/1 (5/12)	5/7 (5/17)

( )内は平年

##### b) 果実肥大調査 (ヨコ径, cm)

品種	調査月日										
	7/15	8/1	8/15	9/1	9/15	10/1	10/15	11/1	11/15	12/1	12/15
早生ウンシュウミカン	3.8 (3.7)	4.0 (4.2)	4.1 (4.7)	5.0 (5.2)	5.5 (5.7)	5.9 (6.1)	6.3 (6.4)	6.7 (6.7)	6.9 (6.8)	7.0 (6.9)	7.0 (6.9)
普通ウンシュウミカン	3.4 (3.5)	3.7 (4.1)	4.0 (4.6)	4.8 (5.2)	5.3 (5.6)	5.7 (6.2)	6.1 (6.6)	6.6 (6.9)	6.8 (7.1)	6.9 (7.3)	7.0 (7.4)
不知火	4.1 (4.0)	4.5 (4.9)	4.9 (5.6)	6.1 (6.3)	6.6 (6.9)	7.2 (7.6)	7.7 (8.1)	8.4 (8.5)	8.6 (8.7)	8.8 (8.8)	8.7 (8.8)

( )内は平年

#### 概要(平年との比較)

早生ウンシュウミカンおよび普通ウンシュウミカンの発芽期および展葉期は平年並、開花期は平年よりやや早かった。不知火の発芽期および展葉期は平年よりやや遅く、開花期は平年より早かった。

生育期間中の果実肥大は、早生ウンシュウミカンは9月末まで平年より小さく、10月以降は平年より大きく推移した。普通ウンシュウミカンは平年より小さく推移した。不知火は平年並から小さく推移した。

##### (2) 黒点病

##### a) 発病状況調査 (有田川町奥)

区	調査項目	調査時期				
		6/中	7/中	8/中	9/中	10/中
無防除ほ場	発病果率 (%)	82.6 (31.1)	100.0 (97.9)	100 (100)	100 (100)	100 (100)
	発病度	15.8 (5.0)	27.0 (24.4)	38.6 (39.8)	54.4 (47.4)	63.1 (62.5)
防除ほ場	発病果率 (%)	6.5 (1.1)	3.0 (18.1)	5.0 (24.5)	3.0 (32.3)	5.7 (57.6)
	発病度	0.9 (0.1)	0.4 (2.7)	0.7 (3.7)	0.4 (5.0)	0.8 (8.6)

(注) ( )内は平年

無防除ほ場は29年生興津早生、防除ほ場は52年生宮川早生の各区4樹1樹につき50果を調査

自然感染

防除ほ場使用薬剤(散布日):

デランフロアブル 1,000倍(4/12)

ナリアWDG 2,000倍(5/2)

ICボルドー66D 60倍(5/22)

エムダイファー水和剤 600倍(5/23)

ジマンダイセン水和剤 400倍(6/11、7/3、8/6、9/2)

概要：果実の初発は5月30日(平成6月4日)で平成よりやや早かった。無防除ほ場の発病は6月中旬に平成より多く、その後平成並に推移した。防除ほ場は平成より少なく推移した。

(3) かいよう病

a) 発病状況調査(有田川町奥)

越冬病斑		春葉発病			果実発病		
調査月日	発病葉率(%)	調査月日	発病率(%)	発病度	調査月日	発病率(%)	発病度
3月14日	7.0	6月17日	5.7	1.1	7月16日	12.7	2.6
(3月中下旬)	(10.0)	(6月中下旬)	(6.7)	(1.6)	(7月中下旬)	(11.3)	(3.7)

(注)( )内は平成

28年生ネーブル3樹

越冬病斑は旧葉、春葉発病は春葉について1樹につき100葉を調査

果実発病は1樹につき50果を調査

自然感染

概要：越冬病斑の発病葉率は平成よりやや低かった。春葉での初発は5月22日(平成5月23日)で平成並であった。6月中下旬の春葉における発病は平成よりやや少なく、7月中下旬の果実における発病は平成並であった。

## (4) ヤノネカイガラムシ

a) 発生状況調査 (有田川町奥)		10葉当たり虫数(頭)			
調査月日	1 齢	雌 2 齢	未成熟成虫	成熟成虫	合計
5.9	0	0	0	10	10
5.10	2	0	0	10	12

概要：第1世代1齢幼虫の初発は5月10日と平年(5月12日)よりやや早かった。

## (5) ミカンハダニ

a) 発生状況調査 (有田川町奥)		100葉当たり雌成虫数(頭)	
調査月日	無防除ほ場	防除ほ場	
3.5	0	0	
15	0	0	
25	0	0	
4.5	12	0	
15	10	0	
24	18	0	
5.7	23	0	
14	28	0	
24	7	0	
6.5	0	0	
15	0	0	
25	0	0	
7.8	1	0	
17	0	0	
25	1	0	
8.8	1	0	
15	2	11	
26	16	93	
9.5	204	91	
15	38	29	
25	0	0	
10.5	0	0	
15	0	0	
25	0	0	
11.5	0	0	
15	2	0	
24	0	0	
12.5	0	0	
15	0	0	
25	0	0	
1.5	0	0	
15	0	0	
25	0	0	
2.5	0	0	
17	0	0	
25	0	0	

概要：無防除ほ場では4月上旬から5月下旬および8月下旬から9月中旬に発生が認められた。防除ほ場では、8月中旬から9月中旬まで発生が認められた。

(6) チャノキイロアザミウマ

a) 誘殺状況 (黄色粘着トラップ)

予察ほ場 (有田川町奥)

頭/トラップ

調査時期 (月・半旬)	No. 1	No. 2	計
4. 1	0	2	2
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
5. 1	2	1	3
2	2	4	6
3	1	4	5
4	0	0	0
5	0	0	0
6	1	1	2
6. 1	0	1	1
2	0	5	5
3	4	5	9
4	3	10	13
5	7	11	18
6	5	9	14
7. 1	0	4	4
2	2	1	3
3	16	31	47
4	1	24	25
5	4	47	51
6	4	19	23
8. 1	4	18	22
2	5	9	14
3	7	4	11
4	5	11	16
5	7	16	23
6	18	21	39
9. 1	21	15	36
2	6	30	36
3	24	31	55
4	11	21	32
5	23	73	96
6	17	26	43
10. 1	6	17	23
2	6	20	26
3	2	9	11
4	1	0	1
5	0	0	0
6	0	0	0

概要：7月第3半旬から8月第1半旬および8月第5半旬および10月第1半旬に多く誘殺された。

b) 誘殺状況 (黄色粘着トラップ)  
 予察ほ場 (由良町畑)

頭／トラップ

調査時期 (月・半旬)	No. 1	No. 2	計
4. 1	0	0	0
2	1	0	1
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
5. 1	0	0	0
2	2	2	4
3	1	5	6
4	2	5	7
5	1	0	1
6	3	4	7
6. 1	0	2	2
2	6	6	12
3	6	35	41
4	14	64	78
5	17	62	79
6	4	23	27
7. 1	2	26	28
2	2	24	26
3	16	37	53
4	3	18	21
5	11	45	56
6	34	95	129
8. 1	16	49	65
2	5	62	67
3	11	62	73
4	24	47	71
5	23	32	55
6	33	42	75
9. 1	14	6	20
2	3	18	21
3	13	14	27
4	6	18	24
5	19	29	48
6	6	16	22
10. 1	15	22	37
2	5	12	17
3	0	0	0
4	3	1	4
5	0	1	1
6	1	0	1

概要：6月第3半旬から10月第1半旬に多く誘殺された。

(7) ミドリヒメヨコバイ類

a) 誘殺状況 (黄色粘着トラップ)

予察ほ場 (有田川町奥)

頭/トラップ

調査時期 (月・半旬)	No. 1	No. 2	計
4. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
5. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
6. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	4	1	5
5	2	1	3
6	0	0	0
7. 1	1	0	1
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
8. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
9. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	1	1
10. 1	1	0	1
2	13	4	17
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0

概要：年間を通して誘殺数は少なかった。

b) 誘殺状況(黄色粘着トラップ)  
 予察ほ場 (由良町畑)

頭/トラップ

調査時期 (月・半旬)	No. 1	No. 2	計
4. 1	0	0	0
2	0	1	1
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
5. 1	0	0	0
2	0	1	1
3	0	3	3
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
6. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	2	2	4
5	1	0	1
6	0	0	0
7. 1	0	1	1
2	1	0	1
3	1	2	3
4	1	0	1
5	2	0	2
6	0	0	0
8. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	4	1	5
6	0	1	1
9. 1	0	0	0
2	1	0	1
3	0	0	0
4	0	0	0
5	1	2	3
6	1	0	1
10. 1	1	0	1
2	1	2	3
3	0	0	0
4	0	0	0
5	2	0	2
6	1	1	2

概要：年間を通して誘殺数は少なかった。

## (8) 果樹カメムシ類

## a) 越冬量調査

## チャバネアオカメムシ越冬量調査結果

頭/落葉 50 リットル

採集場所名	採集日	調査日	♂	♀	計	死亡	その他
橋本市北馬場	2/28	2/28	0	0	0	0	
橋本市市脇	2/28	2/28	0	0	0	0	
橋本市清水	2/18	2/18	0	0	0	0	
橋本市学文路	2/18	2/18	0	0	0	0	
橋本市高野口町竹尾	2/13	2/18	-	-	1	0	
橋本市高野口町下中	2/13	2/18	0	0	0	0	
九度山町下古沢	2/12	2/12	0	0	0	0	
九度山町慈尊院	2/12	2/12	0	0	0	0	
かつらぎ町短野	2/14	2/14	-	-	2	0	
かつらぎ町教良寺	2/13	2/13	0	0	0	0	
かつらぎ町御所	2/13	2/13	0	0	0	0	
かつらぎ町東谷	2/14	2/14	0	0	0	0	
紀の川市赤沼田	2/3	2/19	0	1	1	0	
紀の川市中尾	2/3	2/19	0	1	1	0	
紀の川市林ヶ峯	2/3	2/19	0	0	0	0	
紀の川市秋葉山	2/3	2/19	0	0	0	0	
紀の川市鞆渕	2/3	2/19	0	0	0	0	
紀の川市桃山町黒川	2/3	2/19	0	0	0	0	
紀の川市貴志川町高尾	2/3	2/19	0	0	0	0	
海南市海老谷	2/17	2/19	0	0	0	0	
海南市東畑	2/17	2/19	0	0	0	0	
海南市ひや水	2/17	2/19	0	0	0	0	
紀美野町西野	2/17	2/19	0	0	0	0	
紀美野町松瀬	2/17	2/19	0	0	0	0	
紀美野町釜滝	2/17	2/19	0	0	0	0	
紀美野町大角	2/17	2/19	0	0	0	0	
紀美野町永谷	2/17	2/19	1	0	1	0	
紀美野町津川	2/17	2/19	0	0	0	0	

(つづき)

採集場所名	採集日	調査日	♂	♀	計	死亡	その他
有田川町奥 (果試場内 No. 1)	2/6	2/21	0	0	0	0	
有田川町奥 (果試場内 No. 2)	2/6	2/21	0	0	0	0	
有田川町修理川	2/6	2/21	0	0	0	0	
有田川町川口	2/6	2/21	0	0	0	0	
広川町津木	2/6	2/21	0	0	0	0	
広川町室川	2/6	2/21	0	0	0	0	
日高川町千津川	2/6	2/21	0	0	0	0	
印南町白河	1/22	2/12	0	0	0	0	
みなべ町高城	1/22	2/12	1	0	1	0	
みなべ町広野	1/22	2/12	0	0	0	0	
みなべ町清川	1/22	2/12	0	0	0	0	
田辺市竹藪	1/20	2/12	1	0	1	0	
田辺市上野	1/22	2/12	0	0	0	0	
上富田町岩田	1/20	2/12	0	0	0	0	
すさみ町和深川	1/20	2/12	0	0	0	0	
白浜町口ヶ谷	1/20	2/12	0	0	0	0	
串本町重畳山	1/20	2/12	0	0	0	0	
那智勝浦町井関	1/20	2/12	0	0	0	0	
新宮市木ノ川	1/20	2/12	0	0	0	0	

調査方法：定点における雑木林の落葉 50 リットルを採集し、落葉中のチャバネアオカメムシ成虫数を計数した。

概要：県内 47 地点のチャバネアオカメムシ越冬成虫数は、落葉 50 リットル当たり平均 0.2 頭(前年 2.9 頭、平年 0.6 頭)、捕獲地点率は 14.9%(前年 48.9%、平年 21.7%)で平年よりもやや少なかった。

## b) 誘殺状況(予察灯:100W水銀灯)

(予察ほ場:有田川町奥)

調査時期 月・半旬	チャバネアオ カメムシ	ツヤアオ カメムシ	クサギ カメムシ	合計
4.1	0	3	0	3
2	0	0	0	0
3	5	6	0	11
4	20	42	2	62
5	15	61	1	76
6	110	356	17	466
5.1	87	119	2	206
2	33	109	0	142
3	104	270	3	374
4	255	159	3	414
5	326	378	12	704
6	1175	682	16	1857
6.1	266	131	17	397
2	433	509	45	942
3	3096	1437	160	4533
4	2359	837	155	3196
5	1616	921	129	2537
6	881	444	72	1325
7.1	4391	1214	556	5607
2	2431	772	703	3204
3	1295	403	237	1701
4	1809	422	443	2237
5	1923	270	255	2196
6	1693	276	503	1970
8.1	962	164	278	1138
2	633	74	170	722
3	386	90	132	516
4	260	69	96	461
5	265	61	61	387
6	200	35	25	315
9.1	316	44	26	397
2	296	25	12	349
3	197	27	22	259
4	248	30	13	303
5	46	7	0	58
6	106	100	3	270
10.1	48	36	0	86
2	32	12	0	45
3	10	7	0	17
4	7	3	0	10
5	2	15	0	17
6	2	4	0	6

概要: チャバネアオカメムシは4月第3半旬から10月第6半旬まで誘殺され、5月第6半旬および6月第3半旬から8月第2半旬の誘殺数が特に多かった。  
ツヤアオカメムシは4月第1半旬から誘殺され始め、5月第6半旬および6月第2半旬から7月第2半旬の誘殺数が特に多かった。

## 2) カキ

### (1) 生育状況（予察ほ場：紀の川市粉河）

品 種		発芽期	展葉期	開花期			収穫盛期
				始 期	最盛期	終 期	
平核無	本 年	3月8日	3月31日	5月3日	5月5日	5月10日	10月30日
	平 年 比	- 4	- 3	- 6	- 6	- 4	+ 3
富 有	本 年	3月13日	4月3日	5月11日	5月14日	5月18日	12月2日
	平 年 比	- 3	- 1	- 5	- 4	- 3	+12

注) -は平年より早く、+は平年より遅いことを示す（単位：日）

概要：平核無の発芽期はやや早く、展葉期もやや早かった。開花期はやや早かった、収穫期は平年並となった。

富有の発芽期はやや早かったが、展葉期は平年並であった。開花期はやや早かったが、収穫期は遅くなった。

### (2) ハマキムシ類（付表1参照）

概要：チャハマキは4月1半旬から誘殺され始め、4月2～5半旬の誘殺数が多かった。

チャノコカクモンハマキは4月1半旬から誘殺され始め、4月4半旬～5月3半旬、6月4半旬～6半旬の誘殺数が多かった。

## (3) アザミウマ類

a) 誘殺状況（黄色粘着トラップ）（予察ほ場：紀の川市粉河）

調査時期 月・半旬	チャノキイロアザ ミウマ		カキクダ アザミウマ	
	本年	平年	本年	平年
4・1	0	1.6	0	1.4
2	0	1.5	1	0.4
3	0	0.6	0	0.8
4	0	0.1	0	1.1
5	0	0.1	0	0.4
6	1	0.1	0	0.2
5・1	2	0.2	0	0.1
2	1	0.1	0	0.3
3	0	0.7	0	0.3
4	2	1.9	0	0.0
5	3	2.1	1	0.1
6	2	1.7	0	0.2
6・1	10	1.7	0	2.3
2	6	5.5	0	5.7
3	26	16.4	0	12.6
4	26	28.6	2	13.3
5	23	48.9	0	10.8
6	24	89.2	0	3.8
7・1	74	102.6	0	1.0
2	56	92.8	0	0.8
3	23	60.5	2	0.7
4	26	49.9	0	0.6
5	36	47.4	0	0.4
6	46	45.0	0	0.5
8・1	101	43.6	0	0.3
2	55	34.3	0	0.4
3	56	58.1	0	0.5
4	110	31.4	0	0.7
5	76	24.6	0	0.7
6	58	27.5	0	0.6
9・1	22	21.1	0	0.4
2	48	23.2	0	0.5
3	49	17.3	0	0.6
4	13	15.6	0	0.3
5	14	17.1	0	0.0
6	13	14.3	0	0.3
10・1	5	7.6	0	0.2
2	5	3.2	0	0.0
3	0	2.2	0	0.0
4	0	0.8	0	0.3
5	0	0.2	0	0.1
6	1	0.3	0	0.1
合 計	1013	941.7	6	63.8

注) 20×20cmの黄色粘着板1基当たりの表裏合計の虫数を示す。  
平年値は平成26～令和5年の平均を示す。

概要：チャノキイロアザミウマは4月6半旬から誘殺され始め、8月1半旬～6半旬の誘殺数が多かった。  
カキクダアザミウマは4月2半旬から誘殺され始め、6月4半旬と7月3半旬に発生が認められた。

## (4) カメムシ類

a) 誘殺状況 (予察灯：100W水銀灯) (予察ほ場：紀の川市粉河)

調査時期 月・半旬	チャバネアオ カメムシ	ツヤアオ カメムシ	クサギ カメムシ	合計
4・1	0	0	0	0
2	0	0	0	0
3	0	6	1	7
4	13	17	0	30
5	71	75	8	154
6	987	1549	47	2583
5・1	784	182	4	970
2	334	192	4	530
3	1591	577	9	2177
4	570	76	2	648
5	990	294	26	1310
6	3696	459	57	4212
6・1	171	41	7	219
2	414	742	21	1177
3	1273	2296	64	3633
4	882	4146	51	5079
5	1601	5172	134	6907
6	2512	2191	158	4861
7・1	6941	1921	891	9753
2	2026	725	618	3369
3	2216	775	445	3436
4	2751	1069	777	4597
5	1556	1064	603	3223
6	1075	779	663	2517
8・1	542	462	385	1389
2	997	337	224	1558
3	232	236	111	579
4	324	209	129	662
5	355	170	70	595
6	139	63	14	216
9・1	195	43	15	253
2	239	50	22	311
3	290	59	42	391
4	495	58	29	582
5	154	13	2	169
6	75	56	4	135
10・1	59	41	1	101
2	42	22	1	65
3	2	1	0	3
4	3	7	0	10
5	0	6	0	6
6	0	4	0	4

概要：チャバネアオカメムシは4月4半旬から誘殺され始め、4月6半旬～8月2半旬に誘殺数が多かった。

ツヤアオカメムシは4月3半旬から誘殺され始め、4月6半旬～7月6半旬に誘殺数が多かった。

### 3) モモ

#### (1) 生育状況（予察ほ場：紀の川市粉河）

品 種	発芽期	開花期			収穫期
		始 期	最盛期	終 期	収穫盛期
白 鳳	本年 3月12日	3月31日	4月2日	4月5日	7月3日
	平年比 -	- 1	- 2	- 5	- 5

注) -は平年より早く、+は平年より遅いことを示す（単位：日）

概要：白鳳の発芽期は平年並で、開花期も平年並であったが、収穫期はやや早かった。

#### (2) ナシヒメシンクイ（付表1参照）

概要：ナシヒメシンクイは4月1半旬から誘殺され始め、4月6半旬、5月3～4半旬、8月3半旬と5半旬に誘殺数が多かった。

#### (3) モモハモグリガ（付表1参照）

概要：モモハモグリガは5月第4半旬から誘殺され始め、6月4半旬に誘殺数が多かった。

#### (4) コスカシバ（付表1参照）

概要：コスカシバは7月1半旬に1頭のみ誘殺された。

#### (5) モモシンクイガ（付表2参照）

概要：モモシンクイガは5月6半旬から8月6半旬まで誘殺された。誘殺数はやや多かった。

付表1) 誘殺状況 (フェロモントラップ)

(予察ほ場：紀の川市粉河)

調査時期 月・半旬	チャハマキ		チャノコカクモンハマキ		ナシヒメシンクイ		モモハモグリガ		コスカシバ	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4・1	2	5.1	2	1.8	2	24.4	0	0.6	0	0.0
2	14	8.7	2	4.0	14	22.5	0	0.1	0	0.0
3	8	10.1	9	6.1	8	15.3	0	0.2	0	0.0
4	4	7.0	17	12.7	4	16.1	0	0.0	0	0.1
5	6	7.6	24	24.8	6	9.1	0	0.1	0	0.2
6	3	2.6	30	30.9	30	5.7	0	0.0	0	0.7
5・1	3	4.9	34	34.1	5	10.4	0	1.3	0	0.9
2	1	3.5	13	28.0	2	11.2	0	4.1	0	0.5
3	0	3.9	4	19.1	21	3.4	0	3.9	0	0.5
4	2	2.1	0	8.3	34	5.7	2	2.1	0	1.1
5	0	1.3	0	2.3	15	9.0	1	1.3	0	1.6
6	0	1.6	0	0.9	10	19.1	0	0.7	0	0.9
6・1	0	0.4	0	3.6	0	21.8	0	0.7	0	1.1
2	0	0.4	1	2.7	21	13.3	2	1.3	0	1.5
3	0	0.2	2	6.8	12	10.8	1	1.9	0	1.2
4	0	0.6	9	8.5	11	11.4	10	3.0	0	0.7
5	0	0.7	0	11.9	0	11.2	0	4.6	0	1.8
6	0	1.4	8	8.8	23	11.9	1	2.1	0	0.9
7・1	0	1.3	1	8.7	18	14.1	2	1.6	1	0.9
2	0	1.6	0	5.5	0	12.1	0	3.0	0	0.7
3	0	0.5	2	3.4	24	18.3	2	3.7	0	0.6
4	0	0.3	0	2.3	13	17.9	3	4.4	0	1.1
5	0	0.4	0	3.4	8	16.8	1	3.6	0	1.6
6	0	1.0	0	7.3	10	21.1	0	2.4	0	2.0
8・1	0	0.4	0	6.5	8	21.1	0	2.2	0	1.3
2	0	0.8	0	4.0	16	18.7	0	2.0	0	1.6
3	0	0.8	0	4.5	45	20.6	0	1.1	0	1.5
4	0	0.2	0	2.2	0	19.9	0	1.0	0	1.0
5	0	0.2	0	0.9	50	20.6	0	0.7	0	2.1
6	0	0.9	0	1.3	22	23.4	0	0.5	0	1.6
9・1	0	1.4	0	1.2	28	14.4	0	0.5	0	2.3
2	0	1.5	0	2.1	12	16.1	0	1.5	0	2.1
3	0	0.9	0	3.7	0	13.4	0	3.3	0	2.8
4	0	1.4	0	5.0	22	11.1	0	4.2	0	2.8
5	0	1.3	0	9.6	7	8.0	0	5.3	0	6.4
6	0	1.4	0	11.4	5	5.0	1	3.9	0	5.9
10・1	0	2.2	0	11.4	0	2.4	0	3.9	0	3.3
2	0	3.5	0	8.6	9	2.6	0	1.6	0	2.3
3	0	4.6	0	10.0	3	1.1	1	1.3	0	0.5
4	0	2.6	0	6.0	0	1.0	0	0.6	0	0.5
5	0	3.7	0	4.8	0	0.2	0	0.1	0	0.2
6	0	3.4	0	3.8	0	0.3	0	0.1	0	0.1
合 計	43	98.4	148	342.9	518	532.5	28	80.5	1	58.9

注) 平年値は平成26～令和5年の誘殺数から求めた。

付表2) 誘殺状況 (フェロモントラップ)

調査時期 月・半旬	モモシクイガ							
	予察ほ場 紀の川市粉河 (モモ園)		紀の川市 桃山町元 (モモ園)		紀の川市杉原 (ナシ園)		かつらぎ町 東洪田 (モモ園)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4・1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5・1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.2
5	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.6
6	0	0.0	0	0.4	2	0.0	1	1.0
6・1	0	0.0	0	0.0	4	0.6	1	0.5
2	0	0.0	0	0.0	12	1.0	1	1.0
3	0	0.0	0	0.0	15	1.6	0	2.1
4	0	0.0	0	0.1	14	1.2	0	1.8
5	0	0.0	0	0.0	8	3.4	0	1.6
6	0	0.0	1	0.0	3	2.6	9	2.1
7・1	0	0.0	0	0.0	6	1.7	0	2.0
2	0	0.0	1	0.0	6	1.1	1	0.9
3	0	0.0	0	0.0	10	0.9	3	1.5
4	0	0.0	0	0.1	11	1.7	4	1.8
5	0	0.0	0	0.0	11	1.2	3	0.6
6	0	0.0	0	0.0	4	1.3	2	0.8
8・1	0	0.0	0	0.0	13	0.7	0	0.6
2	0	0.0	0	0.0	13	0.9	0	0.4
3	0	0.0	0	0.0	12	1.3	0	0.6
4	0	0.0	0	0.0	11	0.3	0	0.4
5	0	0.0	0	0.0	1	0.4	0	0.3
6	0	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0
9・1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10・1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	2	1.0	157	22.5	25	20.8

注) 平年値は平成26～令和5年の誘殺数から求めた。

#### 4) ウ メ

##### (1) 生育状況 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

品種	開花期			発芽期	収穫期※		
	始期	盛期	終期		始期	盛期	終期
南高	1/19	1/29	2/14	3/21	5/29	6/5	6/6

※収穫期は青ウメでの時期

##### (2) 黒星病

###### a) 果実発病調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日			
	5月1日	5月14日	5月21日	6月3日
発病果率%	3.8	82.8	95.8	99.4
発病度	1.0	27.2	36.9	61.9

注) 品種：南高 3樹(無防除)、1樹100果調査

概要：果実での初発は5月上旬で、5月中旬にかけて増加した。

###### b) 新梢発病調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日		
	6月25日	7月22日	8月23日
発病新梢率%	9.3	26.7	62.7

注) 品種：南高 3樹(無防除)、1樹50新梢(徒長枝)調査

概要：新梢での発病は6月下旬から認められ、8月下旬にかけて増加した。

##### (3) かいよう病

###### a) 果実発病調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日				
	4月2日	4月9日	4月15日	5月1日	4月2日
発病果率%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発病度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注) 品種：南高 3樹(無防除)、1樹100果調査

概要：果実発病は認められなかった。

###### b) 新梢発病調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日		
	6月25日	7月22日	8月23日
発病新梢率%	4.0	3.3	2.7

注) 品種：南高 3樹(無防除)、1樹50新梢(徒長枝)調査

概要：6月下旬から新梢の発病が認められた。

##### (4) すず斑病

###### a) 果実発病調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日
	6月3日
発病果率%	1.8
発病度	0.7

注) 品種：南高 3樹(無防除)、1樹あたり全着果数を調査

概要：果実での初発は6月上旬であった。その後は着果数減少のため調査できなかった。

(5) ハダニ類

a) 発生状況調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査時期 月・半旬	100 葉あたり 雌成虫数	調査時期 月・半旬	100 葉あたり 雌成虫数
4. 1	1	8. 1	0
2	16	2	0
3	4	3	1
4	5	4	0
5	1	5	5
6	1	6	4
5. 1	4	9. 1	5
2	10	2	13
3	7	3	31
4	40	4	34
5	67	5	32
6	57	6	20
6. 1	147	10. 1	3
2	81	2	1
3	56	3	0
4	83	4	1
5	68	5	0
6	6	6	0
7. 1	3		
2	3		
3	2		
4	0		
5	0		
6	0		

注) 品種：南高 2 樹平均 無防除

概要：4 月第 1 半旬から 7 月第 3 半旬、8 月第 3 半旬から 10 月第 4 半旬にハダニ類の発生を確認した。

## (6) カメムシ類

## a) 誘殺状況 (予察灯：100W水銀灯) (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査時期 月・半旬	チャバネアオ カメムシ	ツヤアオ カメムシ	クサギ カメムシ	合 計
4. 1	1	19	0	20
2	0	18	0	18
3	0	8	0	8
4	4	105	1	110
5	46	283	2	331
6	366	4486	9	4861
5. 1	14	274	0	288
2	142	902	2	1046
3	441	1545	5	1991
4	418	1174	4	1596
5	1463	2305	25	3793
6	609	1171	8	1788
6. 1	128	236	3	367
2	110	410	6	526
3	1014	1861	33	2908
4	679	941	57	1677
5	732	1046	78	1856
6	1247	826	149	2222
7. 1	2976	469	395	3840
2	2371	405	347	3123
3	521	392	123	1036
4	673	384	232	1289
5	549	462	167	1178
6	646	487	114	1247
8. 1	372	265	50	687
2	431	212	26	669
3	439	223	30	692
4	595	190	38	823
5	417	71	36	524
6	379	89	11	479
9. 1	393	72	21	486
2	325	113	20	458
3	371	133	18	522
4	408	116	2	526
5	59	31	0	90
6	94	280	2	376
10. 1	93	479	1	573
2	30	89	0	119
3	8	32	0	40
4	8	9	0	17
5	9	11	0	20
6	44	1	0	45

概要：チャバネアオカメムシは4月第1半旬から10月第6半旬まで誘殺され、6月第6半旬から7月第2半旬の誘殺数が特に多かった。

ツヤアオカメムシは4月第1半旬から10月第6半旬まで誘殺され、4月第6半旬および、5月第3半旬から5月第6半旬の誘殺数が特に多かった。

## (7) ウメシロカイガラムシ

## a) 歩行幼虫発生状況調査 (両面テープトラップ) (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査時期 月・半旬	頭/トラップ	調査時期 月・半旬	頭/トラップ	調査時期 月・半旬	頭/トラップ
4. 1	0	6. 4	0	9. 1	0
2	10	5	15	2	0
3	52	6	5	3	9
4	96	7. 1	0	4	0
5	33	2	0	5	0
6	20	3	0	6	0
5. 1	2	4	0	10. 1	3
2	0	5	0	2	9
3	18	6	0	3	5
4	0	8. 1	0	4	16
5	46	2	12	5	99
6	0	3	3	6	176
6. 1	0	4	0		
2	0	5	0		
3	0	6	44		

注) 5トラップ平均

概要：第1世代は4月第2半旬から5月第5半旬まで、第2世代は6月第5半旬から6月第6半旬まで、第3世代の発生は8月第2半旬から9月第3半旬まで、第4世代の発生は10月第1半旬から第6半旬まで認められた。

## (8) アメリカシロヒトリ

## a) 雄成虫誘殺状況調査 (フェロモントラップ) (予察ほ場：みなべ町西本庄)

調査時期 月・半旬	頭/トラップ	調査時期 月・半旬	頭/トラップ	調査時期 月・半旬	頭/トラップ
4. 1	0	6. 4	0	9. 1	0
2	0	5	0	2	0
3	0	6	0	3	0
4	0	7. 1	0	4	0
5	0	2	0	5	0
6	0	3	0	6	0
5. 1	0	4	0		
2	0	5	0		
3	0	6	0		
4	0	8. 1	0		
5	0	2	0		
6	0	3	0		
6. 1	0	4	0		
2	0	5	0		
3	0	6	0		

概要：アメリカシロヒトリは確認されなかった。

2. 巡回調査結果

1) カンキツ

(1) 6月調査

(18~19日)

2024年

品種	地区	調査ほ場数	黒点病		そうか病				灰色かび病	かいよう病				貯蔵病害	褐色腐敗病	緑かび病	こはん症	ミカンハダニ		チャノキイロアザミウマ		チャノキイロアザミウマ				アブラムシ類	ハナムグリ類	ゴマダラカミキリ		ナメクジ類	
			発病率(%)	発病度	発病率(%)	発病度	発病率(%)	発病度	発病率(%)	発生率(%)	寄生率(%)	♀成虫数(頭/100葉)	寄生率(%)	虫数(頭/100果)	果頂部		果梗部		寄生枝率(%)	被害果率(%)	食害(被害樹率%)	成虫数(頭/ほ場)	被害果率(%)								
																							被害果率	被害度	被害果率	被害度					
ウンシュウミカン	下津	8	2.5	0.4	3.8	0.8	2.1	0.7	1.3	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	8.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0
	有田	12	0.0	0.0	3.6	0.6	0.3	0.0	3.6	0.0	0.0	0.4	0.11	0.0	0.0	0.0	0.0	2.3	11.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0
	日高	8	0.8	0.4	7.9	1.7	5.4	1.7	2.1	0.4	0.1	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	14.8	36.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0
	西牟婁	6	2.2	0.5	6.1	1.5	2.2	0.5	3.9	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	32.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平均	34	1.2	0.3	5.1	1.1	2.3	0.7	2.7	0.1	0.0	0.2	0.06	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	20.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0
	発生ほ場率(%)		11.8		26.5		20.6		55.9	2.9		8.8		0.0	0.0	0.0	0.0	32.4		0.0		0.0		0.0		0.0	14.7		0.0		0.0
八朔 平均	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.4	0.0	0.0	2.1	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	6.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																															
夏橙 平均	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	2.8	0.4	7.4	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	11.5	27.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																															
ネーブル 平均	3	8.9	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	1.1	0.8	10.7	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																															
伊予柑 平均	4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.2	0.8	1.7	0.2	1.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																															
清見 平均	5	0.7	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																															
不知火 平均	5	5.3	0.8	0.0	0.0	0.7	0.1	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.4	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																															
中晩柑 平均	30	1.9	0.3	0.0	0.0	0.3	0.0	1.2	0.9	0.19	3.2	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	3.6	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		13.3		0.0		6.7		16.7	16.7		40.0		0.0	0.0	0.0	0.0	46.7		0.0		0.0		0.0		0.0	0.0	40.0	0.0			0.0
カンキツ総平均	64	1.5	0.3	2.7	0.6	1.4	0.4	2.0	0.5	0.10	1.6	0.32	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	14.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)		12.5		14.1		14.1		37.5	9.4		23.4		0.0	0.0	0.0	0.0	39.1		0.0		0.0		0.0		0.0	0.0	26.6	0.0			0.0

2. 巡回調査結果

1) カンキツ  
(1) 7月調査  
(18~19日)

2024年

品種	地区	調査ほ場数	黒点病		そうか病				灰色かび病	かいよう病				貯蔵病害	褐色腐敗病	緑かび病	こはん症	ミカンハダニ		チャノキイロアザミウマ		チャノキイロアザミウマ				アブラムシ類	ハナムグリ類	ゴマダラカミキリ	ナメクジ類		
			発病率(%)	発病度	発病率(%)	発病度	発病率(%)	発病度	発病率(%)	発生率(%)	寄生率(%)	♀成虫数(頭/100葉)	寄生率(%)	虫数(頭/100果)	果頂部		果梗部		寄生枝率(%)	被害果率(%)	食害(被害樹率%)	成虫数(頭/ほ場)	被害果率(%)								
																							被害果率	被害度	被害果率	被害度					
ウンシュウミカン	下津	8	10.8	1.5	7.1	1.5	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0	0.0	0.0	0.0	21.7	80.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	有田	12	8.1	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0	0.0	0.0	0.0	17.7	46.4	0.0	0.0	1.4	0.4	0.3	0.0	2.1	0.3	0.0	0.0	0.0	
	日高	8	4.6	0.7	22.1	6.4	6.7	3.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.4	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	西牟婁	6	1.1	0.2	11.1	3.0	6.1	2.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	22.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平均	34	6.7	1.0	8.8	2.4	2.6	1.1	1.0	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0	0.0	0.0	0.0	14.4	41.7	0.0	0.0	0.5	0.1	0.1	0.0	0.7	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0
	発生ほ場率(%)		32.4		17.6		14.7		20.6	0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	47.1		0.0		5.9		2.9		2.9	2.9	0.0		0.0	0.0
八朔 平均	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	0.5	1.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0	3.3	0.9	1.9	0.8	0.9	6.2	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)																															
夏橙 平均	6	16.7	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.4	1.6	1.1	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.1	78.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.8	0.5	0.0	9.4	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)																															
ネーブル 平均	3	4.4	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	4.4	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)																															
伊予柑 平均	4	2.5	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	4.2	1.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	58.3	435.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)																															
清見 平均	5	7.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.7	5.3	0.0	0.0	2.0	0.3	4.7	1.4	0.3	2.7	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)																															
不知火 平均	5	14.7	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11.3	33.3	0.0	0.0	6.0	1.0	0.0	0.0	1.0	0.7	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)																															
中晩柑 平均	30	7.7	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	2.3	0.71	0.7	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	80.4	0.0	0.0	2.1	0.4	1.8	0.5	0.4	3.9	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)		26.7		0.0		0.0		3.3	30.0		33.3		0.0	0.0	0.0			6.7	40.0		0.0	26.7		20.0		26.7	30.0	0.0		0.0	
カンキツ総平均	64	7.2	1.1	4.7	1.3	1.4	0.6	0.6	1.1	0.33	0.3	0.08	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	14.6	59.8	0.0	0.0	1.3	0.3	0.9	0.3	2.1	1.9	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)		29.7		9.4		7.8		12.5	14.1		15.6		0.0	0.0	0.0			3.1	43.8		0.0	15.6		10.9		1.6	15.6	0.0		0.0	

2. 巡回調査結果  
1) カンキツ  
(1) 8月調査  
(21～22日)

2024年

品種	地区	調査ほ場数	黒点病		そうか病				灰色かび病		かいよう病				貯蔵病害	褐色腐敗病	緑かび病	こはん症	ミカンハダニ		チャノキイロアザミウマ		チャノキイロアザミウマ				アブラムシ類	ハナグムリ類	夜蛾	コナカイガラ	ゴマダラカミキリ	ナメクジ類														
			発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度					夏秋梢*	発病果率	発病果率	発病果率	発病果率(%)	寄生率(%)	♀成虫数(頭/100葉)	寄生率(%)							虫数(頭/100果)	果頂部		果梗部		寄生枝率(%)	被害果率(%)	被害果率(%)	被害果率(%)	被害果率(%)	寄生率	食害(被害樹率%)	成虫数(頭/ほ場)	被害果率(%)
																																			被害果率	被害度	被害果率	被害度								
ウンシュウミカン	下津	8	19.2	2.7	0.8	0.5	0.0	0.0	0.0	0.4	0.1	0.5	0.09	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.6	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									
	有田	12	6.1	0.9	0.0	0.0	0.6	0.1	1.4	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	17.8	71.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									
	日高	8	16.7	2.4	12.5	4.5	2.9	0.4	0.8	0.0	0.0	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	27.1	126.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									
	西牟婁	6	7.8	1.9	11.7	2.6	10.6	2.3	0.6	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	24.4	68.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									
	平均	34	12.0	1.8	5.2	1.6	2.7	0.5	0.8	0.1	0.0	0.2	0.04	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	19.2	71.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0									
発生ほ場率(%)			32.4		17.6		14.7		8.8		2.9		11.8		0.0	0.0	0.0	0.0	52.9		0.0		0.0		5.9		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0											
八朔	平均	7	1.4	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	6.2	2.8	1.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.1	2.9	0.1	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0												
発生ほ場率(%)																																														
夏橙	平均	6	16.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.2	1.8	4.6	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0												
発生ほ場率(%)																																														
ネーブル	平均	3	8.9	3.2	2.2	0.3	0.0	0.0	0.0	2.2	0.3	7.5	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.8	18.9	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0												
発生ほ場率(%)																																														
伊予柑	平均	4	8.3	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	0.5	0.9	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.3	74.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0												
発生ほ場率(%)																																														
清見	平均	5	1.3	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	12.7	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0												
発生ほ場率(%)																																														
不知火	平均	5	18.7	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	0.0	0.0	2.7	0.9	3.3	0.9	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0												
発生ほ場率(%)																																														
中晩柑	平均	30	8.9	2.7	0.2	0.0	0.0	0.2	3.6	1.11	2.1	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.3	17.3	0.0	0.0	0.6	0.2	3.1	0.2	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0												
発生ほ場率(%)			23.3		3.3		0.0	6.7	30.0		36.7		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0		0.0		13.3		33.3		0.0	30.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0												
カンキツ総平均		64	10.5	2.2	2.9	0.9	1.5	0.3	0.5	1.7	0.53	1.1	0.24	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.6	45.9	0.0	0.0	0.3	0.1	1.6	0.1	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0												
発生ほ場率(%)			28.1		10.9		7.8		7.8		15.6		23.4		0.0	0.0	0.0	0.0	42.2		0.0		6.3		18.8		0.0	14.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0												



## 2) カキ

(1) 5月調査 (16,17日)

調査品種：富有

市町村	調査場所		炭疽病 発病 新梢率	うどんこ病		灰色かび病 発病 新梢率	フジコナ カイガラムシ 寄生 花蕾率	カキクダ アザミウマ 被害 葉率	マイマイガ 被害 葉率	カンザワ ハダニ 被害 葉率
	No.	字名		発病 葉率	発病 度					
橋本市	1	柏原	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	山田	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	丁ノ町	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	西飯降	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
	11	東洪田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	野上	0.0	4.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	切畑	0.0	4.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	調月	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	16	鎌滝	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均			0.1	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
発生ほ場数			1	4		0	0	0	1	0
発生ほ場率(%)			5.9	23.5		0.0	0.0	0.0	5.9	0.0

100葉、50果、50新梢調査

調査品種：刀根早生、平核無

市町村	調査場所		品種	うどんこ病		灰色かび病 発病 新梢率	フジコナ カイガラムシ 寄生 花蕾率	カキクダ アザミウマ 被害 葉率	チャノキイ ロアザミウ マ 被害 果率	マイマイガ 被害 葉率	カンザワ ハダニ 被害 葉率
	No.	字名		発病 葉率	発病 度						
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	柏木	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	丁ノ町	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	兄井	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	西洪田	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	野上	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	切畑	刀根早生	4.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	調月	平核無	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	16	赤木	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				0.2	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場数				1		1	0	0	0	0	0
発生ほ場率(%)				5.9		5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

100葉、50果、50新梢調査

## (2) 6月調査 (12, 13日)

調査品種: 富有

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病 発病 葉率	灰色かび病			カキノヘ タムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキムシ類 被害 果率	カキクダ アザミウマ 被害 葉率	さび果症 被害 果率
	No.	字名			発病 度	発病 果率	発病 葉率					
橋本市	1	柏原	0.0	2.0	0.2	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	0.0	1.0	0.1	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	山田	0.0	0.0	0.0	8.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	2.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	0.0	1.0	0.1	2.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	0.0	11.0	1.1	4.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0
	9	丁ノ町	0.0	2.0	0.2	4.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	西飯降	0.0	8.0	0.8	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	東渋田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	野上	0.0	11.0	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	切畑	0.0	4.0	1.2	4.0	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	調月	0.0	1.0	0.1	8.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	0.0	1.0	0.1	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	16	鎌滝	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均			0.0	2.7	0.3	4.1	0.8	0.0	0.6	0.0	0.0	0.0
発生ほ場数			0	11		12	6	0	3	0	0	0
生ほ場率(%)			0.0	68.8		75.0	37.5	0.0	18.8	0.0	0.0	0.0

100葉、50果調査

調査品種: 刀根早生、平核無

市町村	調査場所		品種	炭疽病 発病 果率	うどんこ病 発病 葉率	灰色かび病			フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキムシ類 被害 果率	カキクダ アザミウマ 被害 葉率	チャノキイロ アザミウマ 被害 果率	カンザワ ハダニ 被害 果率
	No.	字名				発病 度	発病 果率	発病 葉率					
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	8.0	0.8	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	4.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	2.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	刀根早生	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	3.0	0.3	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	柏木	刀根早生	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	丁ノ町	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	兄井	平核無	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	12	西渋田	刀根早生	0.0	0.0	0.0	4.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	12	西渋田	刀根早生	0.0	0.0	0.0	4.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	13	野上	刀根早生	0.0	6.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	切畑	刀根早生	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0
紀美野町	16	赤木	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	18.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				0.0	1.1	0.1	4.6	0.2	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0
発生ほ場数				0	4		13	3	0	0	0	1	0
生ほ場率(%)				0.0	23.5		76.5	17.6	0.0	0.0	0.0	5.9	0.0

100葉、50果調査

## (3) 7月調査 (17日)

調査品種: 富有

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		すす点病 発病 果率	カキノ ヘ タムシ ガ 被害 果率	フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキムシ 類 被害 果率	カキクダ アザミウマ 被害 果率	コガシラ アワフキ 被害 果率	さび果症 被害 果率	カメムシ類 被害 果率
	No.	字名		発病 葉率	発病 度								
橋本市	1	柏原	0.0	3.0	0.3	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	24.0
	2	市脇	0.0	3.0	0.3	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0
	3	学文路	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
	4	山田	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	0.0	0.0	0.0	38.0	0.0	4.0	2.0	0.0	0.0	0.0	24.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	2.0	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0
かつらぎ町	8	広浦	0.0	18.0	3.3	14.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0
	9	丁ノ町	0.0	5.0	0.9	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
	10	西飯降	0.0	12.0	2.6	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0
	11	東洪田	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	野上	0.0	23.0	2.5	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	6.0
	13	切畑	0.0	21.0	2.1	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	32.0
	14	調月	0.0	6.0	0.8	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
紀美野町	15	赤木	6.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0
	16	鎌滝	8.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0
平均			1.3	5.9	0.8	4.3	0.0	1.1	0.6	0.0	0.0	0.0	10.9
発生ほ場数			5	10		6	0	6	4	0	0	0	13
発生ほ場率(%)			31.3	62.5		37.5	0.0	37.5	25.0	0.0	0.0	0.0	81.3

100葉、50果調査

調査品種: 刀根早生、平核無

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		すす点病 発病 果率	フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキムシ 類 被害 果率	カキクダ アザミウ マ 被害 果率	チャノキ イロアザ ミウマ 被害 果率	カンザワ ハダニ 被害 果率	カメムシ類 被害 果率	
	No.	字名		品種	発病 葉率								発病 度
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	18.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	7	入郷	刀根早生	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	30.0	0.0	10.0	
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	2.0	0.2	14.0	2.0	0.0	0.0	0.0	14.0	
	9	柏木	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	
	10	丁ノ町	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	11	兄井	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	
紀の川市	12	西洪田	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	13	野上	刀根早生	0.0	5.0	1.4	0.0	0.0	2.0	0.0	4.0	0.0	
	14	切畑	刀根早生	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	24.0	
紀美野町	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0	4.0	
	16	赤木	平核無	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	
	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	
平均				0.0	0.6	0.1	2.1	0.1	0.2	0.0	2.1	0.0	4.6
発生ほ場数				0	4		4	1	2	0	3	0	10
発生ほ場率(%)				0.0	23.5		23.5	5.9	11.8	0.0	17.6	0.0	58.8

100葉、50果調査

## (4) 8月調査 (19日)

調査品種: 富有

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		角斑 落葉病 発病 葉率	円星 落葉病 発病 葉率	すす点病 発病 果率	カキノヘ タムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラ ムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	コガシラ アワフキ 被害 果率	さび果症 被害 果率	カメムシ 類 被害 果率
	No.	字名		発病 葉率	発病 度									
橋本市	1	柏原	0.0	7.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	56.0
	2	市脇	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.0
	3	学文路	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	74.0
	4	山田	0.0	6.0	1.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0
	5	大野	4.0	2.0	0.2	0.0	0.0	44.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	40.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.0
かつらぎ町	8	広浦	2.0	8.0	0.8	0.0	0.0	24.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	38.0
	9	丁ノ町	0.0	7.0	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.0
	10	西飯降	0.0	3.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0
	11	東洪田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.0
紀の川市	12	野上	0.0	8.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	4.0	0.0	0.0	10.0
	13	切畑	0.0	6.0	0.6	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0
	14	調月	0.0	3.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0
紀美野町	15	赤木	6.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	72.0
	16	鎌滝	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	48.0
平均			1.0	3.3	0.4	0.0	0.0	5.1	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	27.5
発生ほ場数			5	11		0	0	6	0	3	2	0	0	15
発生ほ場率(%)			31.3	68.8		0.0	0.0	37.5	0.0	18.8	12.5	0.0	0.0	93.8

100葉、50果調査

調査品種: 刀根早生、平核無

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		角斑 落葉病 発病 葉率	円星 落葉病 発病 葉率	すす点病 発病 果率	フジコナ カイガラ ムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	カキノヘ タムシガ 被害 果率	チャノキ イロアザ ミウマ 被害 果率	カメムシ 類 被害 果率
	No.	字名		品種	発病 葉率								
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	30.0	0.0	0.0	0.0	2.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	48.0
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	4.0
	9	柏木	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	丁ノ町	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	兄井	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	西洪田	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0
	13	野上	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	切畑	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	8.0
	16	赤木	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	24.0
	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
平均				0.0	0.1	0.0	0.0	2.0	0.0	0.1	0.0	1.5	6.7
発生ほ場数				0	1		0	2	0	1	0	3	9
発生ほ場率(%)				0.0	5.9		0.0	11.8	0.0	5.9	0.0	17.6	52.9

100葉、50果調査

## (5) 9月調査 (17日)

調査品種:富有

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		角斑 落葉病		円星 落葉病		すす点病 発病 果率	カキノヘタ ムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	カメムシ類 被害 果率	ハスモン ヨトウ 被害 葉率
	No.	字名		発病 葉率	発病 度	発病 葉率	発病 度	発病 葉率	発病 度						
橋本市	1	柏原	0.0	3.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	54.0	0.0
	2	市脇	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0
	3	学文路	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	80.0	0.0
	4	山田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	14.0	0.0
	5	大野	4.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	24.0	0.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0
	7	入郷	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	18.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	4.0	10.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	38.0	0.0	0.0	4.0	32.0	0.0
	9	丁ノ町	0.0	2.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.0	0.0
	10	西飯降	0.0	9.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.0	0.0
	11	東洪田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0
紀の川市	12	野上	0.0	20.0	3.8	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	6.0	8.0	1.0
	13	切畑	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	34.0	0.0
	14	調月	0.0	0.0	0.0	11.0	2.7	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	4.0	3.0	0.5	23.0	4.5	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	98.0	0.0
	16	鎌滝	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	44.0	0.0
平均			1.0	3.1	0.5	2.1	0.4	0.0	0.0	6.5	0.0	0.3	1.0	28.9	0.1
発生ほ場数			5	9		2		0		8	0	2	4	15	1
発生ほ場率(%)			31.3	56.3		12.5		0.0		50.0	0.0	12.5	25.0	93.8	6.3

100葉、50果調査

調査品種:刀根早生、平核無

市町村	調査場所		品種	炭疽病 発病 果率	うどんこ病		角斑 落葉病		円星 落葉病		すす点病 発病 果率	カキノヘ タムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラ ムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	カメムシ 類 被害 果率	ハスモン ヨトウ 被害 葉率
	No.	字名			発病 葉率	発病 度	発病 葉率	発病 度	発病 葉率	発病 度						
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	2.0	0.3	0.0	0.0	30.0	0.0	0.0	0.0	30.0	0.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	1.0
	7	入郷	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	44.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	9	柏木	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	10	丁ノ町	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	11	兄井	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
紀の川市	12	西洪田	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0
	13	野上	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0	
	14	切畑	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	
紀美野町	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	8.0	1.5	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	16	赤木	平核無	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	2.0	22.0	0.0	
紀美野町	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	52.0	0.0	0.0	0.0	12.0	0.0	
	平均			0.0	0.1	0.0	0.6	0.1	0.0	0.0	6.4	0.0	0.1	0.1	7.2	0.2
発生ほ場数			0	1		2		0		7	0	1	1	9	3	
発生ほ場率(%)			0.0	5.9		11.8		0.0		41.2	0.0	5.9	5.9	52.9	17.6	

100葉、50果調査

(6) 10月調査 (16日, 17日)  
調査品種: 富有

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		角斑 落葉病		円星 落葉病		すす点病 発病 果率	カキノヘ タムシガ 被害 果率	フジコナカ イガラムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	カメムシ類 被害 果率
	No.	字名		発病 葉率	発病 度	発病 葉率	発病 度	発病 葉率	発病 度					
橋本市	1	柏原	0.0	0.0	0.0	14.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	74.0
	2	市脇	0.0	0.0	0.0	24.0	5.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0
	3	学文路	0.0	0.0	0.0	24.0	6.7	18.0	13.2	0.0	0.0	0.0	0.0	96.0
	4	山田	0.0	0.0	0.0	5.0	1.0	0.0	0.0	10.0	0.0	4.0	0.0	10.0
	5	大野	0.0	0.0	0.0	15.0	3.5	46.0	28.2	22.0	0.0	0.0	0.0	78.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
	7	入郷	0.0	2.0	0.4	10.0	2.5	0.0	0.0	2.0	0.0	4.0	0.0	28.0
かつらぎ町	8	広浦	12.0	1.0	0.1	45.0	20.5	0.0	0.0	26.0	0.0	0.0	4.0	28.0
	9	丁ノ町	0.0	0.0	0.0	27.0	6.7	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	22.0
	10	西飯降	0.0	7.0	1.1	19.0	5.3	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	14.0
	11	東渋田	0.0	4.0	0.8	10.0	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	18.0
紀の川市	12	野上	0.0	16.0	4.4	18.0	3.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	13	切畑	0.0	6.0	0.6	3.0	0.5	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	22.0
	14	調月	2.0	0.0	0.0	14.0	4.7	13.0	4.5	2.0	0.0	2.0	2.0	10.0
紀美野町	15	赤木	6.0	3.0	0.3	7.0	2.5	18.0	6.2	0.0	0.0	0.0	0.0	66.0
	16	鎌滝	2.0	0.0	0.0	8.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	38.0
平均			1.4	2.4	0.5	15.2	4.3	5.9	3.3	4.5	0.0	0.9	0.4	33.1
発生ほ場数			4	7		15		4		8	0	5	2	16
発生ほ場率(%)			25.0	43.8		93.8		25.0		50.0	0.0	31.3	12.5	100

100葉、50果調査

### 3) モモ

(1) 4月調査(11日)

市町村	調査場所		品種	せん孔細菌病 発病 枝率	モモ ハモグリガ 被害 葉率	ナシヒメ シンクイ 被害 枝率	アブラムシ類 寄生 新梢率	カイガラムシ類 寄生 枝率
	No.	字名						
紀の川市	1	杉原	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	遠方	日川白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	嶋	白鳳	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	長田中	白鳳	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	元	清水白桃	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6	市場	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	段	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	8	段新田	清水白桃	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	10	東浜田	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				0.8	0.0	0.0	0.0	0.1
発生ほ場数				4	0	0	0	1
発生ほ場率(%)				40.0	0.0	0.0	0.0	10.0

100葉叢、100結果枝 調査

(2) 5月調査(16,17日)

市町村	調査場所		品種	せん孔細菌病 発病 葉率	うどんこ病 発病 果率	モモ ハモグリガ 被害 葉率	ハダニ類 寄生 葉率	ナシヒメ シンクイ 被害 枝率	アブラムシ類 寄生 新梢率	カイガラムシ類 寄生 枝率	コスカシバ 被害 箇所数
	No.	字名									
紀の川市	1	杉原	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	遠方	日川白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	嶋	白鳳	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	長田中	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	元	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6	市場	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	段	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	8	段新田	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	東浜田	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				0.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場数				0	1	0	0	0	0	0	0
発生ほ場率(%)				0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

100葉、50果、50新梢 コスカシバ:10樹、樹高1m以下調査

## (3) 6月調査(19日)

市町村	調査場所		品種	せん孔細菌病		モモハモグリガ被害葉率	ハダニ類寄生葉率	ナシヒメシンクイ被害枝率	アブラムシ類寄生新梢率	カイガラムシ類寄生枝率	カメムシ類被害果率
	No.	字名		発病葉率	発病果率						
紀の川市	1	杉原	白鳳	0.0	-	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	-
	2	遠方	日川白鳳	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	3	嶋	白鳳	9.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
	4	長田中	白鳳	5.0	-	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	-
	5	元	清水白桃	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	6	市場	清水白桃	4.0	0.0	0.0	1.0	4.0	0.0	0.0	0.0
	7	段	白鳳	2.0	0.0	0.0	1.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	8	段新田	清水白桃	9.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	0.0	-	0.0	2.0	6.0	0.0	0.0	0.0
	10	東浜田	白鳳	3.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	-
平均				3.6	0.0	0.0	0.5	2.8	0.0	0.0	0.0
発生ほ場数				8	0	0	4	8	0	0	0
発生ほ場率(%)				80.0	0.0	0.0	40.0	80.0	0.0	0.0	0.0

100葉、50果、50新梢調査

- は有袋のため未調査

## (4) 7月調査(17日)

市町村	調査場所		品種	せん孔細菌病		灰星病発病果率	モモハモグリガ被害葉率	ハダニ類寄生葉率	ナシヒメシンクイ被害枝率	アブラムシ類寄生新梢率	カイガラムシ類寄生枝率	カメムシ類被害果率
	No.	字名		発病葉率	発病果率							
紀の川市	1	杉原	白鳳	1.0	-	-	0.0	3.0	6.0	0.0	0.0	0.0
	2	遠方	日川白鳳	16.0	-	-	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	-
	3	嶋	白鳳	24.0	-	-	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	-
	4	長田中	白鳳	8.0	-	-	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	5	元	清水白桃	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0
	6	市場	清水白桃	21.0	-	-	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0	0.0
	7	段	白鳳	12.0	-	-	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	8	段新田	清水白桃	31.0	12.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	8.0	-	-	0.0	1.0	6.0	0.0	0.0	-
	10	東浜田	白鳳	10.0	-	-	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	-
平均				13.4	-	-	0.0	1.4	3.6	0.0	0.0	0.0
発生ほ場数				10	-	-	0	5	8	0	0	0
発生ほ場率(%)				100.0	-	-	0.0	50.0	80.0	0.0	0.0	0.0

100葉、50果、50新梢調査

- は収穫済みのため果実無し

#### 4) キウイフルーツ

調査品種:ヘイワード

市町村	調査場所		4月調査 (16, 18日)		5月調査 (16, 20日)		6月調査 (17日)	
			かいよう病		かいよう病		かいよう病	
			発病葉率	発病度	発病葉率	発病度	発病葉率	発病度
紀の川市	1	名手上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	北涌	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
海南市	3	下津町小南	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	下津町小原	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	下津町下津	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場数			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

10新梢の100葉調査

4) ウメ

(1) 4月調査 (4月5、8日)

調査品種：南高

2024年

市町村	調査場所		黒星病		かいよう病		すす斑病	アブラムシ類	ウメシロカイガラムシ
	園No.	字名	発病枝率	病斑数／発病枝	発病枝率	病斑数／発病枝	発病枝率	被害新梢率	寄生枝率
みなべ町	1	東岩代 1	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	0.0	12.0
	2	東岩代 2	0.0	0.0	0.0	0.0	94.0	0.0	6.0
	3	東岩代 3	0.0	0.0	0.0	0.0	98.0	0.0	2.0
	4	東本庄 1	0.0	0.0	0.0	0.0	38.0	0.0	4.0
	5	東本庄 2	0.0	0.0	0.0	0.0	92.0	0.0	26.0
	6	東本庄 3	0.0	0.0	0.0	0.0	98.0	0.0	8.0
	7	西本庄 1	0.0	0.0	0.0	0.0	88.0	0.0	8.0
	8	西本庄 2	0.0	0.0	0.0	0.0	86.0	0.0	8.0
	9	西本庄 P 1	0.0	0.0	0.0	0.0	82.0	0.0	2.0
	10	西本庄 P 2	0.0	0.0	0.0	0.0	82.0	0.0	0.0
	11	西本庄 P 3	0.0	0.0	0.0	0.0	94.0	0.0	12.0
	12	井戸が谷	0.0	0.0	0.0	0.0	66.0	0.0	12.0
	13	埴田 1	0.0	0.0	0.0	0.0	94.0	0.0	2.0
	14	埴田 2	0.0	0.0	0.0	0.0	48.0	0.0	0.0
	15	晩稲 1	0.0	0.0	0.0	0.0	66.0	0.0	12.0
	16	晩稲 2	0.0	0.0	0.0	0.0	84.0	0.0	12.0
	17	晩稲 3	0.0	0.0	0.0	0.0	82.0	0.0	8.0
	18	晩稲 4	0.0	0.0	0.0	0.0	86.0	0.0	0.0
	19	晩稲 5	0.0	0.0	0.0	0.0	96.0	0.0	2.0
	20	岩代 P 1	0.0	0.0	0.0	0.0	88.0	0.0	2.0
	21	岩代 P 2	0.0	0.0	0.0	0.0	94.0	0.0	6.0
	22	高城 1	0.0	0.0	0.0	0.0	82.0	0.0	4.0
	23	高城 2	0.0	0.0	0.0	0.0	68.0	0.0	4.0
	24	高城 3	0.0	0.0	0.0	0.0	42.0	0.0	0.0
	25	清川 1	0.0	0.0	0.0	0.0	72.0	0.0	0.0
	26	清川 2	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	0.0	2.0
	27	清川 3	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	0.0	2.0
田辺市	1	下三栖 1	0.0	0.0	0.0	0.0	86.0	0.0	14.0
	2	下三栖 2	0.0	0.0	0.0	0.0	98.0	0.0	12.0
	3	下三栖 3	0.0	0.0	0.0	0.0	98.0	0.0	0.0
	4	上秋津 1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	12.0
	5	上秋津 2	0.0	0.0	0.0	0.0	72.0	0.0	4.0
	6	上秋津 3	0.0	0.0	0.0	0.0	84.0	0.0	18.0
	7	上秋津 4	0.0	0.0	0.0	0.0	88.0	0.0	18.0
	8	稲成	0.0	0.0	0.0	0.0	94.0	0.0	14.0
	9	中芳養 1	0.0	0.0	0.0	0.0	84.0	0.0	18.0
	10	中芳養 2	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	0.0	6.0
	11	津志野	2.0	3.0	0.0	0.0	96.0	1.0	4.0
	12	秋津川 1	0.0	0.0	0.0	0.0	94.0	0.0	8.0
	13	秋津川 2	0.0	0.0	0.0	0.0	76.0	0.0	4.0
	14	秋津川 3	0.0	0.0	0.0	0.0	94.0	0.0	8.0
	15	上芳養 1	0.0	0.0	0.0	0.0	98.0	0.0	8.0
	16	上芳養 2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	4.0
	17	上芳養 3	0.0	0.0	0.0	0.0	88.0	0.0	0.0
	平均		0.0	0.1	0.0	0.0	84.8	0.0	7.0
	発生ほ場数		1		0		44	1	37
	発生ほ場率 (%)		2.3		0.0		100.0	2.3	84.1

(2) 6月調査 (6月5、6日)  
調査品種：南高

2024年

市町村	調査場所		黒星病		かいよう病		うどんこ病	灰色かび病	ウチロカガラムシ	ハダニ類		コスガハ	アブラムシ類
	圃No.	字名	発病果率	発病度	発病果率	発病度				発病果率	発病果率		
みなべ町	1	東岩代 1	1.0	0.2	3.0	0.5	0.0	0.0	24.0	1.0	1.0	0.0	0.0
	2	東岩代 2	1.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	3.0	3.0	0.0	0.0
	3	東岩代 3	8.0	1.7	1.0	0.2	0.0	0.0	6.0	27.0	57.0	0.0	0.0
	4	東本庄 1	-	-	-	-	-	-	6.0	9.0	10.0	0.0	0.0
	5	東本庄 2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6	東本庄 3	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	38.0	76.0	0.0	0.0
	7	西本庄 1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	8	西本庄 2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	10.0	16.0	1.0	0.0
	9	西本庄 P 1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	41.0	98.0	0.0	0.0
	10	西本庄 P 2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	3.0	3.0	0.0	0.0
	11	西本庄 P 3	-	-	-	-	-	-	8.0	5.0	7.0	0.0	0.0
	12	井戸が谷	0.0	0.0	3.0	0.5	0.0	0.0	12.0	6.0	18.0	0.0	0.0
	13	埴田 1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	12.0	47.0	149.0	0.0	0.0
	14	埴田 2	-	-	-	-	-	-	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0
	15	晩稲 1	0.0	0.0	2.0	0.3	0.0	3.0	16.0	57.0	272.0	0.0	0.0
	16	晩稲 2	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	0.0	14.0	30.0	68.0	0.0	0.0
	17	晩稲 3	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	0.0	14.0	65.0	245.0	0.0	0.0
	18	晩稲 4	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	36.0	137.0	0.0	0.0
	19	晩稲 5	-	-	-	-	-	-	6.0	21.0	61.0	0.0	0.0
	20	岩代 P 1	0.0	0.0	6.0	1.2	0.0	0.0	4.0	3.0	3.0	1.0	0.0
	21	岩代 P 2	-	-	-	-	-	-	4.0	0.0	0.0	2.0	0.0
	22	高城 1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	15.0	38.0	1.0	0.0
	23	高城 2	-	-	-	-	-	-	0.0	2.0	2.0	4.0	0.0
	24	高城 3	-	-	-	-	-	-	0.0	4.0	7.0	0.0	0.0
	25	清川 1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	26	清川 2	-	-	-	-	-	-	0.0	31.0	104.0	6.0	0.0
	27	清川 3	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0
田辺市	1	下三栖 1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	14.0	1.0	3.0	2.0	0.0
	2	下三栖 2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	6.0	0.0	2.0
	3	下三栖 3	-	-	-	-	-	-	16.0	13.0	46.0	0.0	0.0
	4	上秋津 1	-	-	-	-	-	-	0.0	42.0	131.0	5.0	0.0
	5	上秋津 2	-	-	-	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
	6	上秋津 3	0.0	0.0	2.0	0.5	0.0	0.0	18.0	28.0	111.0	0.0	0.0
	7	上秋津 4	-	-	-	-	-	-	4.0	11.0	17.0	2.0	0.0
	8	稲成	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	1.0	4.0	38.0	188.0	0.0	0.0
	9	中芳養 1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	中芳養 2	2.0	0.3	1.0	0.2	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	津志野	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	1.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	12	秋津川 1	2.0	0.3	6.0	1.0	0.0	0.0	8.0	24.0	44.0	0.0	0.0
	13	秋津川 2	5.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	秋津川 3	0.0	0.0	6.0	1.0	0.0	1.0	14.0	9.0	12.0	1.0	0.0
	15	上芳養 1	1.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	113.0	2.0	0.0
	16	上芳養 2	0.0	0.0	4.0	0.8	0.0	0.0	0.0	6.0	13.0	7.0	0.0
	17	上芳養 3	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	1.0	0.0	3.0	5.0	0.0	1.0
	平均		0.8	0.2	1.2	0.2	0.0	0.3	6.4	15.4	47.0	0.8	0.2
	発生ほ場数		12		13		0	8	28	35		12	3
	発生ほ場率 (%)		37.5		40.6		0.0	25.0	63.6	79.5		27.3	6.8